

茨城町子ども・子育て支援事業に関する
ニーズ調査
【集計結果報告書】



令和6年3月

茨城町

目次

1	調査の内容	．．．．．	P 1
2	調査結果の概要	．．．．．	P 2
3	調査結果（1.就学前児童）	．．．．．	P 22
	調査結果（2.小学生）	．．．．．	P 65

1 調査の内容

(1) 調査の目的

本町では、子ども・子育て支援法に基づく新たな子ども・子育て支援の制度の下で、教育・保育・子育て支援の充実を図るため、「茨城町第3期子ども・子育て支援事業計画」（令和7年度からの5か年間）を策定します。

本アンケート調査は、小学生以下のお子さんのいる保護者に、教育・保育サービスの利用意向や子育て支援に関するニーズなどを把握し、計画づくりの基礎資料とするために実施しました。

(2) 調査対象及び回収結果

令和6年2月に以下の対象者にアンケートを実施しました。それぞれの調査数及び回収率です。

No	調査対象	調査数	調査方法	対象者	有効回収 ^{※1} 票数 と有効回収率	WEB 回答数・ 回答率 ^{※2}
1	就学前児童世帯 (保護者)	814	郵送配付 (WEBでも 回答可能)	小学校6年 生以下全 ての世帯	598 73.5%	320 39.3%
2	小学生世帯 (保護者)	644			542 84.2%	359 55.7%

※1:有効回収とは、集計対象に含められた回収分のこと。

※2:WEB 回答率は、調査数に対する WEB 回答の比率。

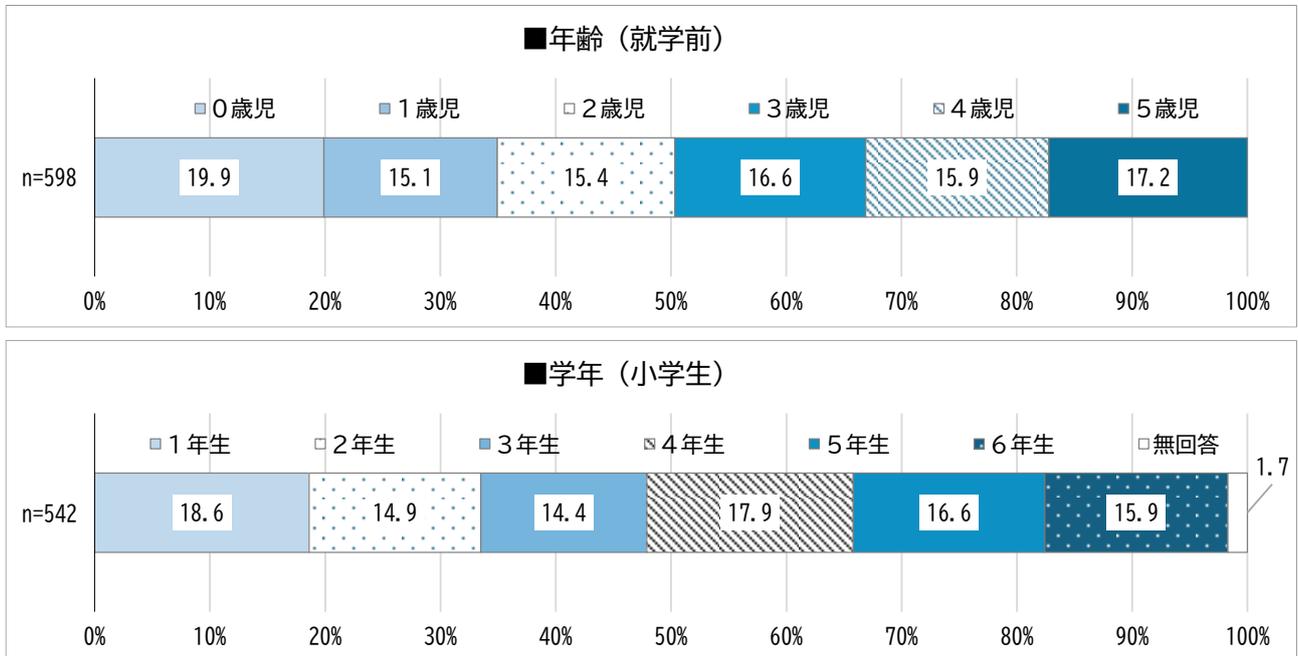
(3) 本報告書の留意事項

- ・設問のなかには前問に答えた人のみが答える「限定設問」があり、その設問においては表中の「回答者数」が全体より少なくなっています。
- ・設問には1つのみ答える単数回答と、「3つまで」、「あてはまるものすべて」などの回答を求める複数回答があり、複数回答の設問では、表記の割合の合計が100%を超えます。
- ・回答結果の割合(%)は、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、合計値が100%にならない場合があります。
- ・複数回答の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示していません。そのため、合計が100%にならない場合があります。
- ・グラフ及び表の「n」は、集計対象者数を表しています。
- ・設問ごとの回答の有無により、全体集計とクロス集計の「n」が一致しない場合があります。
- ・設問ごとの回答の有無により、グラフ及びクロス集計の表側に含めない場合があります。
- ・円・棒グラフ等のグラフの種類については見やすさを優先し、種類の統一はしていません。
- ・前回調査の結果との比較については、比較可能なもの及び比較が有意なものに限り掲載しています。
- ・選択肢の文章が長い場合、グラフ及び表中で簡略化した表現を用いる場合があります。

2 調査結果の概要

(1) 子どもの状況

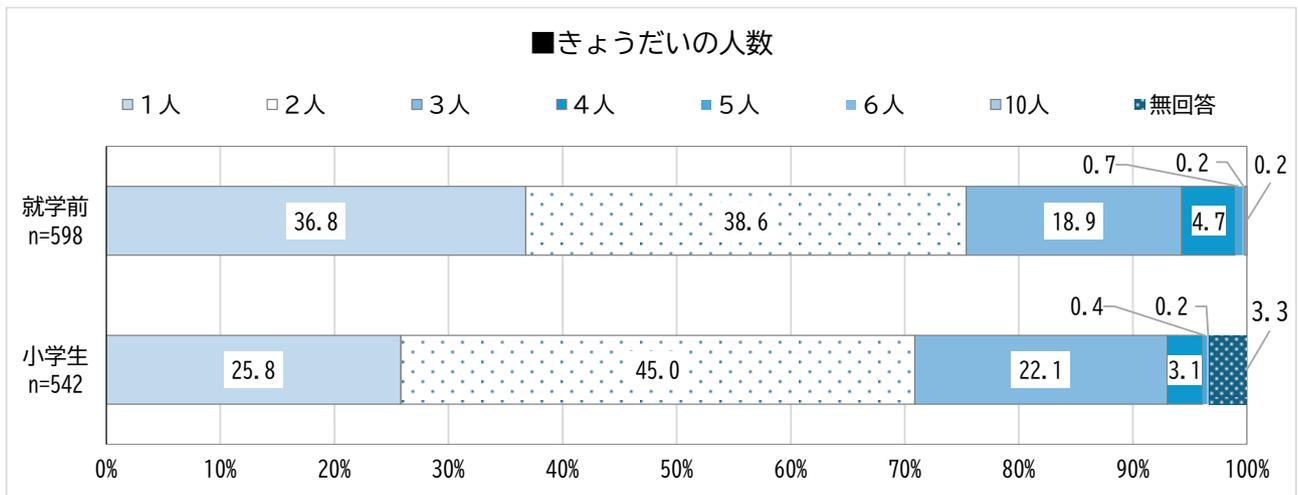
●年齢及び学年



調査対象の就学前児童の年齢は、0歳児から5歳児までの各年齢とも2割弱となっており、一部の年齢への偏りはみられません。

調査対象の小学生の学年は、1年生から6年生までの各学年が1割強から2割弱となっており、一部の学年への偏りはみられません。

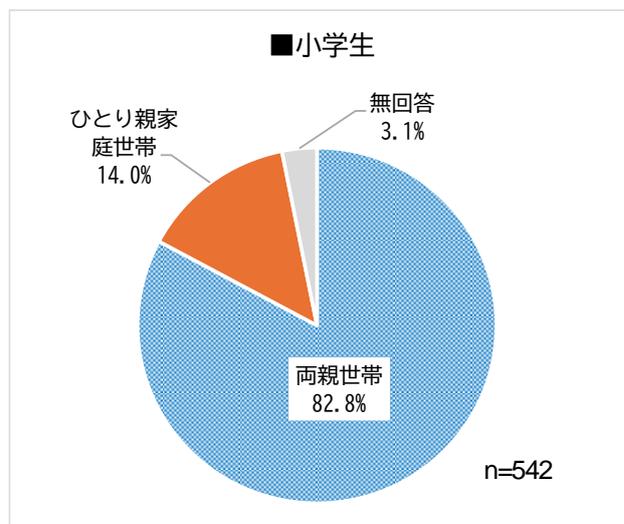
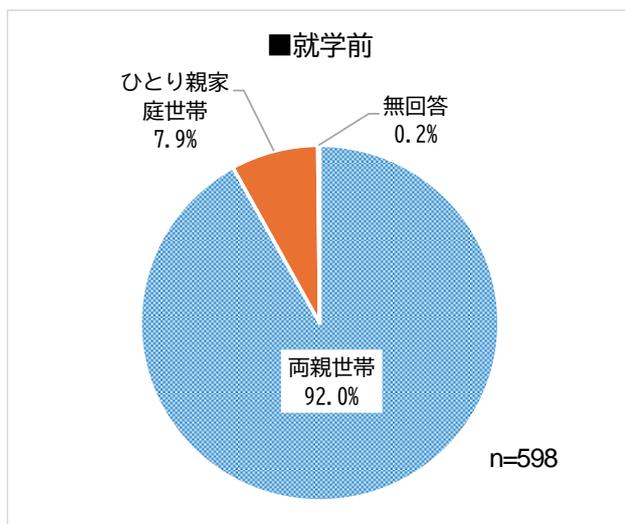
●きょうだいの人数



きょうだい何人いるかについては、就学前児童、小学生ともに「2人」が最も多く、次いで「1人」、「3人」の順となっています。

(2) 家族の状況

●世帯類型

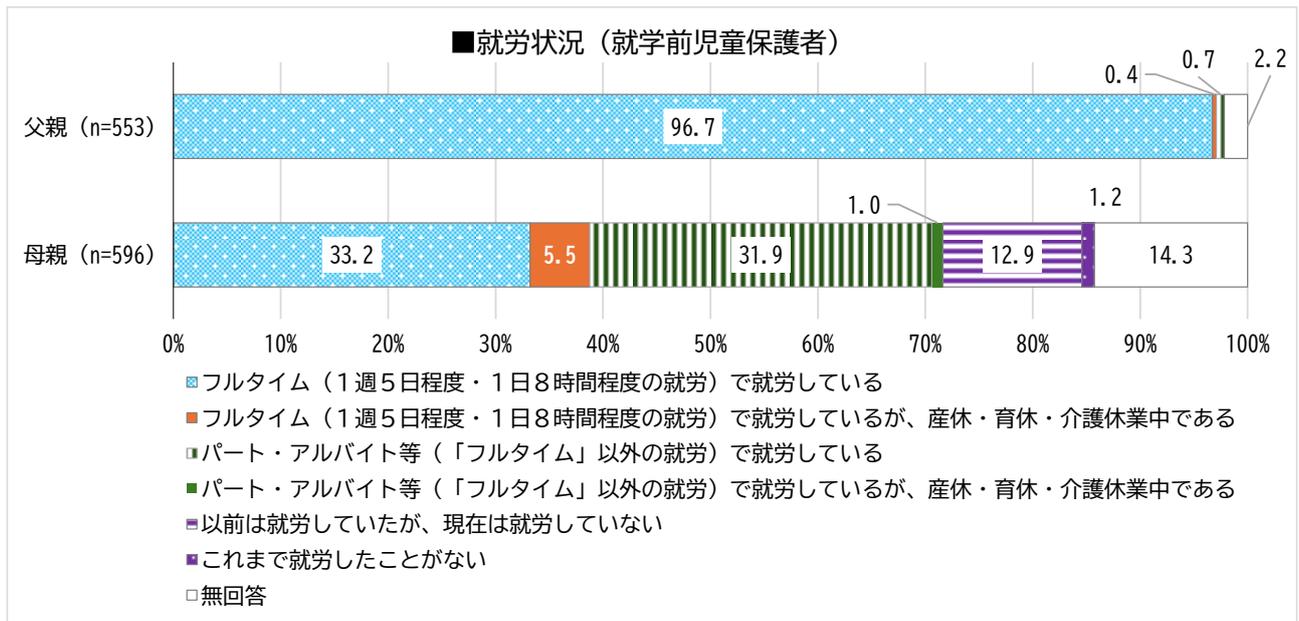


就学前児童保護者のうち、「配偶者はいない」と回答したのは、母親が7.5%、父親が0.3%となっており、合わせて7.9%*が「ひとり親家庭世帯」となっています。

小学生保護者のうち、「母同居(ひとり親家庭)」と回答した保護者が12.4%、「父同居(ひとり親家庭)」と回答した保護者が1.7%となっており、合わせて14.0%*が「ひとり親家庭世帯」となっています。

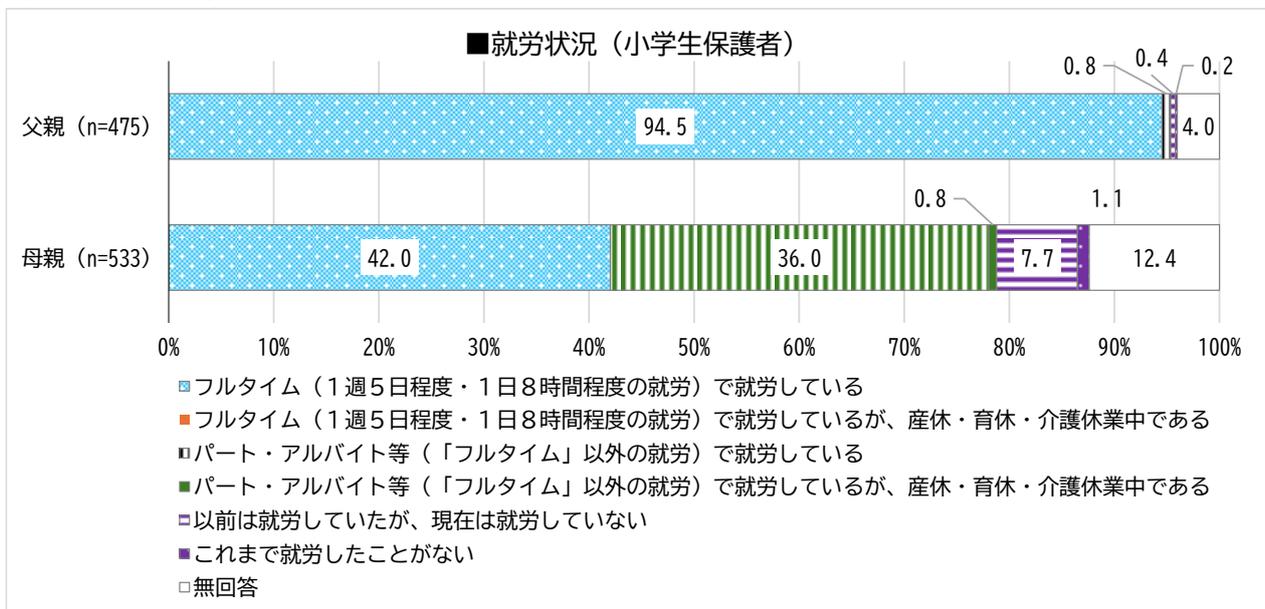
*：少数第二位以下四捨五入のため合計が一致していません。

●就労状況（就学前児童保護者）



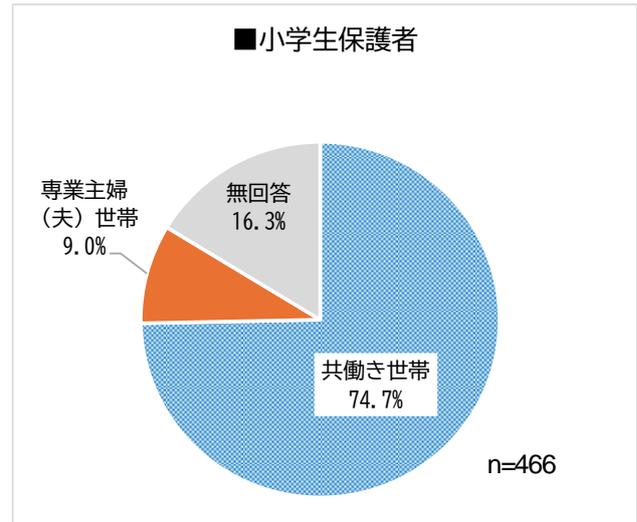
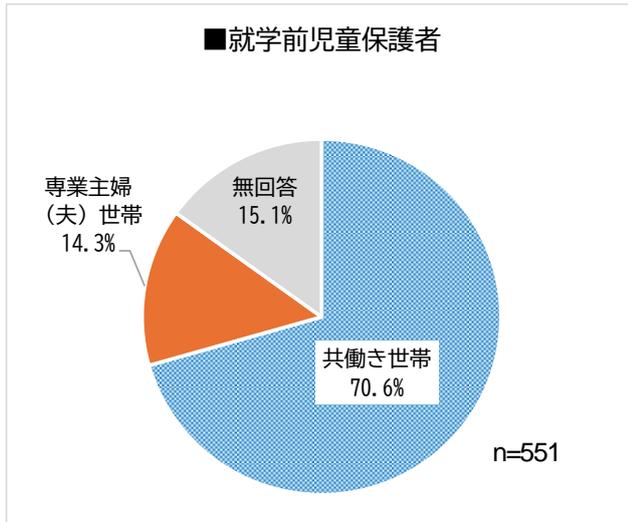
就学前児童保護者の就労状況は、父親は「フルタイムで就労している」が96.7%、「フルタイムで就労しているが、育休等で休業中」が0.4%、「パート・アルバイト等で就労している」が0.7%となっています。母親は、「フルタイムで就労している」が33.2%、「フルタイムで就労しているが、育休等で休業中」が5.5%、「パート・アルバイト等で就労している」が31.9%、「パート・アルバイト等で就労しているが、育休等で休業中」が1.0%となっており、就労している母親は合わせて71.6%となっています。

●就労状況（小学生保護者）



小学生保護者の就労状況は、父親は「フルタイムで就労している」が94.5%、「パート・アルバイト等で就労している」が0.8%となっています。母親は、「フルタイムで就労している」が42.0%、「パート・アルバイト等で就労している」が36.0%、「パート・アルバイト等で就労しているが、育休等で休業中」が0.8%となっており、就労している母親は合わせて78.8%となっています。就学前児童保護者と比べ、フルタイムで就労している母親の割合が若干高くなっています。

●共働きの状況

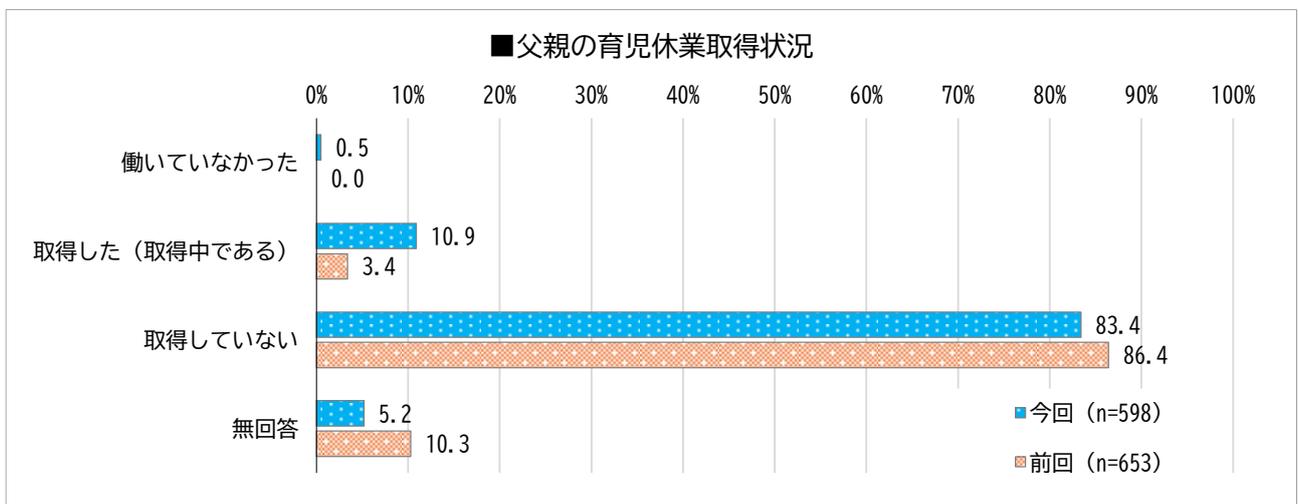
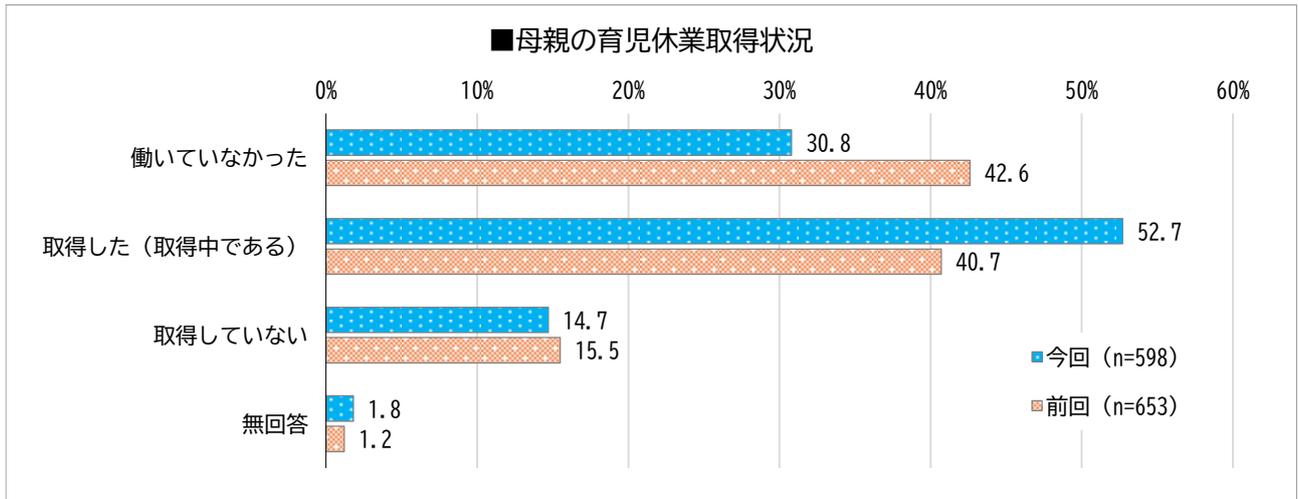


共働きの状況は、就学前児童保護者は、「共働き世帯」が70.6%、「専業主婦(夫)世帯」が14.3%となっています。

小学生保護者は、「共働き世帯」が74.7%、「専業主婦(夫)世帯」が9.0%となっており、就学前児童保護者に比べ、専業主婦(夫)世帯の割合が低下し、共働き世帯の割合が高くなっています。

このことから、子どもが小学生になると、母親の就労が進む可能性がうかがえます。

●育児休業の取得状況（就学前児童保護者のみの設問）



就学前児童保護者の育児休業の取得状況は、母親は、「取得した（取得中である）」が52.7%で、前回よりも12.0ポイント上昇しました。一方、「取得していない」の割合は、14.7%で、前回よりもわずかながら低下しました。

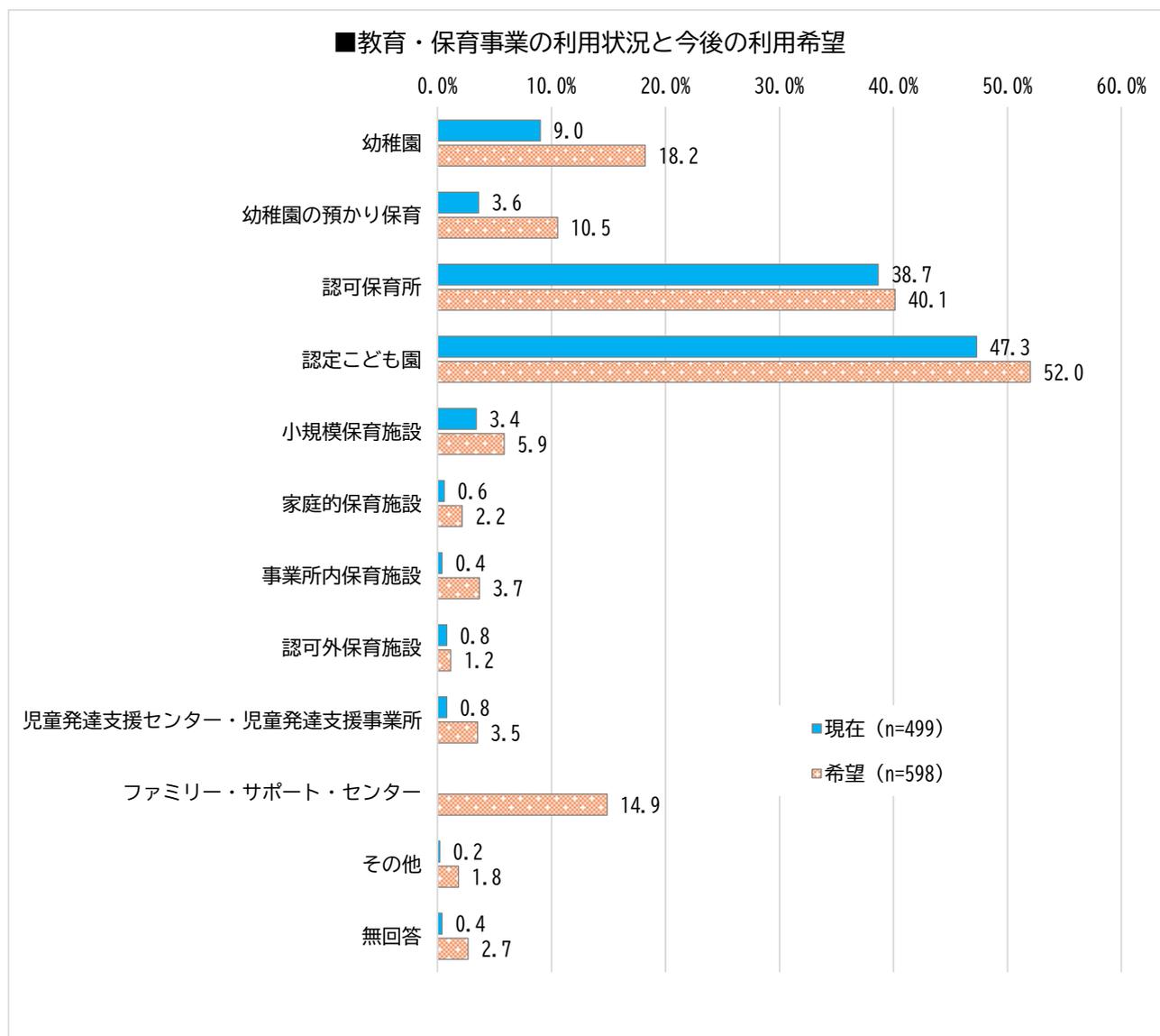
父親は、「取得した（取得中である）」が10.9%で、前回よりも7.5ポイント上昇しました。一方、「取得していない」の割合は、83.4%で、前回よりも3.0ポイント低下しました。

父親の育児休業の取得状況は、前回の割合を上回っていますが、母親に比べ、まだ低い状況となっています。

なお、育児休業取得者の全国平均（令和4年度雇用均等基本調査）は、女性が80.0%、男性が17.1%となっており、男女ともに全国平均を下回る状況となっています。

(3) 教育・保育事業の利用状況と利用希望（就学前児童のみの設問）

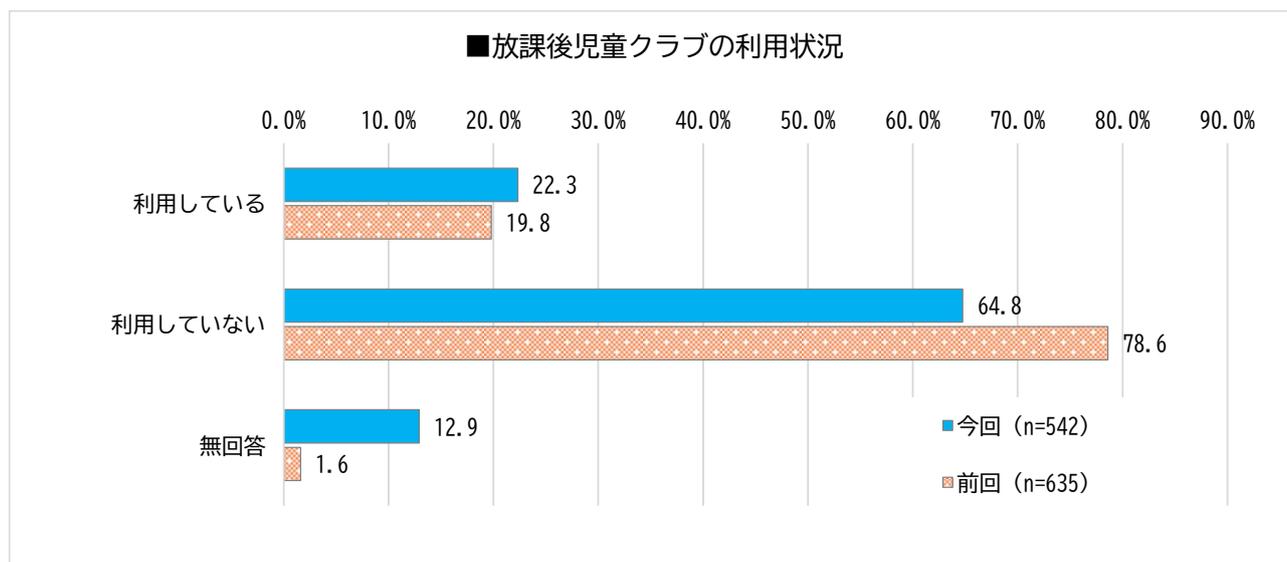
●平日の定期的な教育・保育事業の利用状況と利用希望（就学前児童のみ）



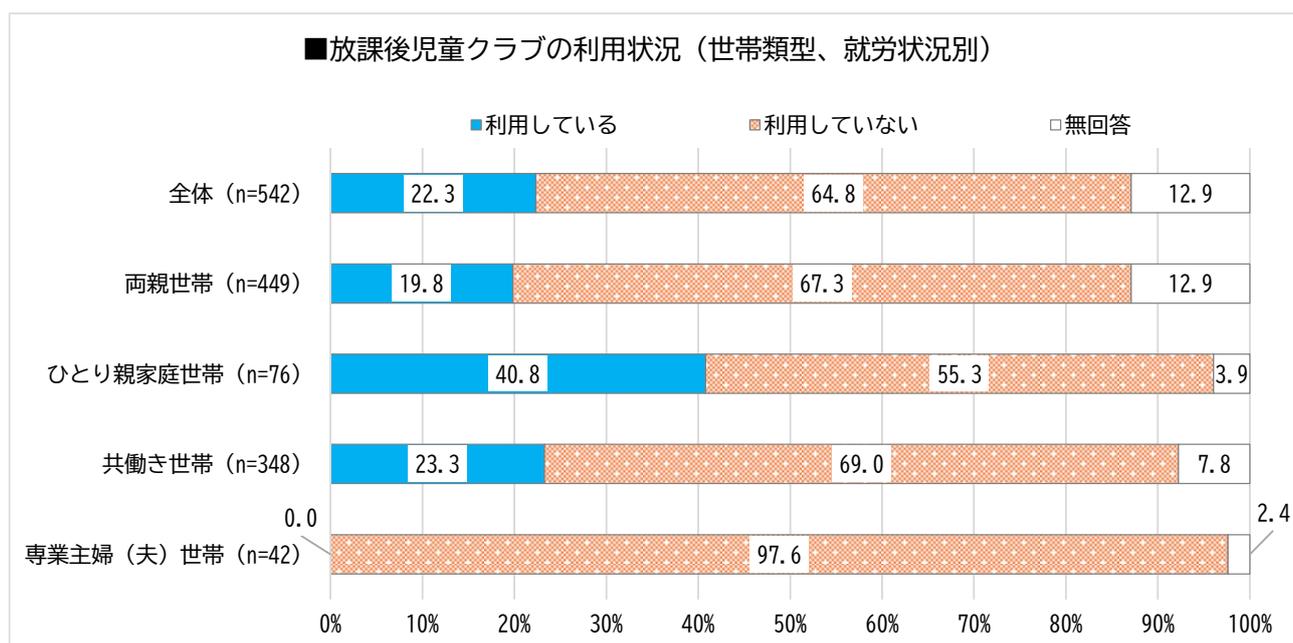
現在利用中の事業と今後利用を希望する事業は、いずれも「認定こども園」の割合が5割弱から5割強で最も高く、次いで、「認可保育所」で4割前後となっています。現在の利用状況と今後の利用希望の差については、すべての事業で希望が利用を上回っていますが、「幼稚園」においてやや差が大きく、利用状況に対して希望が9.2ポイント上回っています。

また、現在、茨城町で実施していない「ファミリー・サポート・センター」の利用希望は14.9%となっています。

(4) 放課後児童クラブの利用状況 (小学生のみの設問)

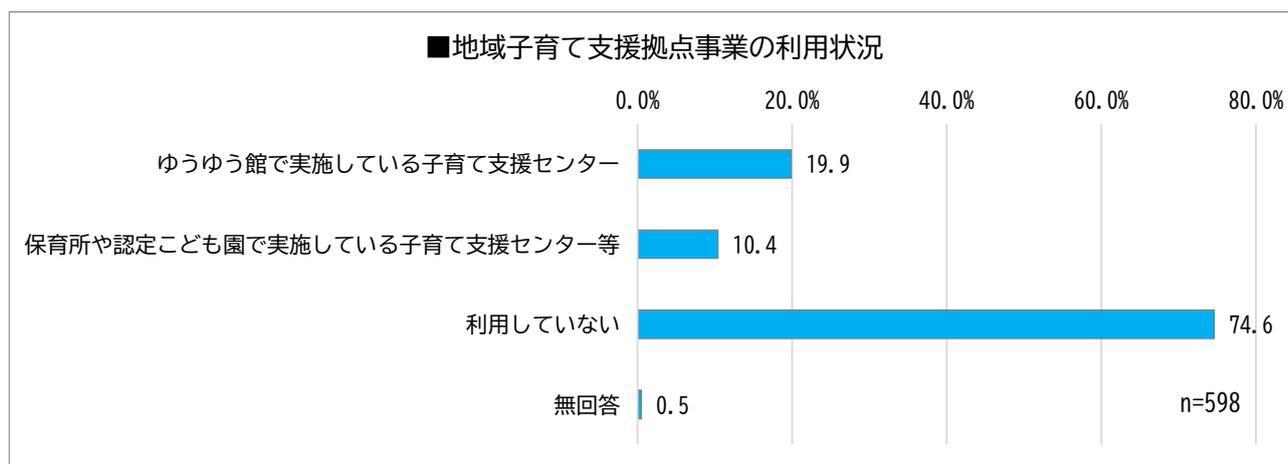


放課後児童クラブの利用状況は、「利用している」が22.3%、「利用していない」が64.8%となっています。前回調査に比べ、「利用している」の割合は、2.5ポイント上昇しています。



世帯類型、就労状況別で見ると、全体に比べ、ひとり親世帯は「利用している」の割合が40.8%と高くなっています。また、共働き世帯も、全体に比べ、「利用している」の割合が若干高くなっています。

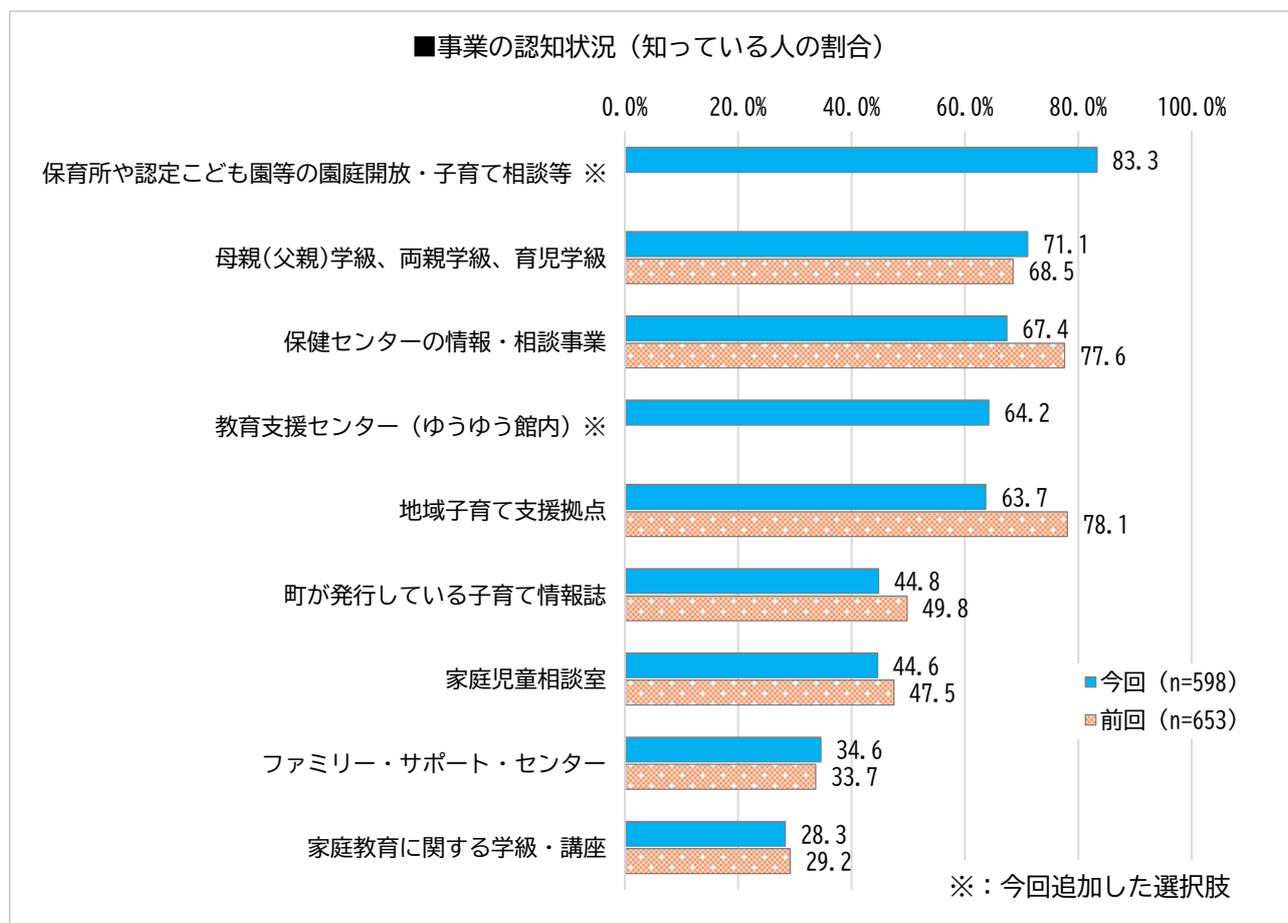
(5) 地域子育て支援拠点事業の利用状況 (就学前児童保護者のみの世帯)



地域子育て支援拠点事業の利用状況は、「ゆうゆう館で実施している子育て支援センター」が19.9%、「保育所や認定こども園で実施している子育て支援センター等」が10.4%となっています。

(6) - ① 各種子育て支援事業の認知状況 (就学前児童保護者のみ)

<知っていますか、との質問に「はい」と回答した人の割合>

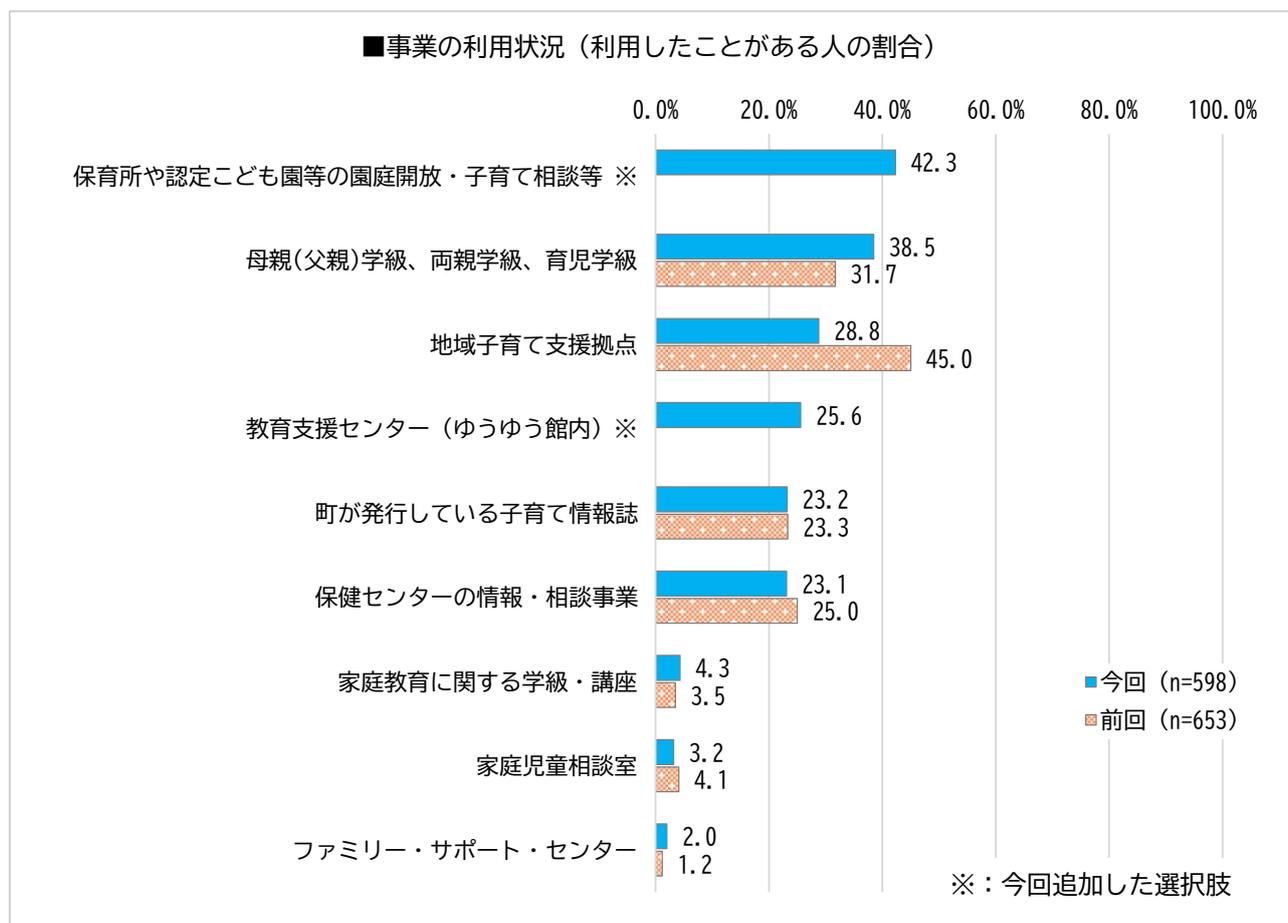


各種子育て支援事業の認知状況について、「知っている」と答えた人の割合は、「保育所や認定こども園等の園庭開放・子育て相談等」が83.3%で最も高く、次いで、「母親(父親)学級、両親学級、育児学級」が71.1%、「保健センターの情報・相談事業」が67.4%となっています。

今回の調査で追加された事業（教育支援センター（「ゆうゆう館内」）、「保育所や認定こども園等の園庭開放・子育て相談等」）を除き、前回の調査よりも認知状況の割合が高くなったのは、「母親(父親)学級、両親学級、育児学級」、「ファミリー・サポート・センター」となっています。

(6) - ② 各種子育て支援事業の利用状況 (就学前児童保護者のみ)

<これまでに利用したことがありますか、との質問に「はい」と回答した人の割合>

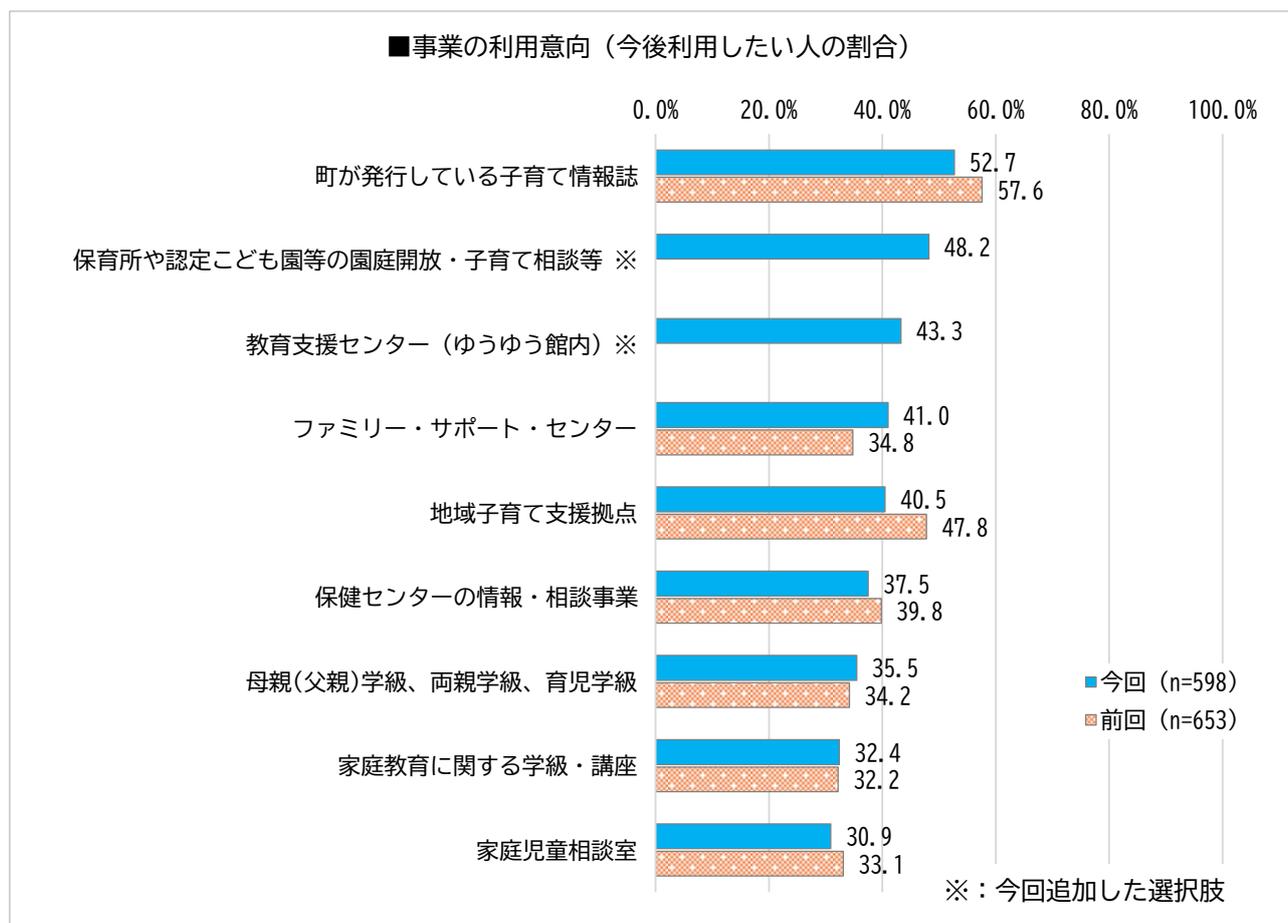


各種子育て支援事業の利用状況について、「利用したことがある」と答えた人の割合は、「保育所や認定こども園等の園庭開放・子育て相談等」が42.3%で最も高く、次いで、「母親(父親)学級、両親学級、育児学級」が38.5%、「地域子育て支援拠点」が28.8%となっています。

今回の調査で追加された事業(教育支援センター(「ゆうゆう館内」)、「保育所や認定こども園等の園庭開放・子育て相談等」)を除き、前回の調査よりも利用している人の割合が高くなったのは、「母親(父親)学級、両親学級、育児学級」、「家庭教育に関する学級・講座」、「ファミリー・サポート・センター」となっています。

(6) - ③ 各種子育て支援事業の利用意向 (就学前児童保護者のみ)

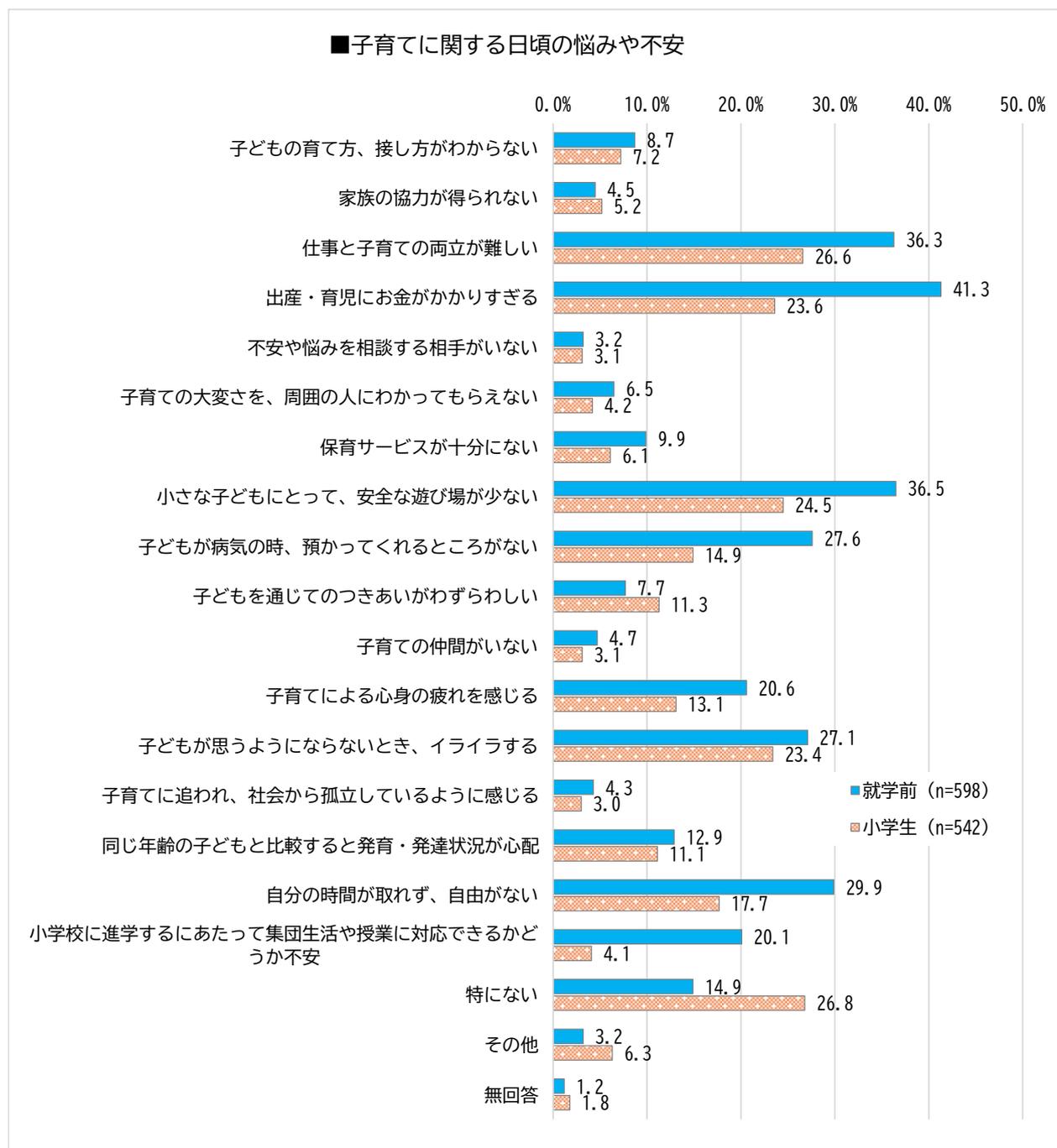
<今後利用したいですか、との質問に「はい」と回答した人の割合>



各種子育て支援事業の利用意向について、「今後利用したい」と答えた人の割合は、「町が発行している子育て情報誌」が52.7%で最も高く、次いで、「保育所や認定こども園等の園庭開放・子育て相談等」が48.2%、「教育支援センター (ゆうゆう館内)」が43.3%となっています。

今回の調査で追加された事業 (教育支援センター (「ゆうゆう館内」)、「保育所や認定こども園等の園庭開放・子育て相談等」)を除き、前回の調査よりも今後利用したいとする人の割合が高くなったのは、「ファミリー・サポート・センター」、「母親(父親)学級、両親学級、育児学級」で、「家庭教育に関する学級・講座」はほぼ同率となっています。

(7) 子育てに関する日頃の悩みや不安 (今回新設した設問)



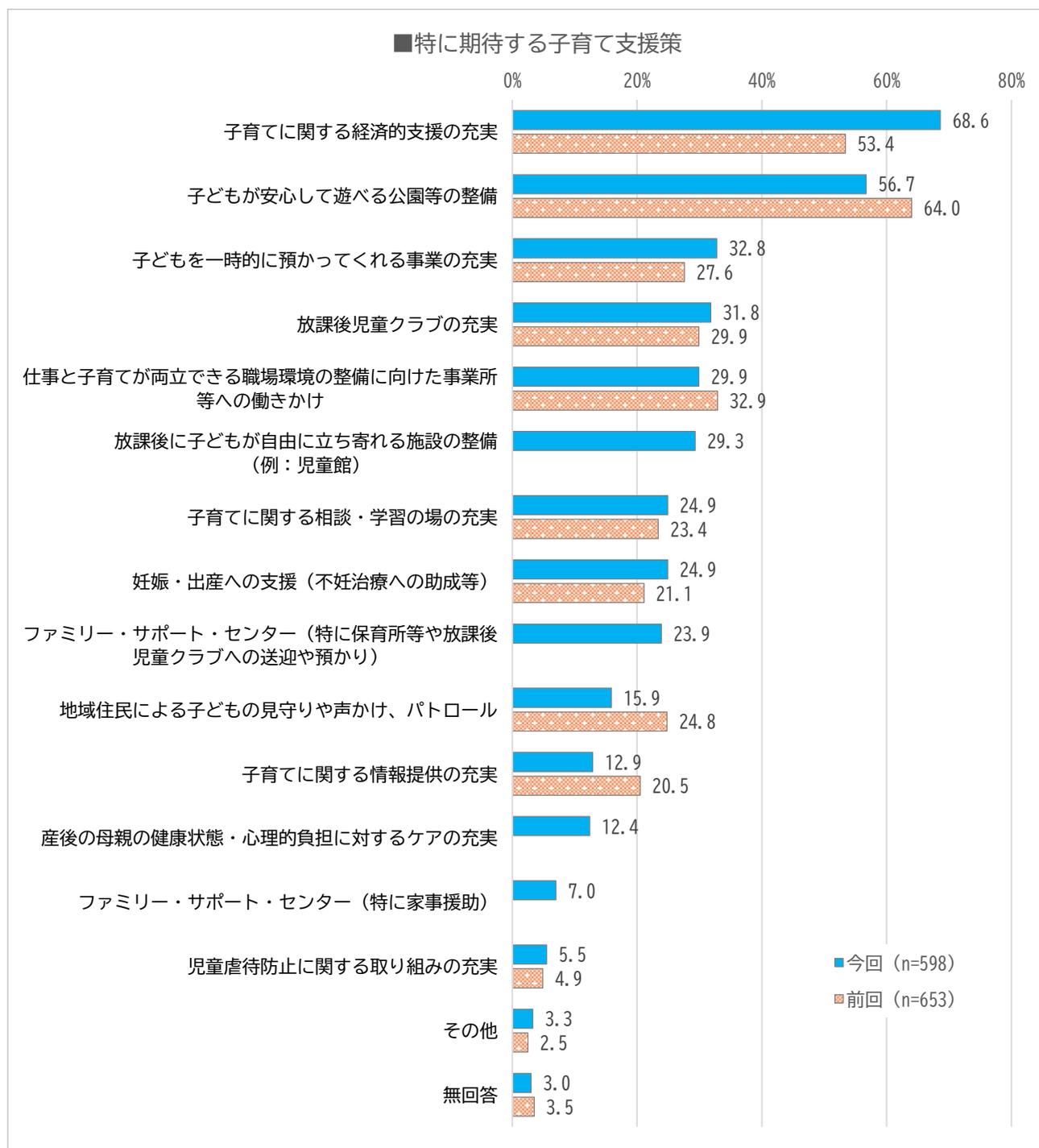
子育てに関して日頃悩んでいること、また不安や負担、気になることについての割合は、就学前児童保護者は「出産・育児にお金がかかりすぎる」が41.3%で最も高く、次いで、「小さな子どもにとって、安全な遊び場が少ない」が36.5%、「仕事と子育ての両立が難しい」が36.3%となっています。

小学生保護者は、「仕事と子育ての両立が難しい」が26.6%で最も高く、次いで、「小さな子どもにとって、安全な遊び場が少ない」が24.5%、「出産・育児にお金がかかりすぎる」が23.6%となっています。

「子どもを通じてのつきあいがわずらわしい」、「特にない」、「その他」以外の悩みや不安等については、就学前保護者の方が小学生保護者よりも高くなっています。

(8) 子育て支援策として特に期待し、重要だと思うこと（就学前児童保護者のみ）

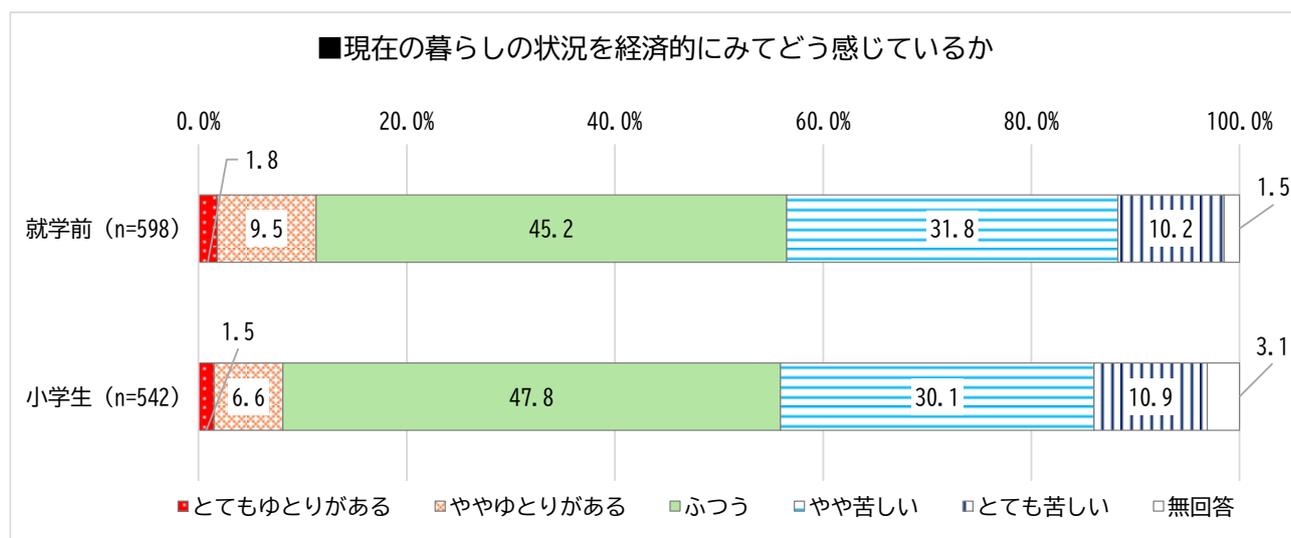
※選択肢が同一の項目のみ、前回調査の結果を掲載（選択肢が異なるため、単純な比較はできません）



子育て支援策として、特に期待すること、重要だと思うことについての割合は、「子育てに関する経済的支援の充実」が68.6%で最も高く、次いで、「子どもが安心して遊べる公園等の整備」が56.7%、「子どもを一時的に預かってくれる事業の充実」が32.8%となっています。

なお、「子育てに関する経済的支援の充実」は、前回に比べ、15.2ポイント高くなっています。

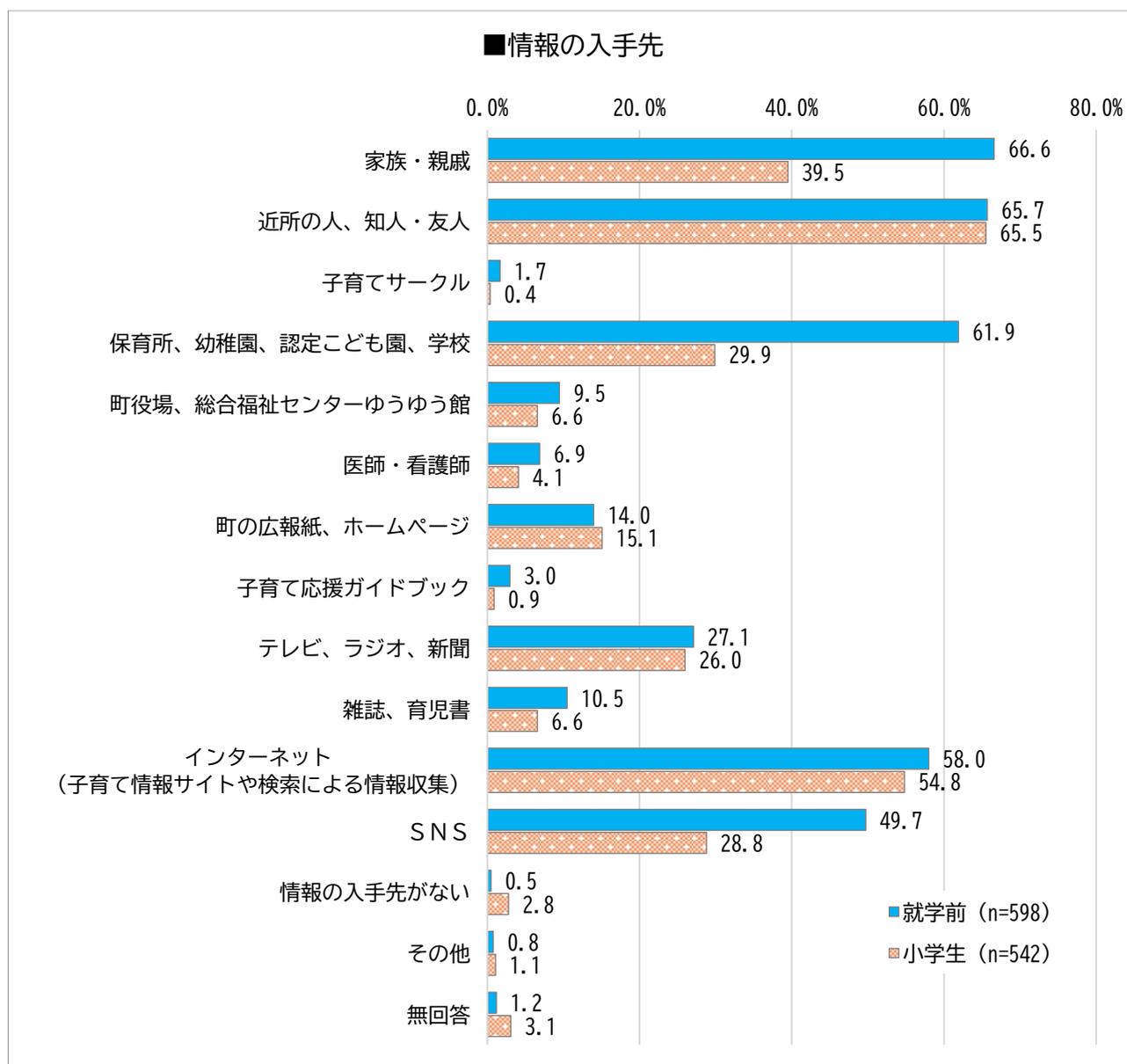
(9) 経済的にみた現在の暮らしの状況 (今回新設した設問)



現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じているかの割合は、就学前児童保護者、小学生保護者ともに「ふつう」が5割弱で高くなっています。

「とてもゆとりがある」と「ややゆとりがある」を合わせた「ゆとりがある」とする割合は、就学前保護者が11.3%、小学生保護者が8.1%となっています。一方、「やや苦しい」と「とても苦しい」を合わせた「苦しい」とする割合は、就学前児童保護者が42.0%、小学生保護者が41.0%となっています。

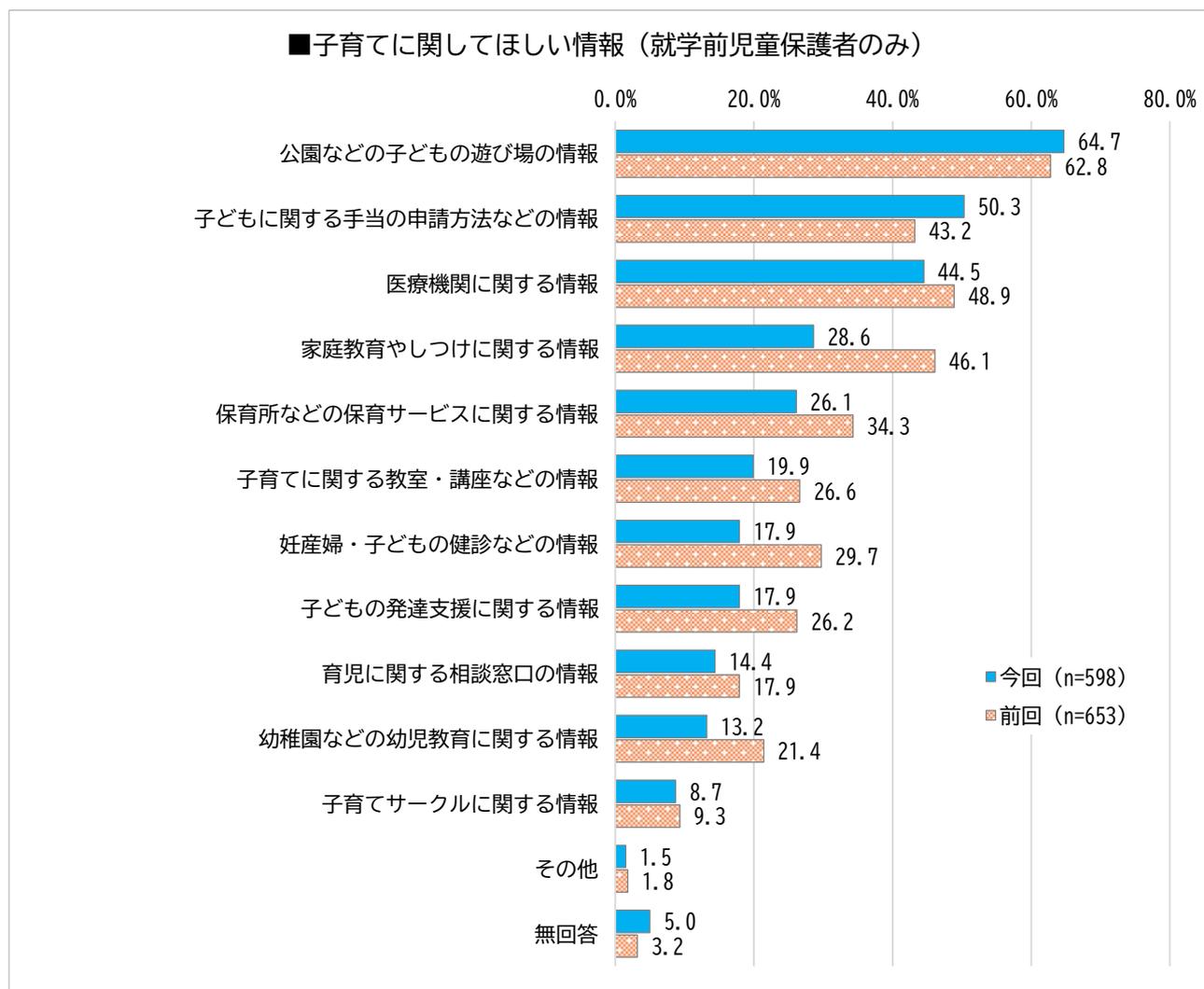
(10) 子育てに関する情報の入手先



子育てに関する情報をどこから入手しているかの割合は、就学前児童保護者は、「家族・親戚」が66.6%で最も高く、次いで、「近所の人、知人・友人」が65.7%、「保育所、幼稚園、認定こども園、学校」が61.9%となっています。

小学生保護者は、「近所の人、知人・友人」が65.5%で最も高く、次いで、「インターネット（子育て情報サイトや検索による情報収集）」が54.8%、「家族・親戚」が39.5%となっています。

(11) 子育てに関してほしい情報（就学前児童保護者のみ）

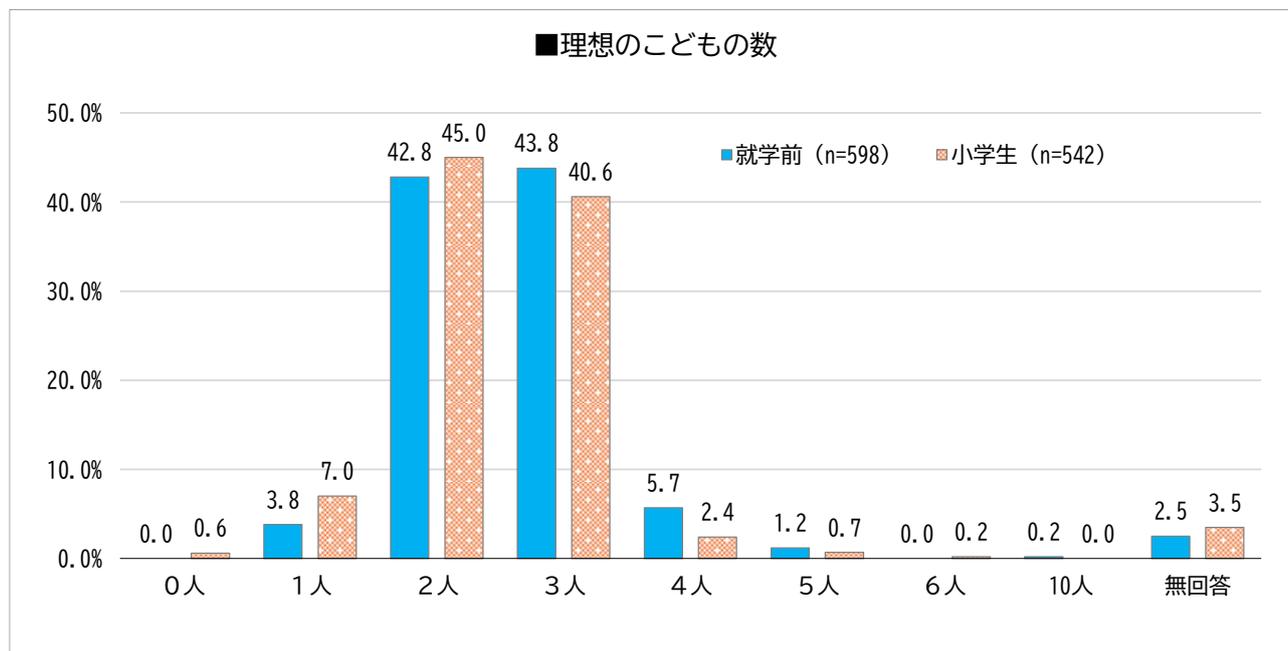


子育てに関してどのような情報がほしいかの割合について、就学前児童保護者は、「公園などの子どもの遊び場の情報」が64.7%で最も高く、次いで、「子どもに関する手当の申請方法などの情報」が50.3%、「医療機関に関する情報」が44.5%となっています。

この中で、「子どもに関する手当の申請方法などの情報」については、前回に比べて7.1ポイント高くなっています。

(12) 理想の子どもの数

<理想的な子どもの数は何人かを聞きました>

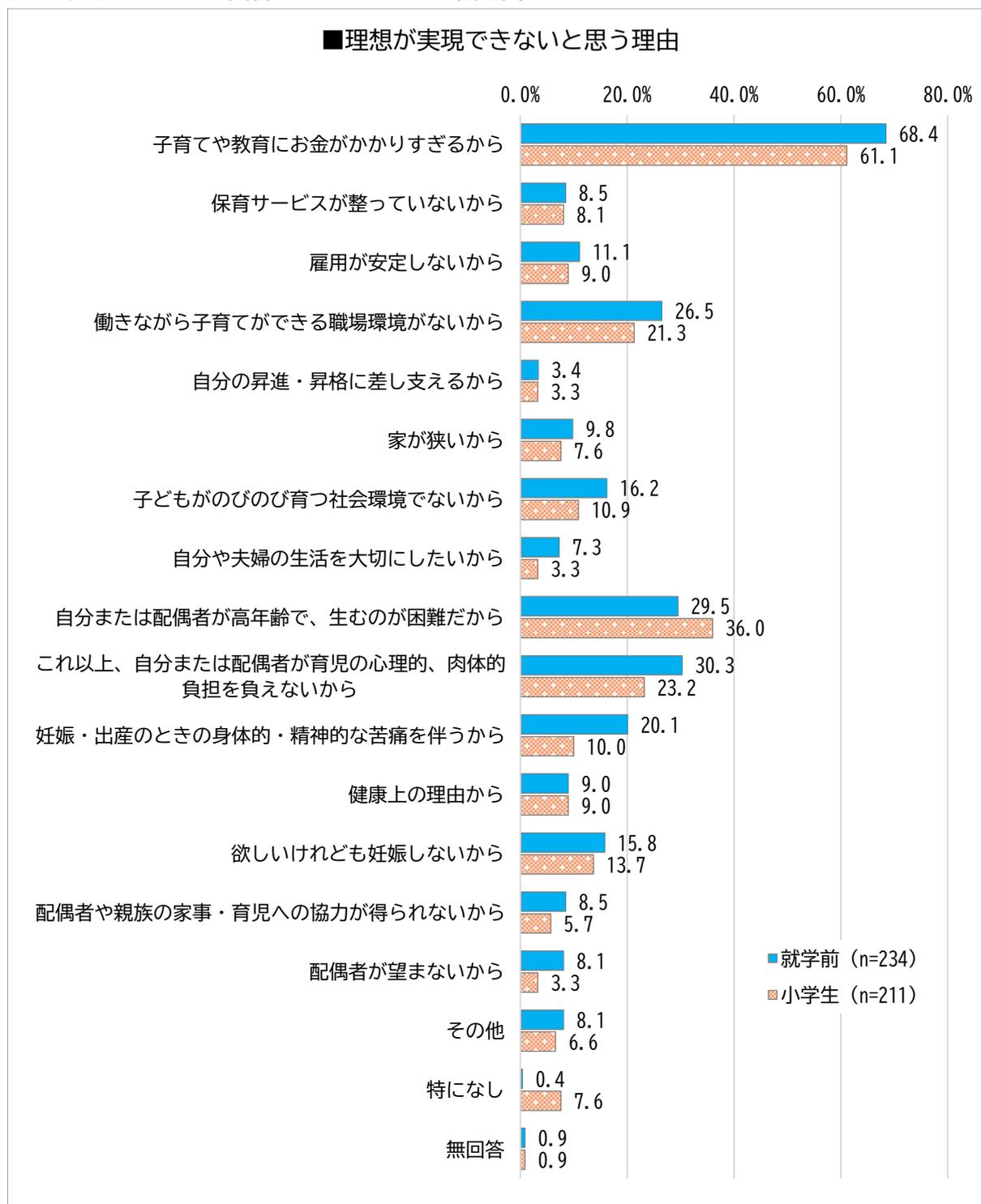


理想とする子どもの数について、就学前児童保護者は、「3人」が最も多く、次いで「2人」となっており、合わせて9割弱を占めます。小学生保護者は、「2人」が最も多く、次いで、「3人」となっており、合わせて9割弱を占めます。

一方、今回の調査における現実の子どもの数は、就学前では「2人」が4割弱で最も多く、次いで、「1人」が4割弱、「3人」が2割弱となっています。理想とする「3人」と「2人」について、現実では合わせて6割弱となっており、差がみられます。

小学生では現実の子どもの数は「2人」が4割半ばで最も多く、次いで、「1人」が2割半ば、「3人」が2割強となっています。理想とする「2人」と「3人」について、現実では合わせて7割弱となっており、就学前よりも縮まりますが、理想と現状の差がみられます。

<理想は実現できないと回答した人に、その理由を聞きました>

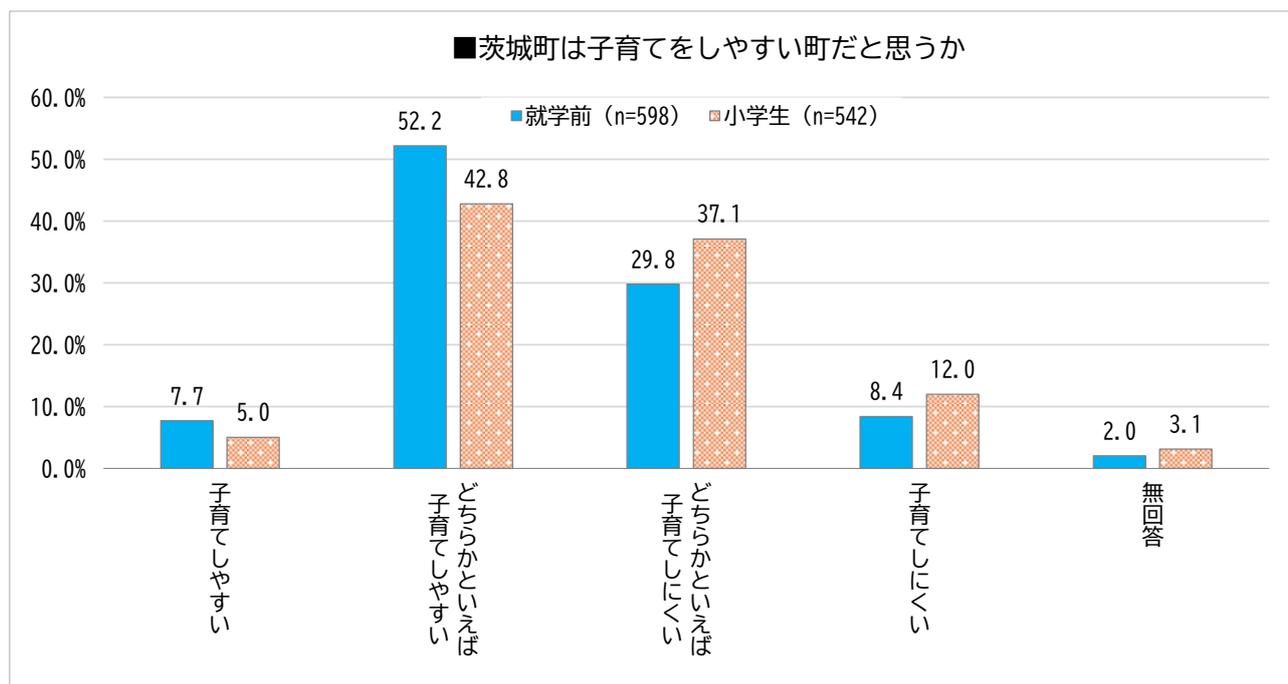


理想の子どもの数が現在の子どもの数よりも多い人に、理想的な子どもの数は実現できるかをたずね、「実現できないと思う」と回答した人に、その理由を聞きました。

就学前児童保護者、小学生保護者ともに、「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」の割合が6割を超え、最も高くなっています。就学前児童保護者は、次いで、「これ以上、自分または配偶者が育児の心理的、肉体的負担を負えないから」が30.3%、「自分または配偶者が高齢で、生むのが困難だから」が29.5%となっています。小学生保護者は、次いで、「自分または配偶者が高齢で、生むのが困難だから」が36.0%、「これ以上、自分または配偶者が育児の心理的、肉体的負担を負えないから」が、23.2%となっています。

(13) 茨城町の子育てのしやすさ (評価)

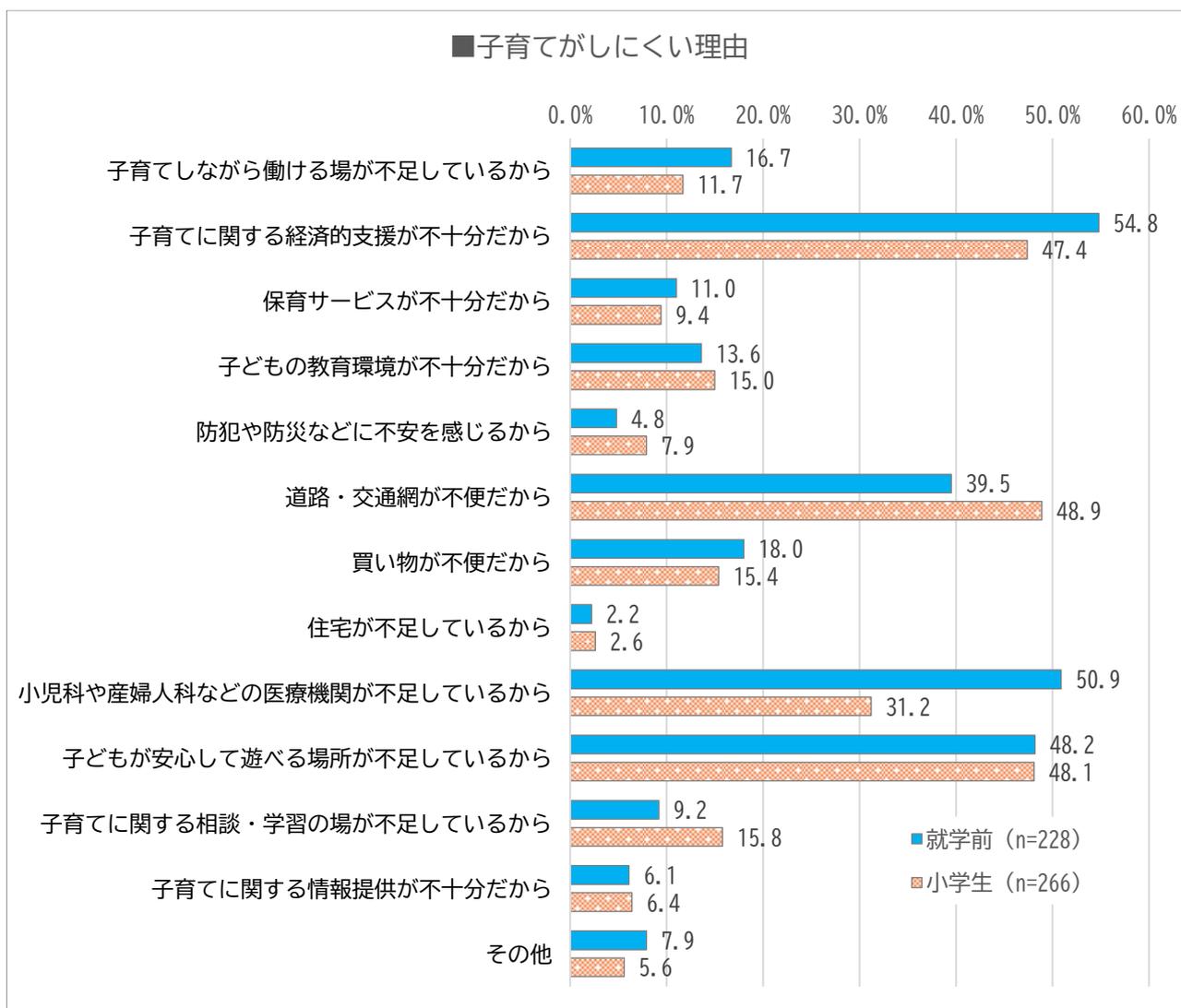
<茨城町は子育てをしやすいまちだと思いかを聞きました>



茨城町の子育てのしやすさの割合について、就学前児童保護者、小学生保護者ともに、「どちらかといえば子育てしやすい」が最も高くなっています。「子育てしやすい」と「どちらかといえば子育てしやすい」を合わせた「子育てしやすい」とする割合は、就学前児童保護者が 59.9%、小学生保護者が 50.8% となります。一方、「どちらかといえば子育てしにくい」と「子育てしにくい」を合わせた「子育てしにくい」とする割合は、就学前児童保護者は 38.2%、小学生保護者が 49.1% となります。

就学前児童保護者は、6割弱が「子育てしやすい」、4割弱が「子育てしにくい」と回答し、小学生保護者は約5割が「子育てしやすい」、5割弱が「子育てしにくい」と回答しており、就学前児童保護者の方が1割程度、高評価の割合が高くなっています。

<「どちらかといえば子育てしにくい」「子育てしにくい」に○をつけた方に、理由を聞きました>



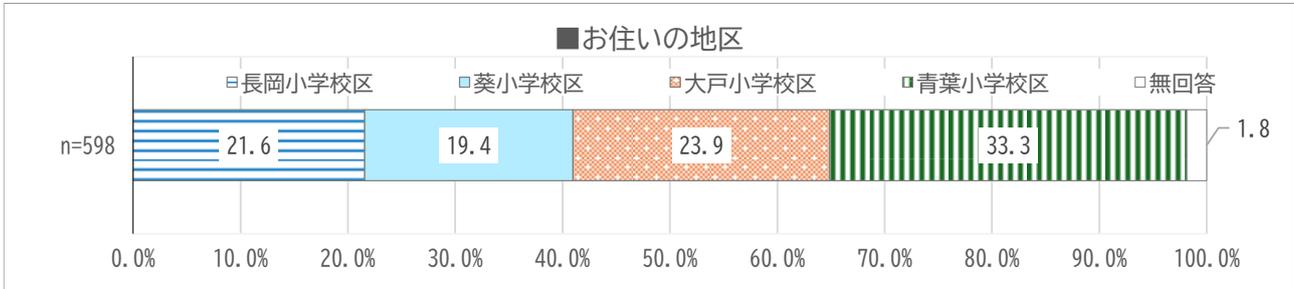
茨城町について「どちらかといえば子育てしにくい」と「子育てしにくい」と答えた人に、その理由を聞いたところ、就学前児童保護者は、「子育てに関する経済的支援が不十分だから」が54.8%で最も高く、次いで、「小児科や産婦人科などの医療機関が不足しているから」が50.9%となっており、半数以上が理由として挙げています。次いで、「子どもが安心して遊べる場所が不足しているから」が48.2%で半数近くとなっています。

小学生保護者は、「道路・交通網が不便だから」が48.9%で最も高く、次いで、「子どもが安心して遊べる場所が不足しているから」が48.1%、「子育てに関する経済的支援が不十分だから」が47.4%となっており、いずれも半数近くの人が理由として挙げています。

3 調査結果（1. 就学前児童）

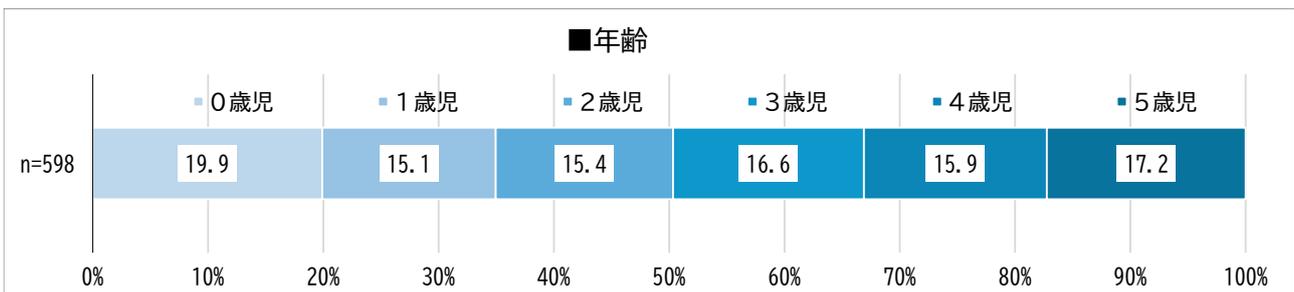
（1）住んでいる地域について

問 お住まいの地区名について、あてはまるものをお答えください。

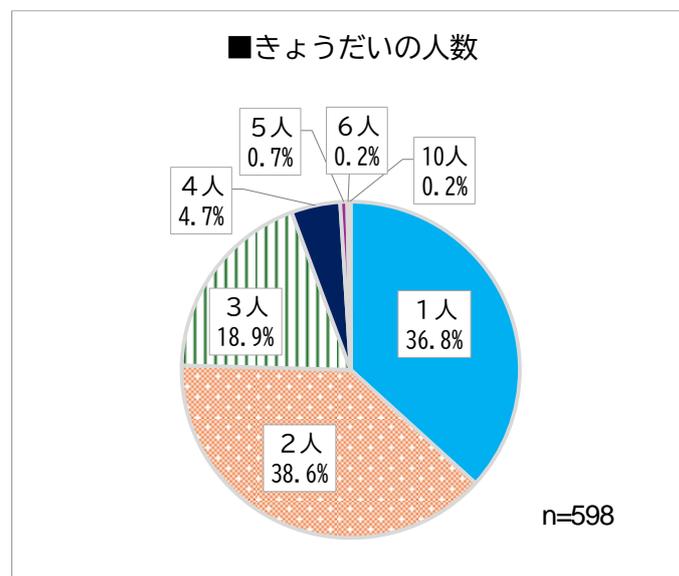


（2）子どもと家族の状況について

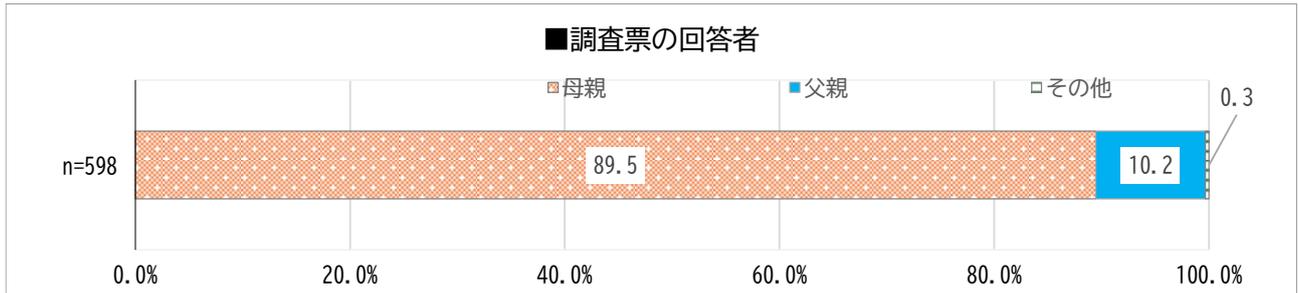
問 宛名のお子さんの生年月をお答えください。



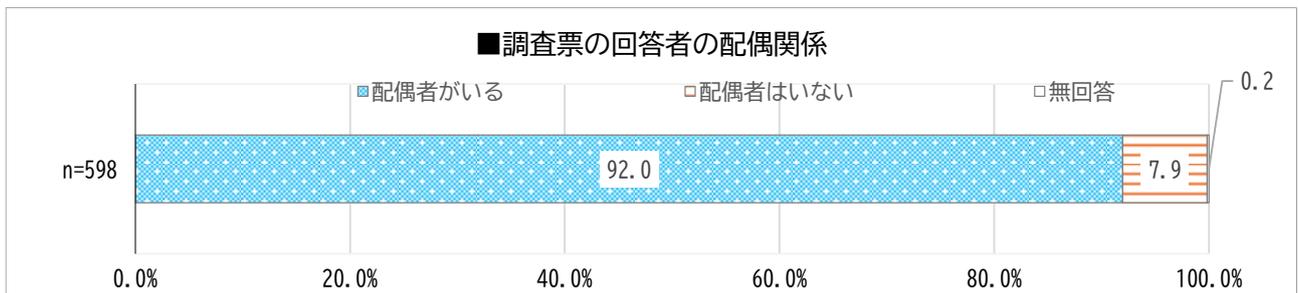
問 宛名のお子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。宛名のお子さんを含めた人数をお答えください。



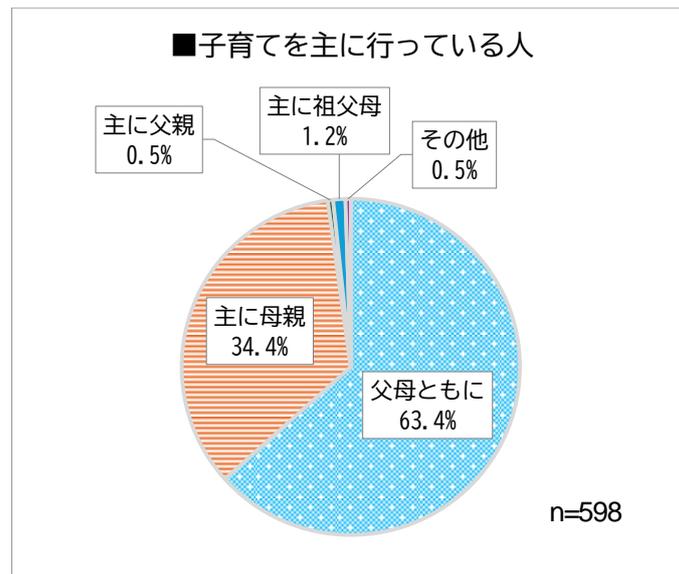
問 この調査にご回答いただく方はどなたですか。宛名のお子さんから見た関係でお答えください。



問 この調査票にご回答いただいている方の配偶関係についてお答えください。

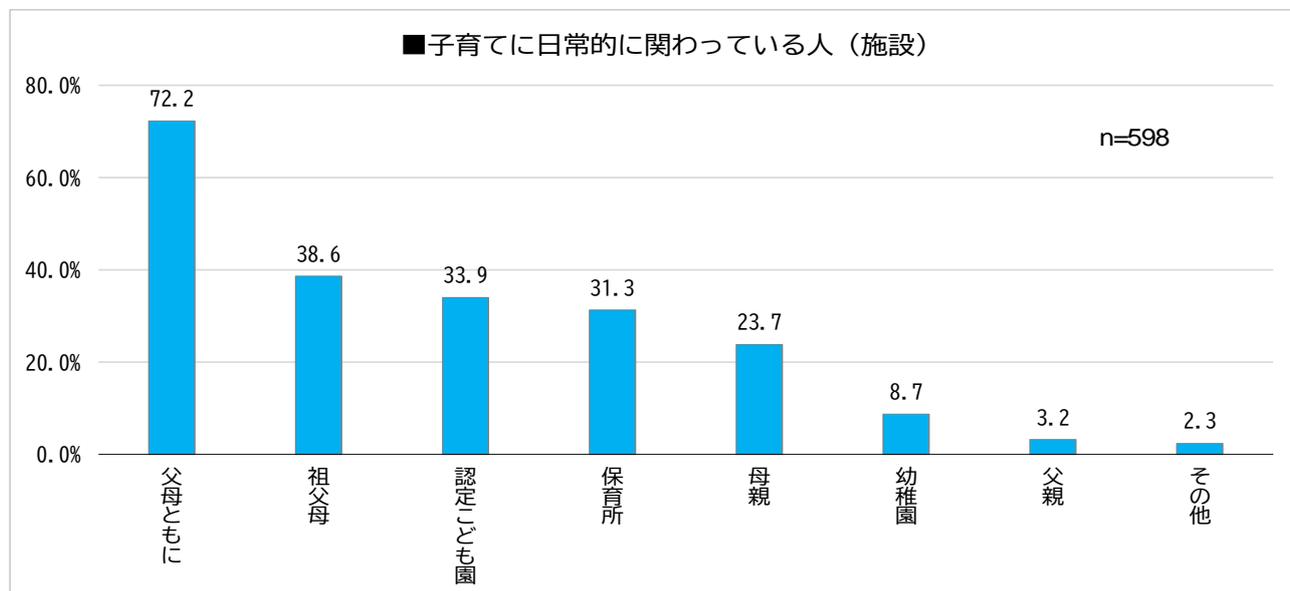


問 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）を主に行っているのはどなたですか。お子さんから見た関係でお答えください。



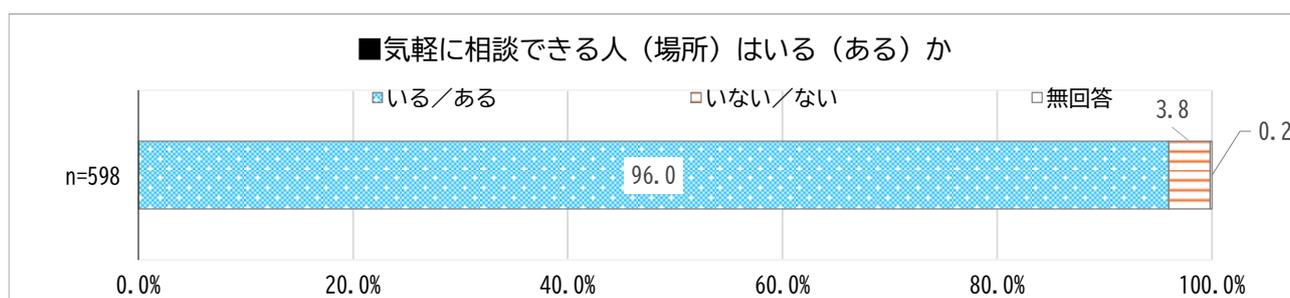
(3) 子育て環境について

問 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）に日常的に関わっている方はどなた（施設）ですか。お子さんからみた関係であてはまるものすべてを選択してください。



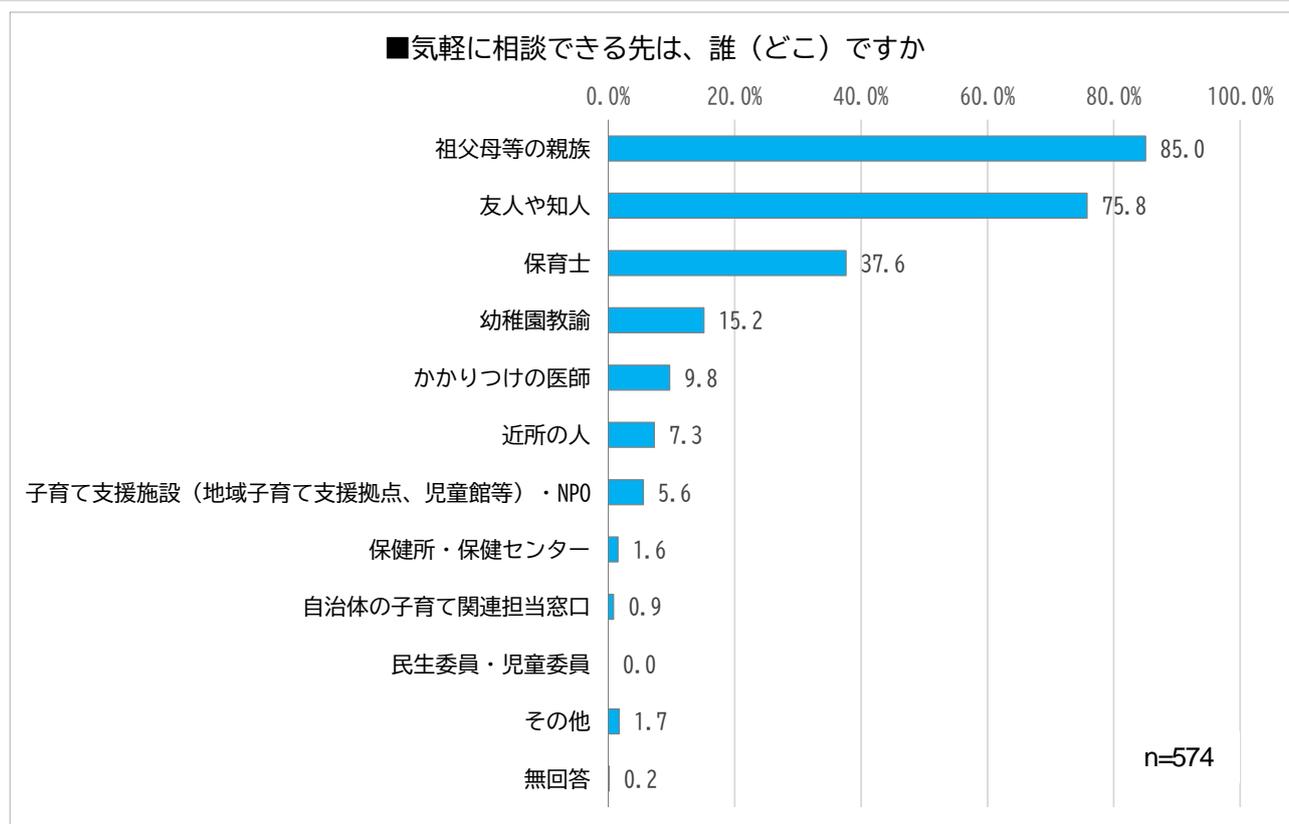
「父母ともに」が72.2%で最も高く、次いで、「祖父母」が38.6%となっており、施設では、「認定こども園」が33.9%で最も高くなっています。

問 宛名のお子さんの子育て（教育を含む）をする上で、気軽に相談できる人はいますか。また、相談できる場所がありますか。



「いる/ある」が96.0%、「いない/ない」が3.8%となっています。

問 前問で「いる／ある」に○をつけた方にうかがいます。お子さんの子育て（教育を含む）に関して、気軽に相談できる先は、誰（どこ）ですか。

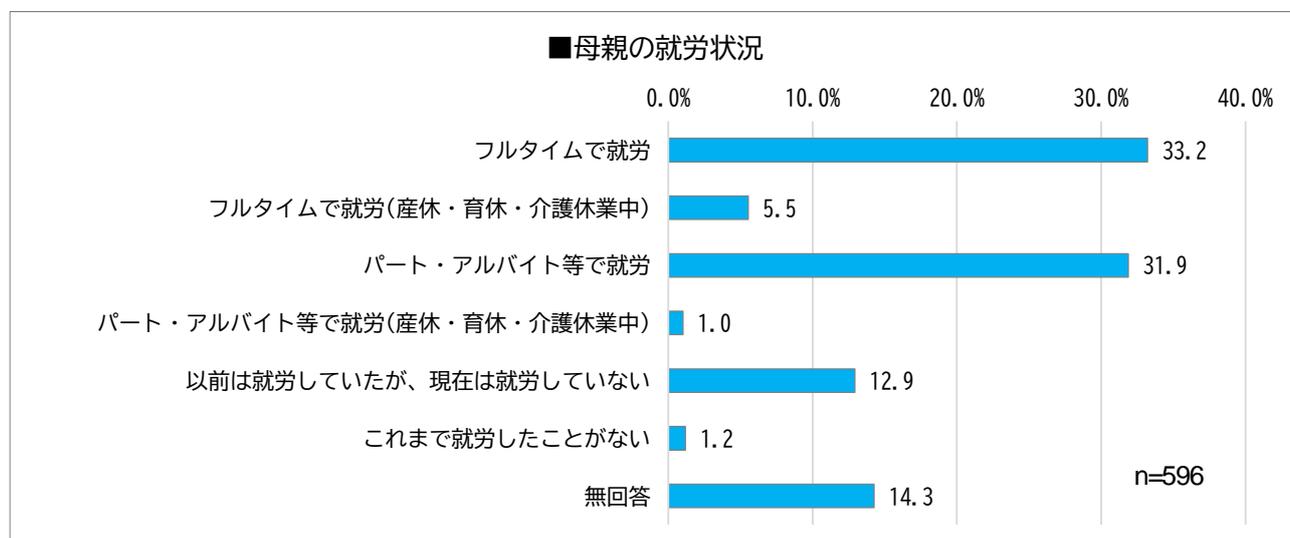


「祖父母等の親族」が 85.0%で最も回答割合が高く、次いで、「友人や知人」が 75.8%、「保育士」が 37.6%となっています。

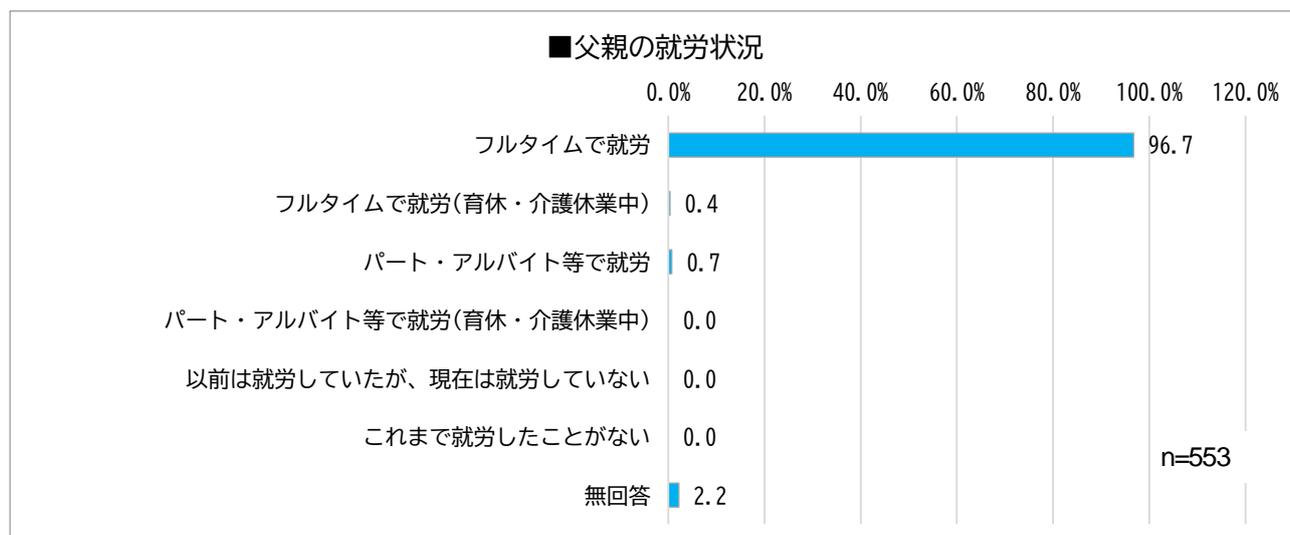
(4) 保護者の就労状況について

問 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。

(1) 母親【父子家庭の場合は記入は不要です】



(2) 父親【簿子家庭の場合は記入は不要です】



※フルタイム：1週5日程度・1日8時間程度で就労していること

※パート・アルバイト等：「フルタイム」以外で就労していること

母親は、「フルタイムで就労」が33.2%、「フルタイムで就労(産休・育休・介護休業中)」が5.5%で、合わせて38.7%がフルタイム就労となっています。「パート・アルバイト等で就労」が31.9%、「パート・アルバイト等で就労(産休・育休・介護休業中)」が1.0%で、合わせて32.9%がパート・アルバイト等での就労となっています。母親の就労は、フルタイムが4割弱、パート・アルバイト等が3割強となっており、合わせて7割強が就労しています。

父親は、「フルタイムで就労」が96.7%となっています。

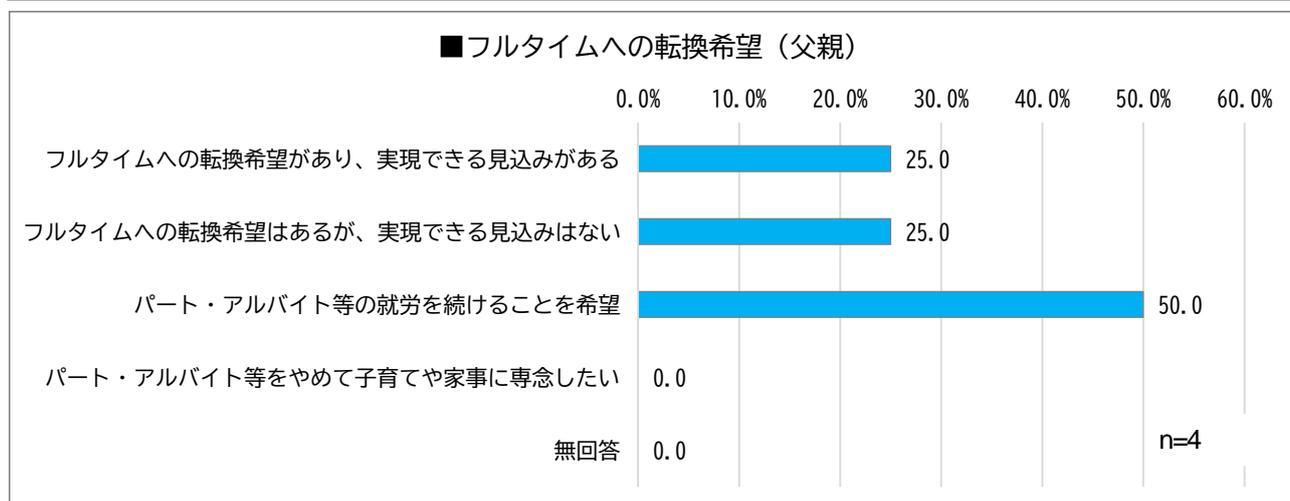
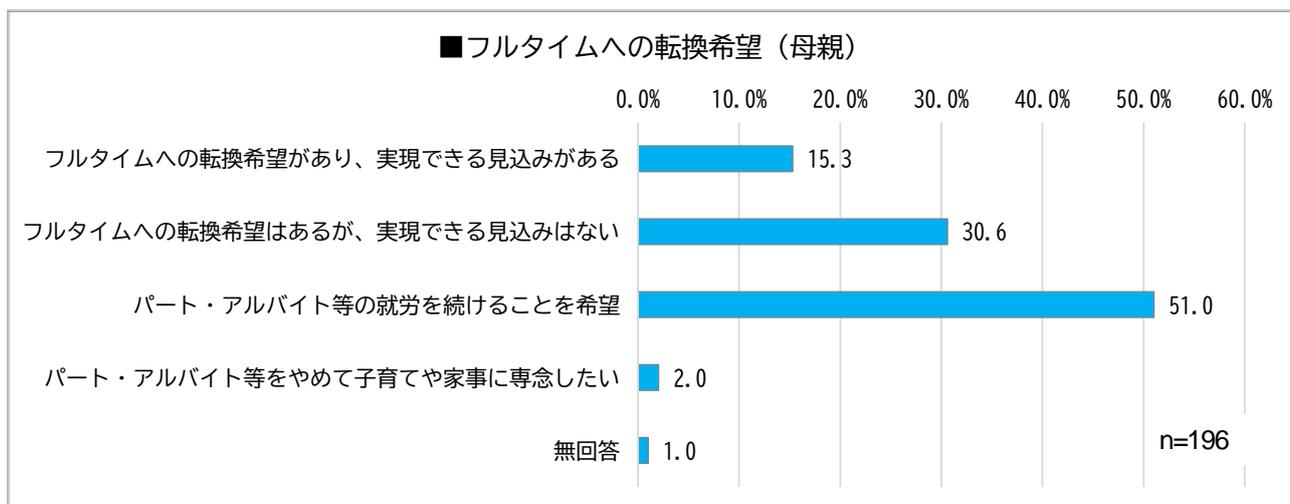
●共働き世帯の状況について

		合計	母親の就労状況						
			フルタイム	フルタイム(産休・育休・介護休業中)	パート・アルバイト等	パート・アルバイト等(産休・育休・介護休業中)	現在は就労していない	これまで就労したことがない	無回答
全体		551(人)	198	33	190	6	77	7	85
		100.0(%)	33.2	5.5	31.9	1.0	12.9	1.2	14.3
父親の就労状況	フルタイム	533	182	30	167	6	73	6	69
		100.0	34.1	5.6	31.3	1.1	13.7	1.1	12.9
	フルタイム(育休・介護休業中)	2	0	0	1	0	0	0	1
		100.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0
	パート・アルバイト等	4	1	1	1	0	0	0	1
		100.0	25.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0
	パート・アルバイト等(育休・介護休業中)	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
現在は就労していない	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
これまで就労したことがない	0	0	0	0	0	0	0	0	
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

ひとり親世帯(n=47)を除き、両親世帯(n=550)と世帯類型無回答(n=1)を合わせた551世帯を母数として就労パターンをみると、父親がフルタイム(育休等含む)、母親もフルタイム(育休等含む)の世帯は38.5%、父親がフルタイム(育休等含む)、母親がパート・アルバイト等(育休等含む)の世帯は31.6%、母親がフルタイム(育休等含む)、父親がパート・アルバイト等(育休等含む)は0.4%、父母ともにパート・アルバイト等は0.2%となっています。

なお、父親がフルタイム(育休等含む)で母親が就労していない「専業主婦世帯」は14.3%となります。

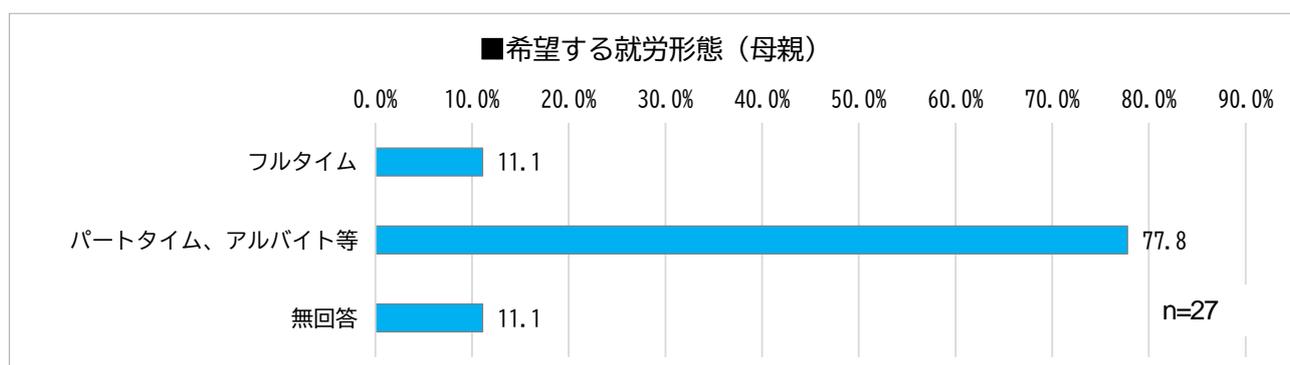
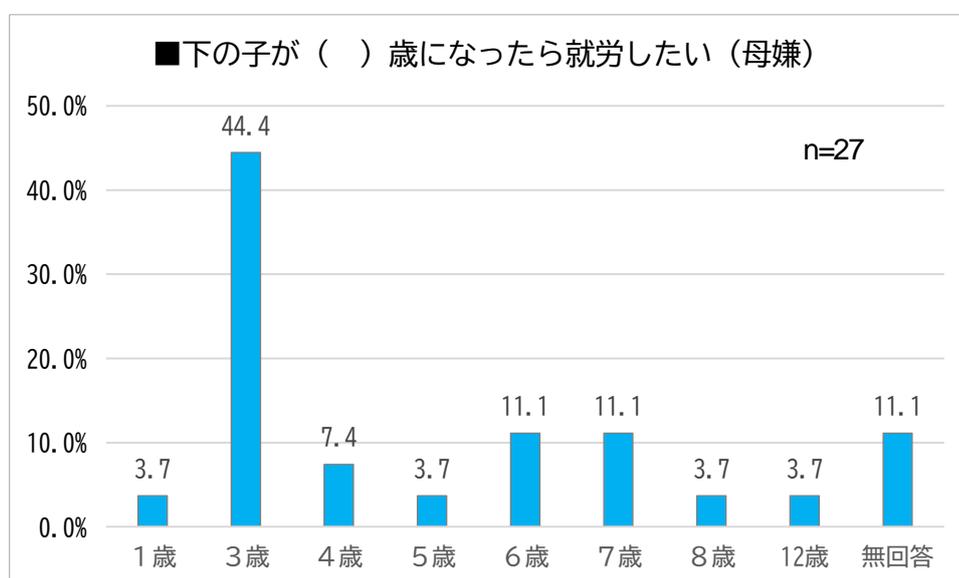
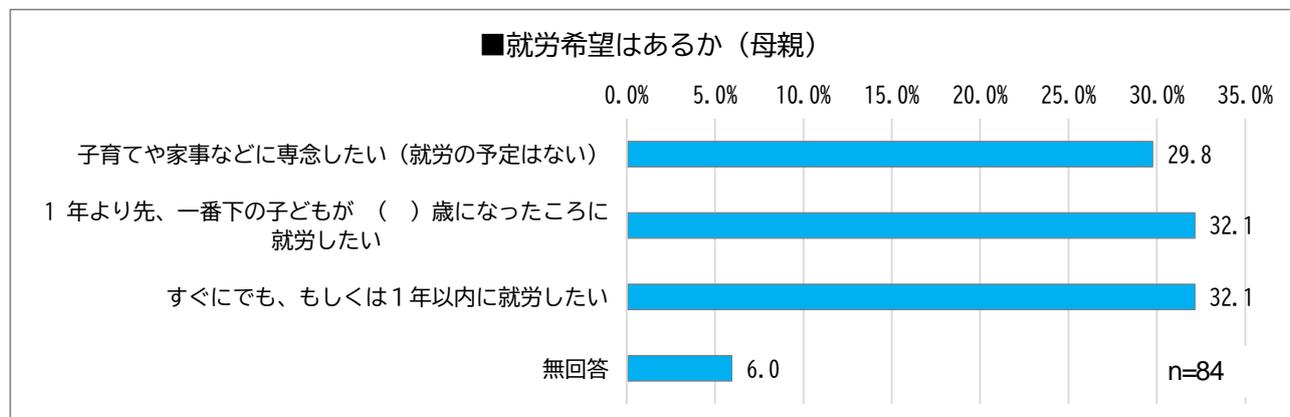
問 前問で「パート・アルバイト等で就労している（育休等含む）」に○をつけた方にうかがいます。フルタイムへの転換希望はありますか。

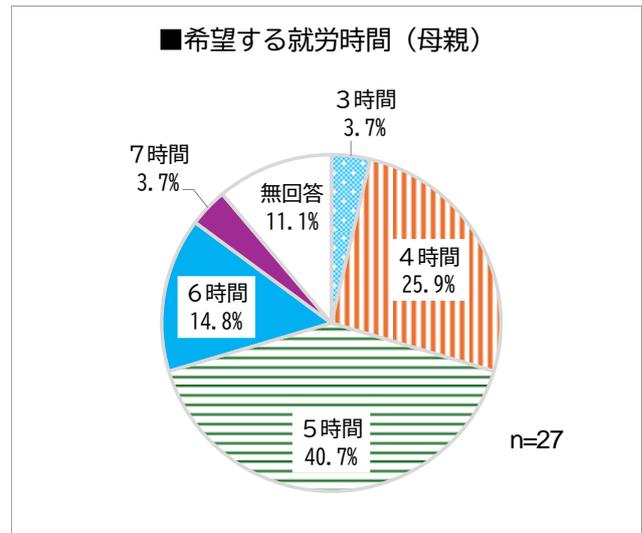
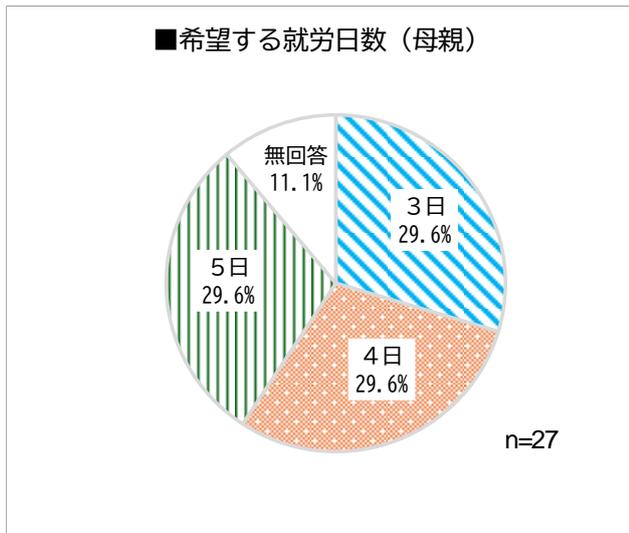


パート・アルバイト等からフルタイム就労への転換希望について、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」と回答したのは、母親が15.3%、父親が25.0%となっています。一方、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」と回答したのは、母親が51.0%、父親が50.0%で、ともに半数を超えています。

問 前問で「以前は就労していたが、現在は就労していない」または「これまで就労したことがない」に○をつけた方にうかがいます。就労したいという希望はありますか。

※この問に関して、父親については、該当者なしです。





現在、就労していない母親に就労希望を聞いたところ、「1年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったところに就労したい」と「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」がともに32.1%で、合わせて64.2%となり、就労を希望している人の割合は6割強となっています。一方、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」は29.8%で、就労を予定していない人の割合は3割弱となっています。

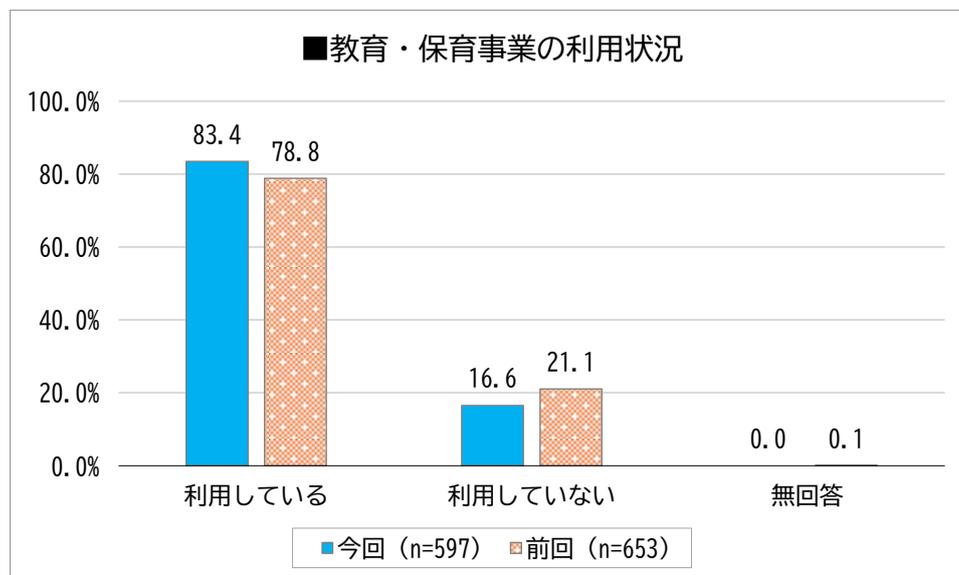
「1年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったところに就労したい」と答えた人に関して、子どもが何歳になったら就労したいかを具体的に記述してもらったところ、「3歳」が44.4%で最も多くなっています。

「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と答えた人に希望する就労形態と就労日数、就労時間を聞いたところ、就労形態は「パートタイム、アルバイト等」が77.8%、1週当たりの就労日数は「3日」、「4日」、「5日」がともに29.6%、1日当たりの就労時間は「5時間」が40.7%で最も多くなっています。

(5) 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について

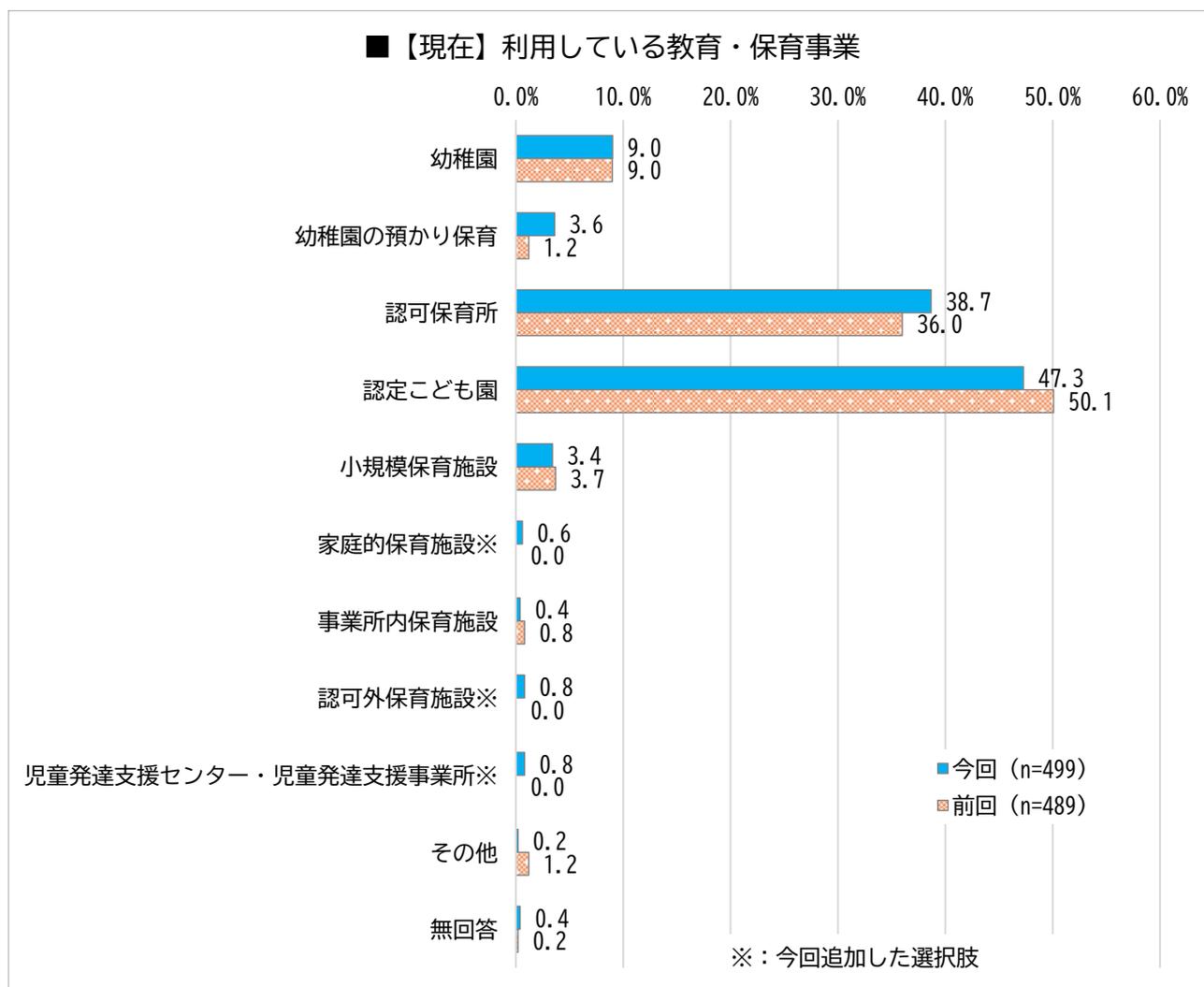
※ここでいう「定期的な教育・保育事業」とは、月単位で定期的に利用している事業を指します。具体的には、幼稚園や保育所などの事業が含まれます。

問 宛名のお子さんは現在、幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」を利用されていますか。



「利用している」が83.4%、「利用していない」が16.6%となっています。前回調査の結果に比べ、今回調査では、「利用している」との回答割合が若干高くなり、「利用していない」との回答は若干低下しました。

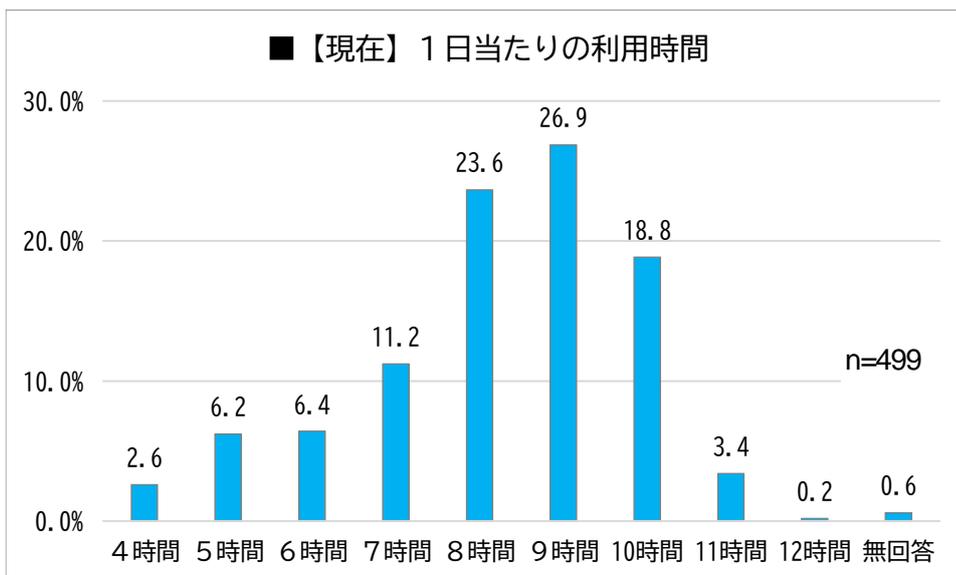
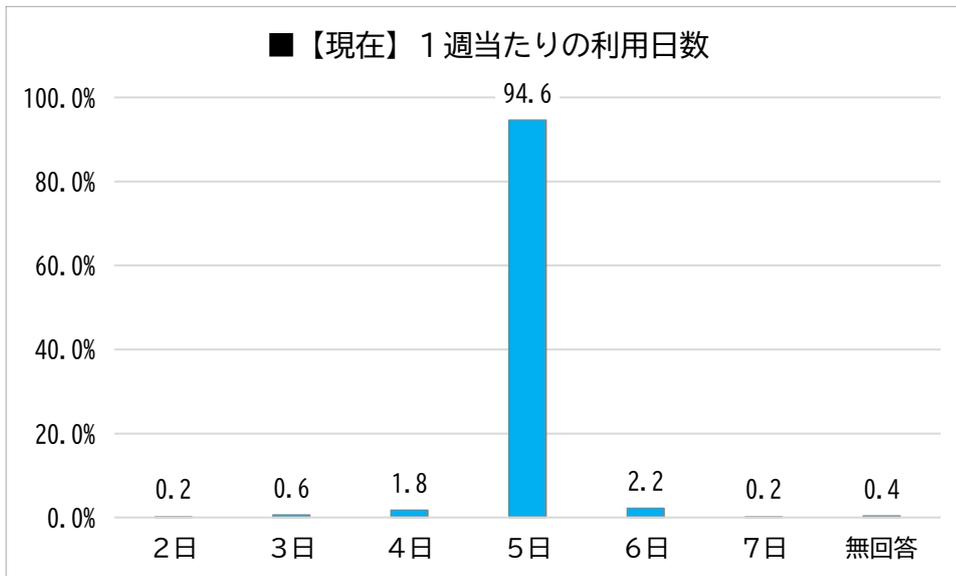
問 前問で「利用している」に○をつけた方にうかがいます。宛名のお子さんは、平日どのような教育・保育の事業を利用していますか。年間を通じて「定期的に」利用している事業をお答えください。



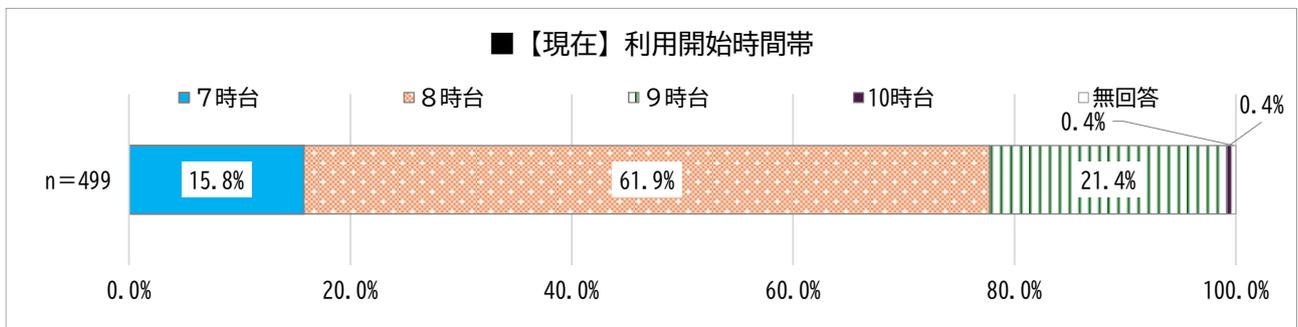
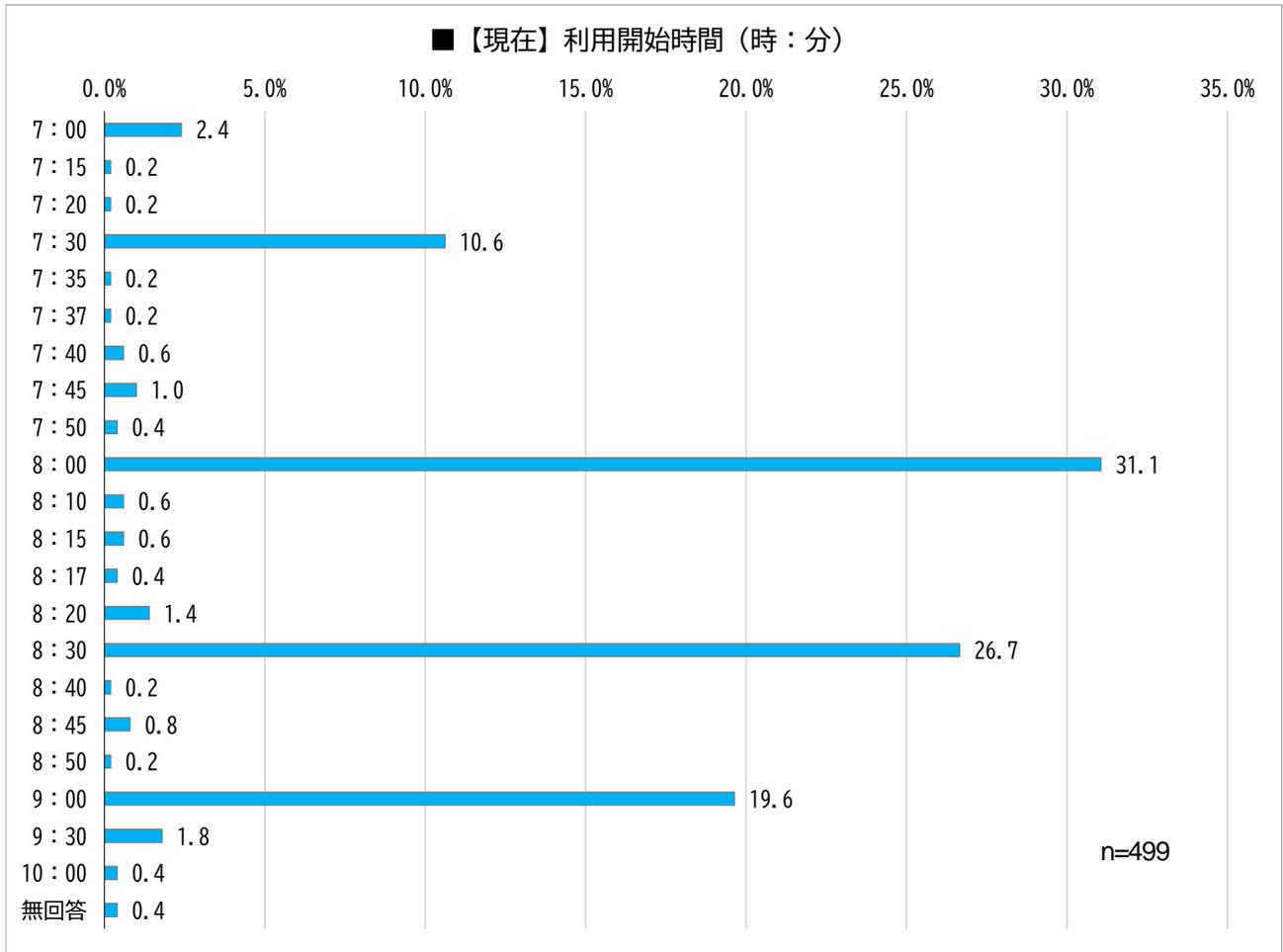
「認定こども園」が47.3%で最も回答割合が高く、次いで、「認可保育所」が38.7%、「幼稚園」が9.0%となっています。

今回調査では、前回調査の結果に比べ、「認定こども園」の利用割合が若干低下し、「認可保育所」の利用割合が若干増加しました。

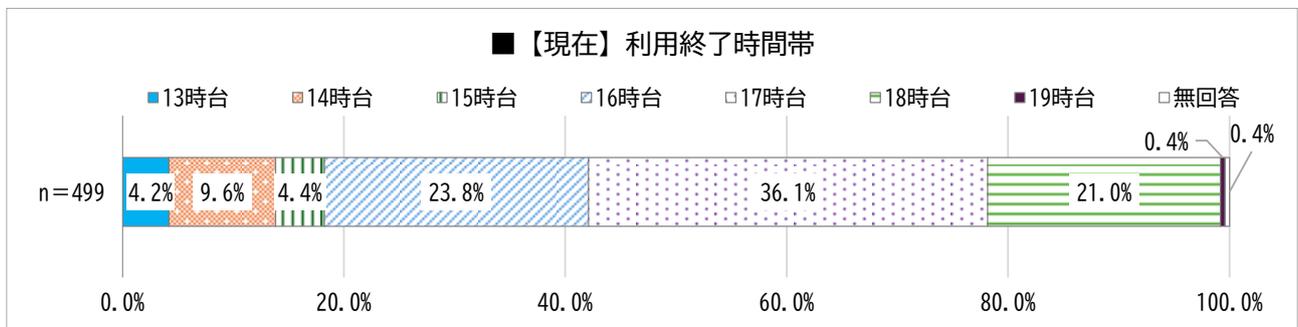
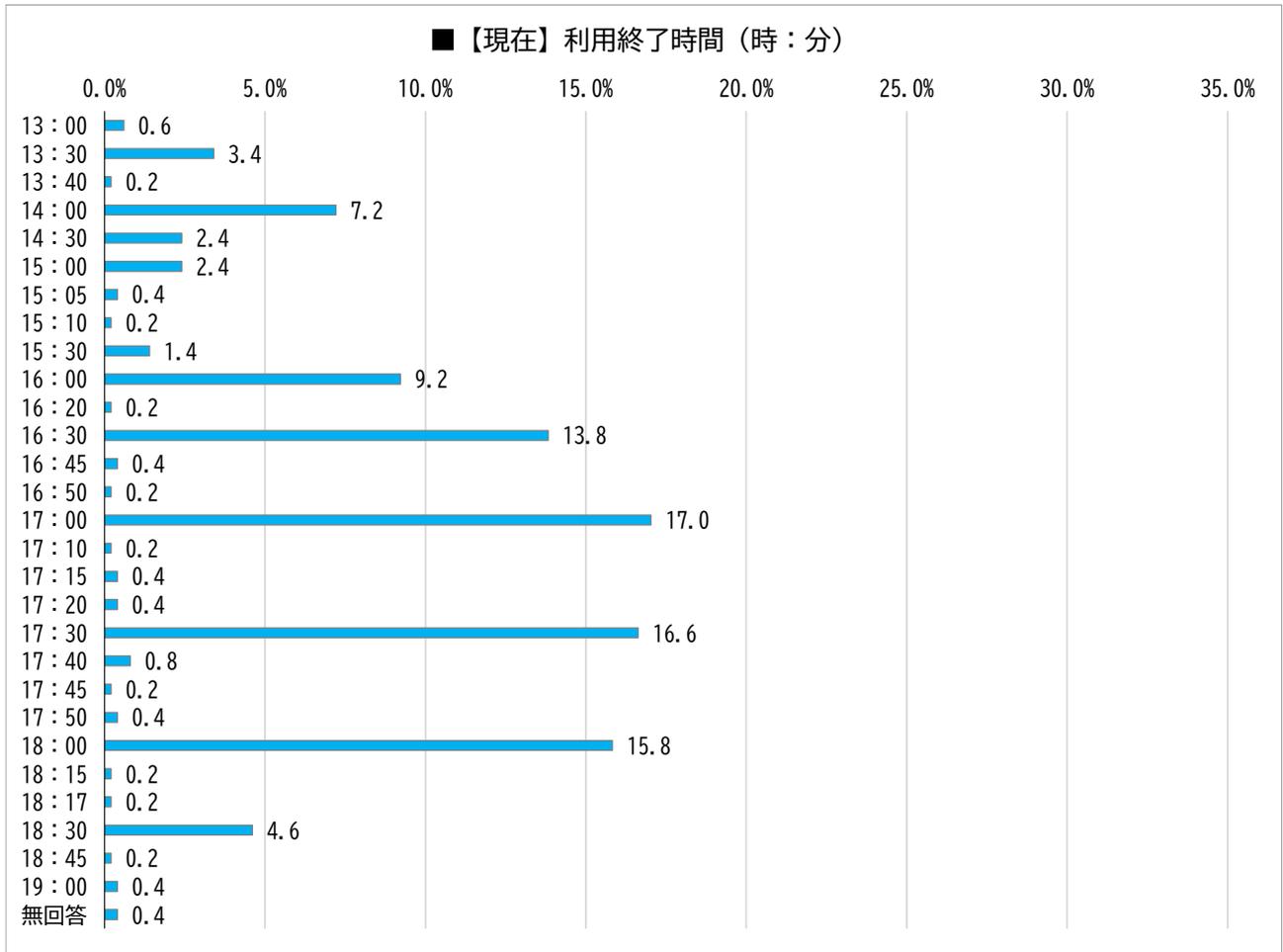
問 平日に定期的に利用している教育・保育の事業について、どのくらい利用していますか。また、希望としてはどのくらい利用したいですか。



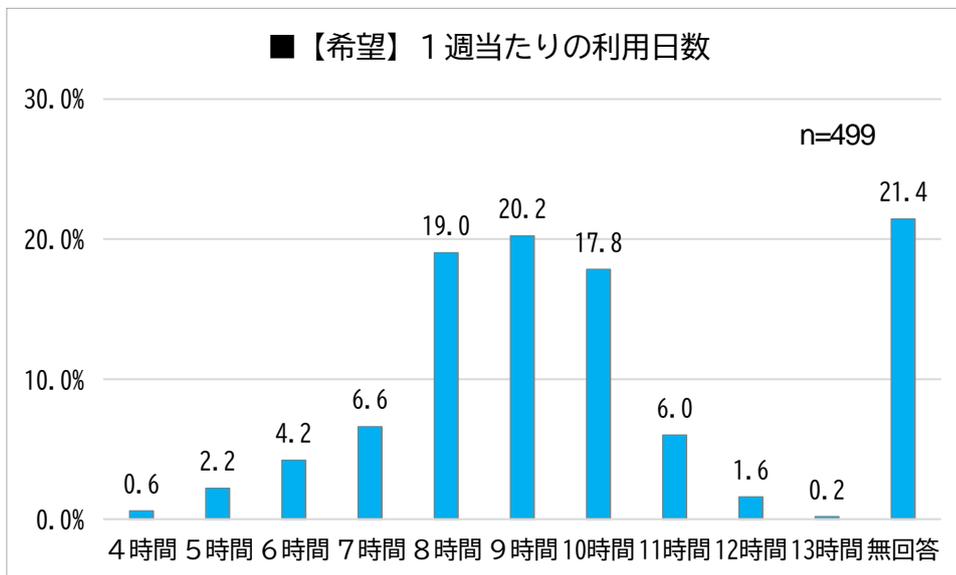
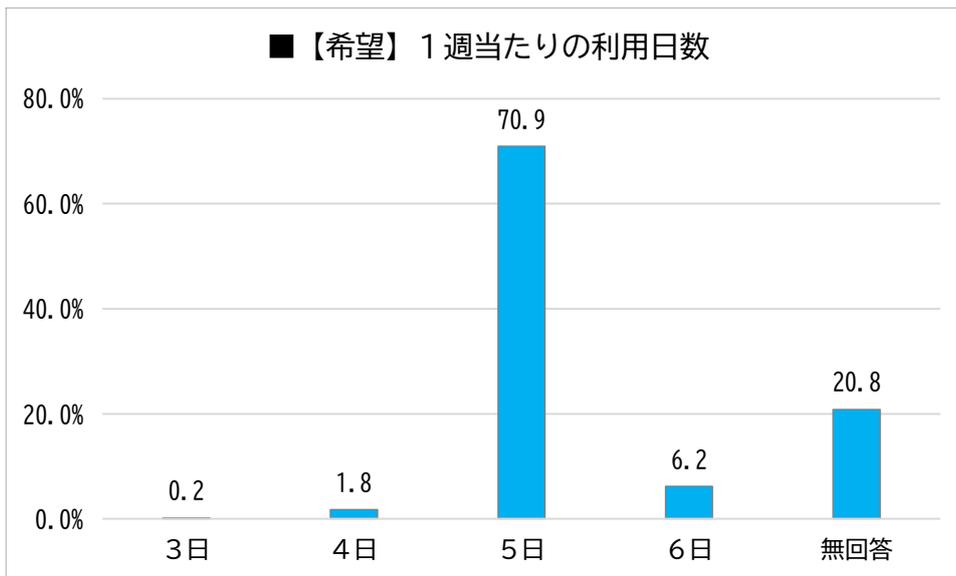
1 週当たり 5 日、1 日当たり 9 時間の利用が最も多くなっています。



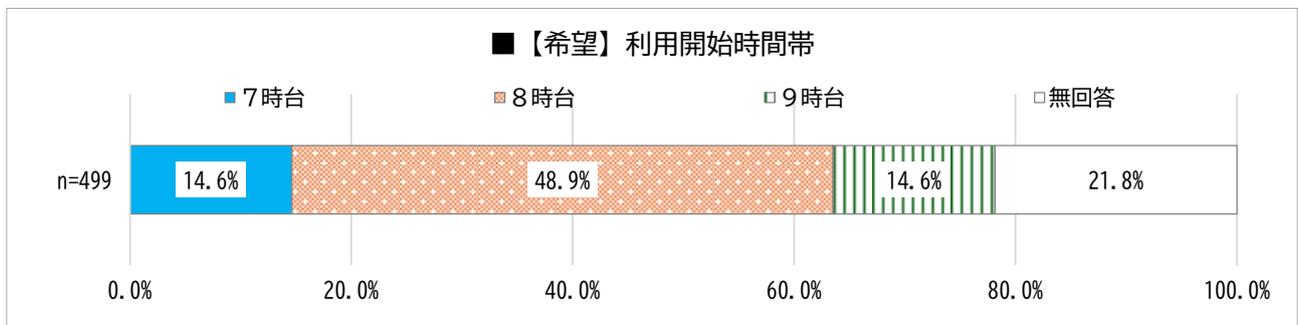
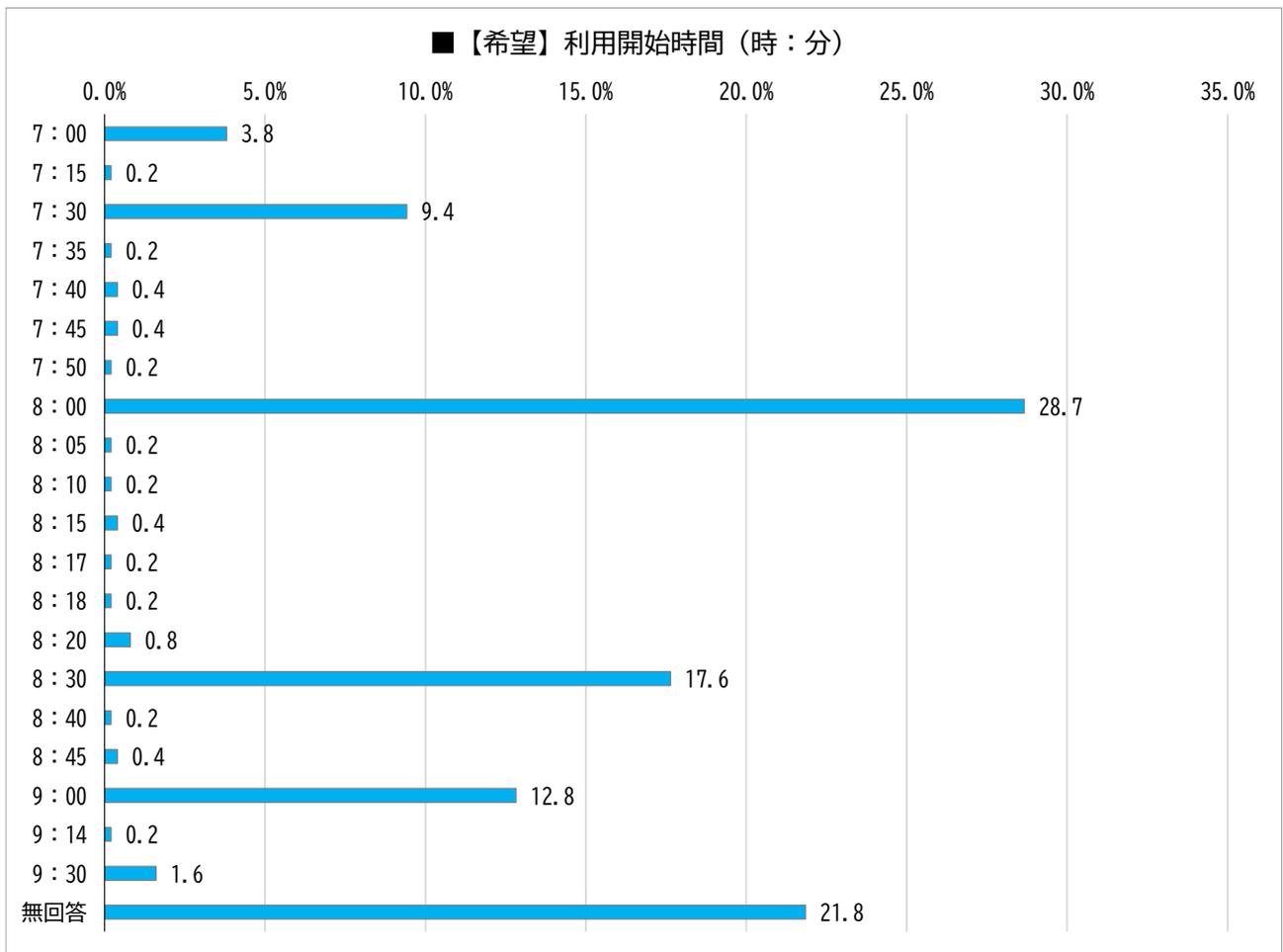
利用開始時間は、8時台が最も多くなっています。



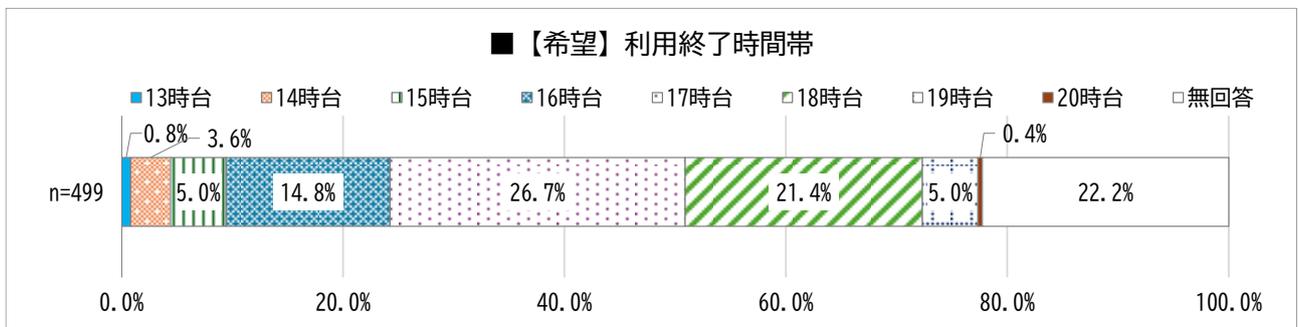
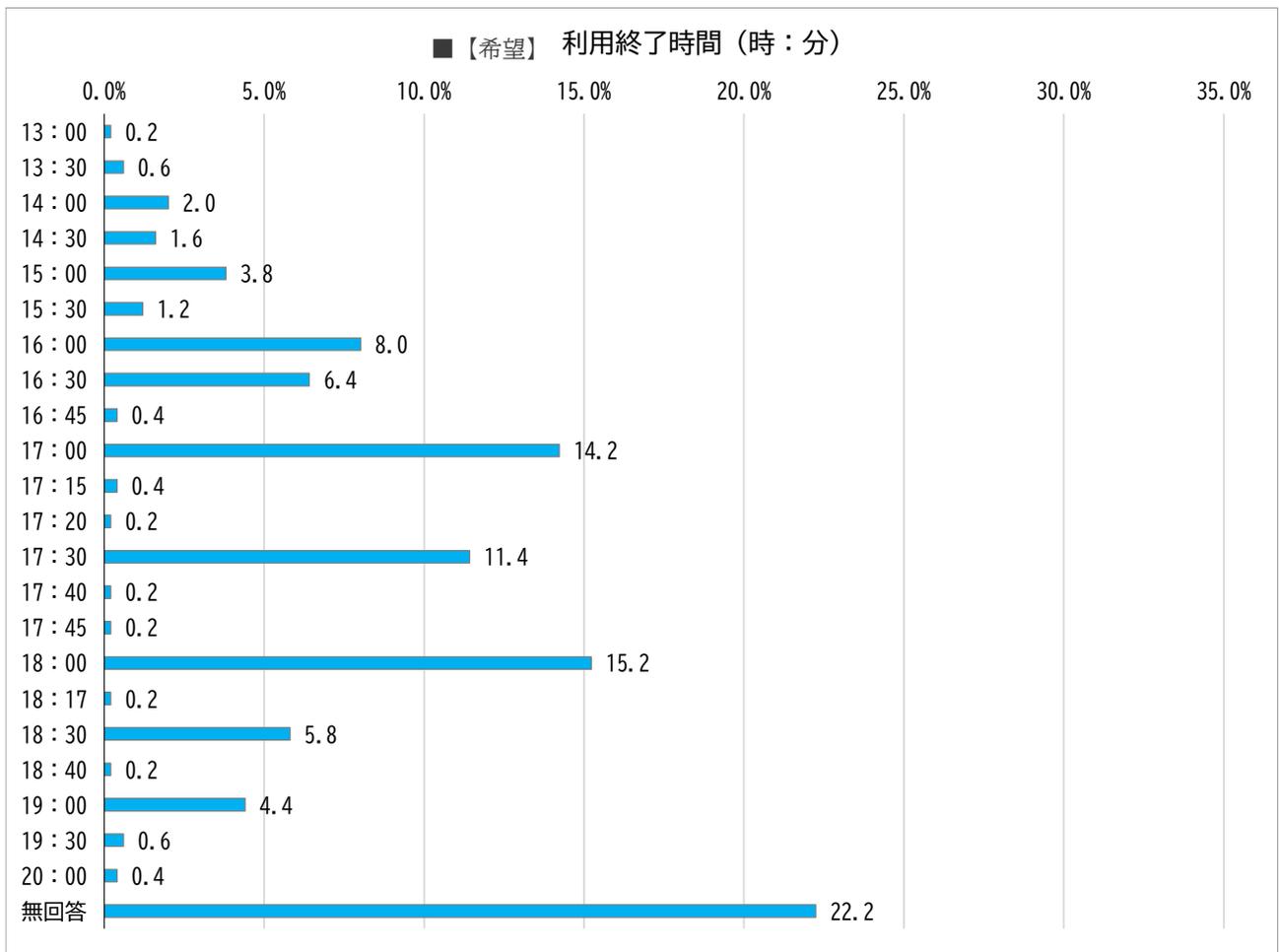
利用終了時間は、17時台が最も多くなっています。



1週当たり5日、1日当たり9時間の利用希望が最も多くなっています。

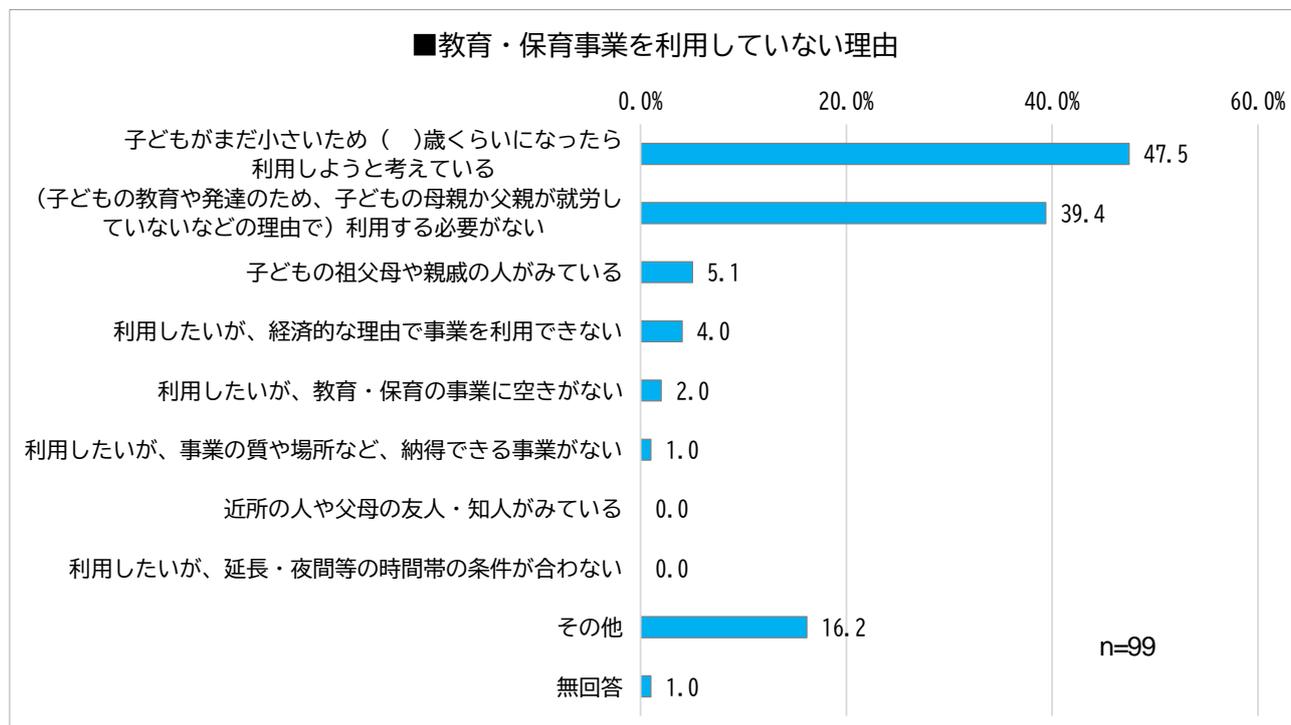


希望する利用開始時間は、8時台が最も多くなっています。

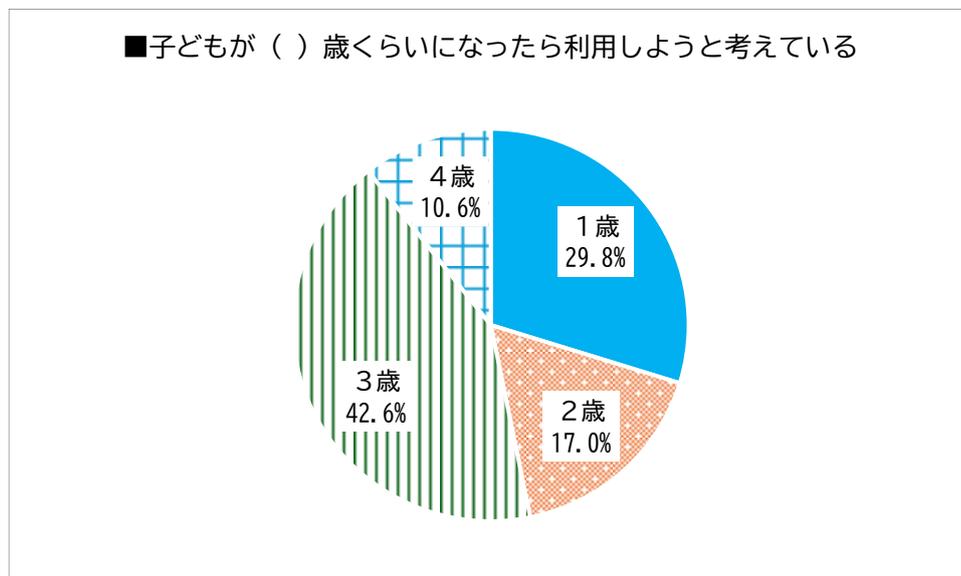


希望する利用終了時間は、17時台が最も多くなっています。

問 幼稚園や保育所などの「定期的な教育・保育の事業」について「利用していない」に○をつけた方にうかがいます。利用していない理由は何ですか。

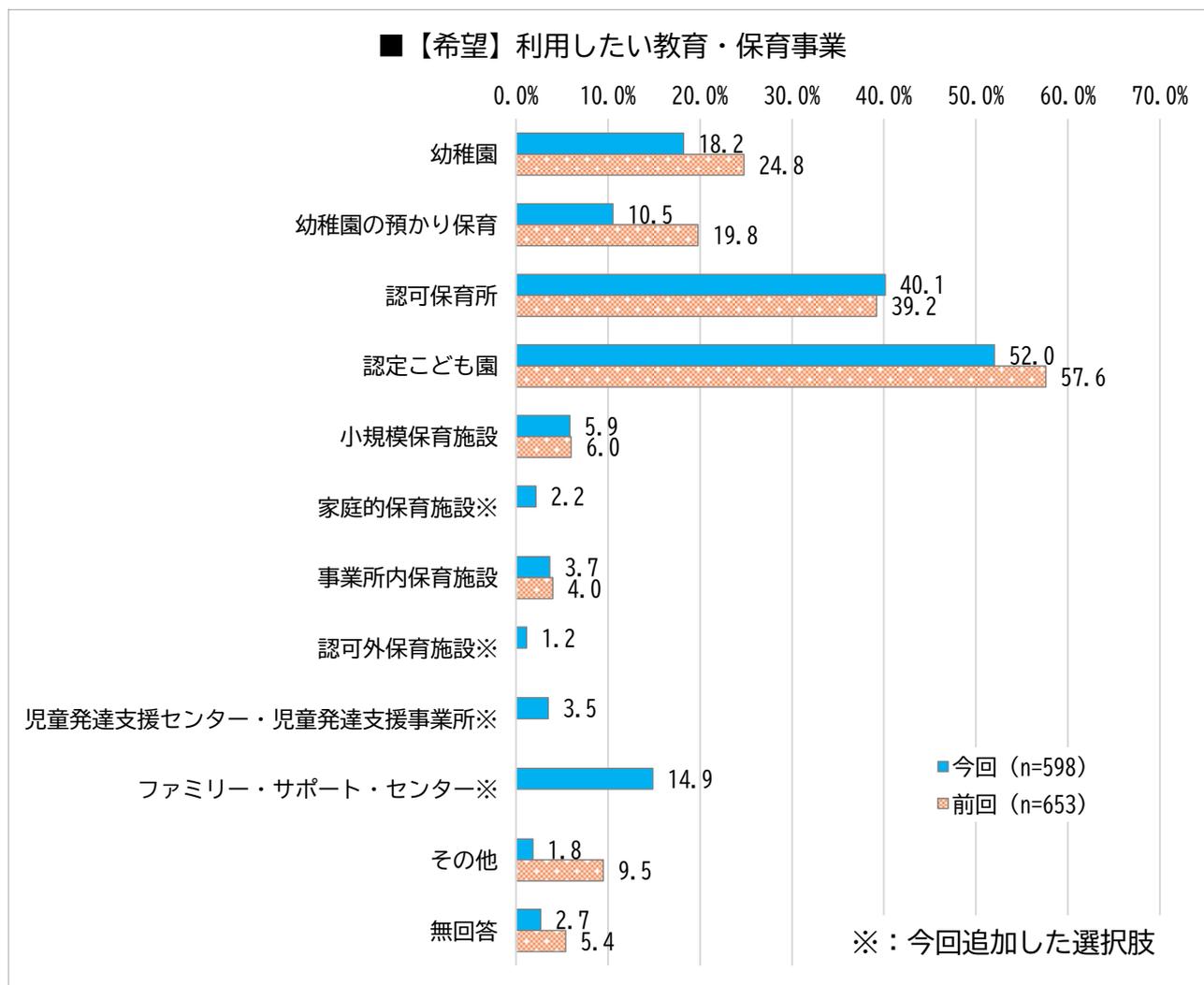


「子どもがまだ小さいため ()歳くらいになったら利用しようと考えている」が47.5%で最も回答割合が高く、次いで、「(子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がない」が39.4%となっています。



「子どもがまだ小さいため ()歳くらいになったら利用しようと考えている」と答えた人が記入した具体的な年齢では、「3歳」が最も多くなっています。

問 すべての方にうかがいます。現在、利用している、利用していないにかかわらず、宛名のお子さんの平日の教育・保育の事業として、「定期的に」利用したいと考える事業をお答えください。
 なお、これらの事業の利用には、一定の利用者負担が発生します。認可保育所の場合、世帯収入に応じた利用料が設定されています。

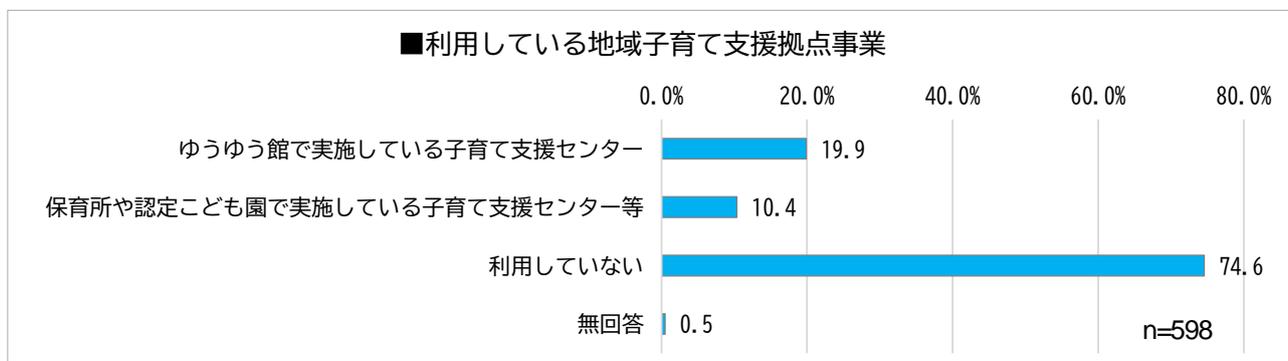


「認定こども園」が52.0%で最も高く、次いで、「認可保育所」が40.1%、「幼稚園」が18.2%となっています。

全般的には前回調査とほぼ同じような傾向となっていますが、前回調査と比べ、幼稚園と幼稚園の預かり保育、認定こども園の回答割合が若干低下し、認可保育所の回答割合が若干高まっています。

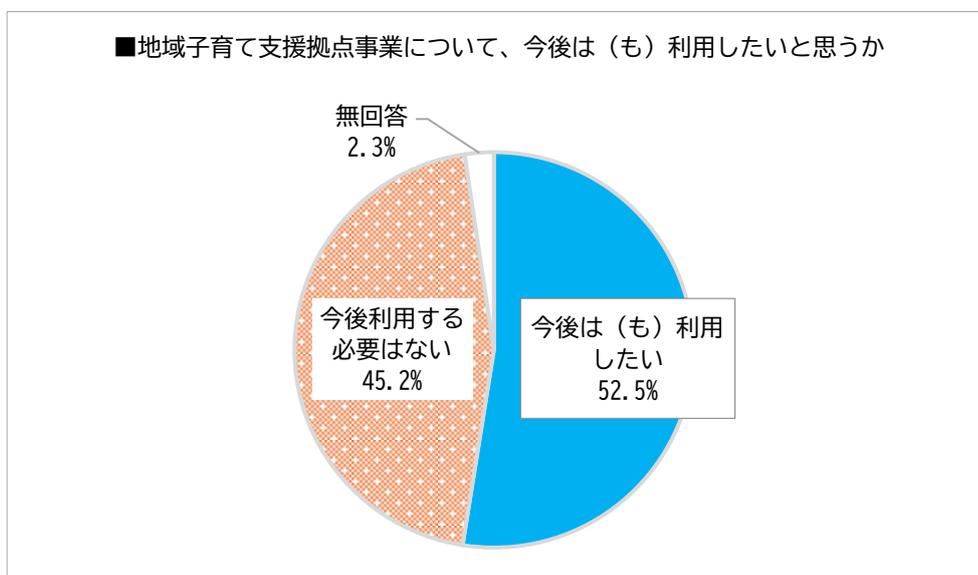
(6) 地域の子育て支援事業の利用状況について

問 宛名のお子さんは、現在、地域子育て支援拠点事業（親子が集まって過ごしたり、相談をしたり、情報提供を受けたりする場で、「つどいの広場」「子育て支援センター」等と呼ばれています）を利用していますか。



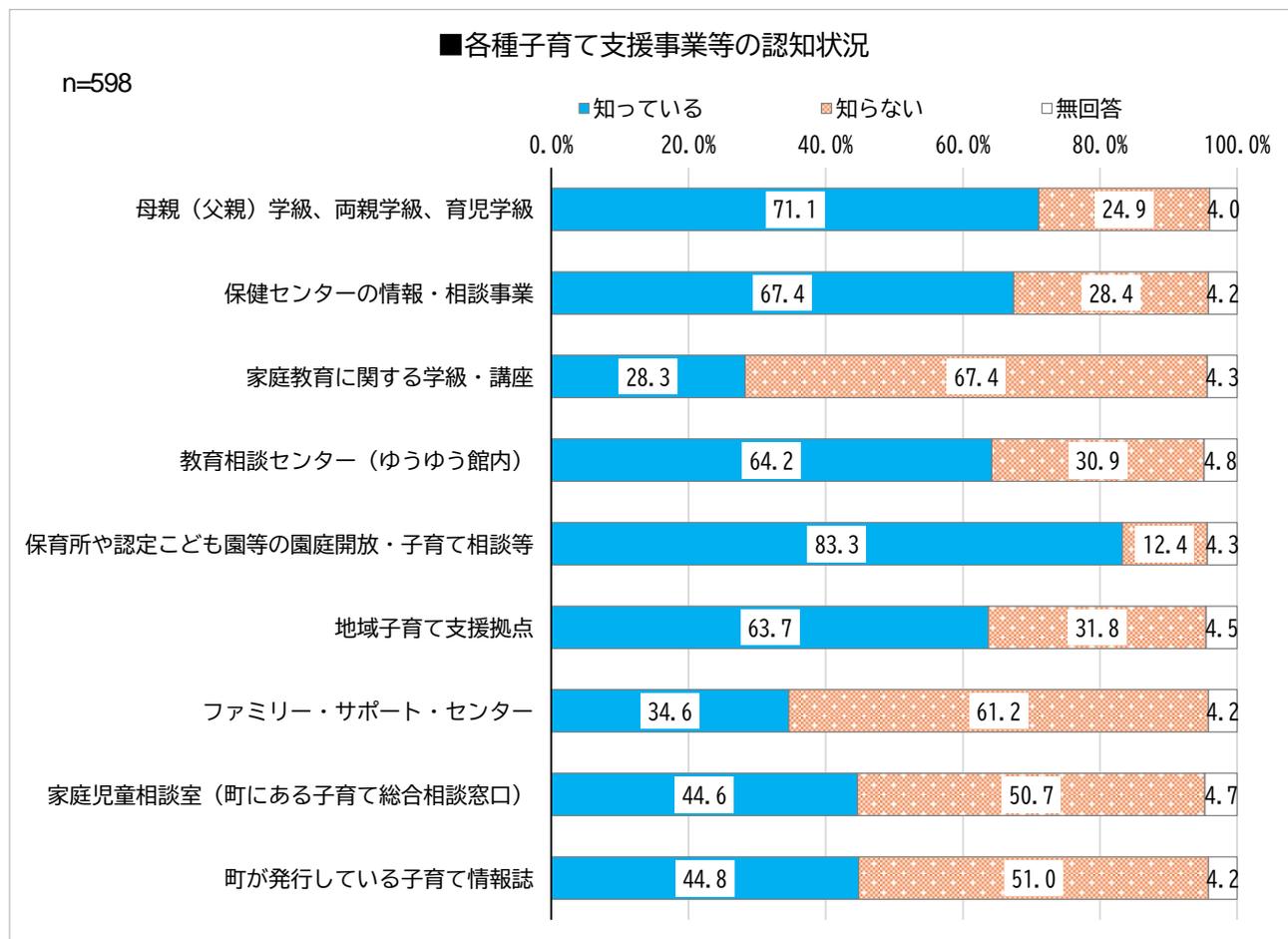
「ゆうゆう館で実施している子育て支援センター」が19.9%、「保育所や認定こども園で実施している子育て支援センター等」が10.4%となっており、一方、「利用していない」は74.6%となっています。

問 上記のような地域子育て支援拠点事業について、今後は（も）利用したいと思いますか。

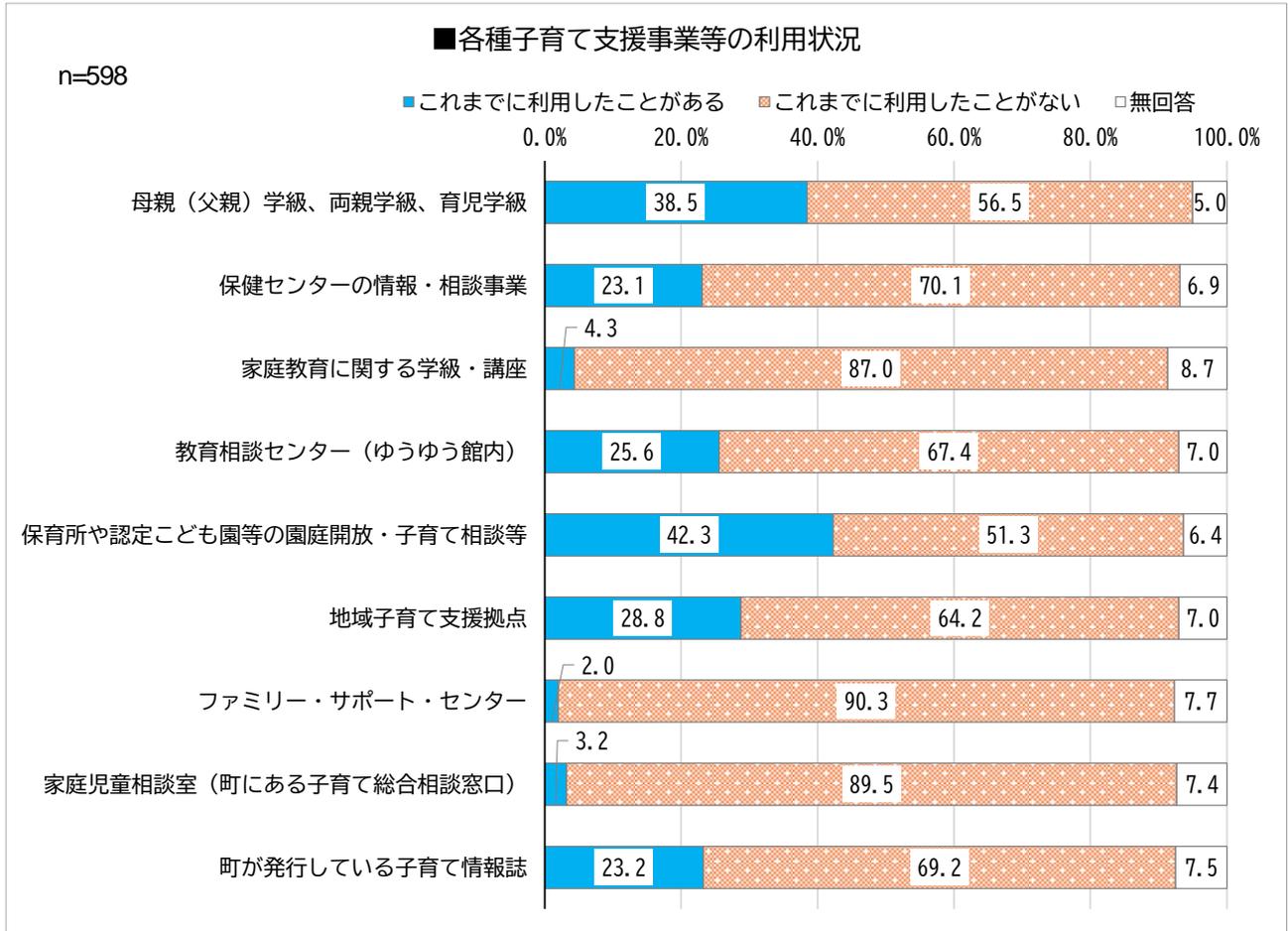


「今後は（も）利用したい」が52.5%、「今後利用する必要はない」が45.2%となっています。

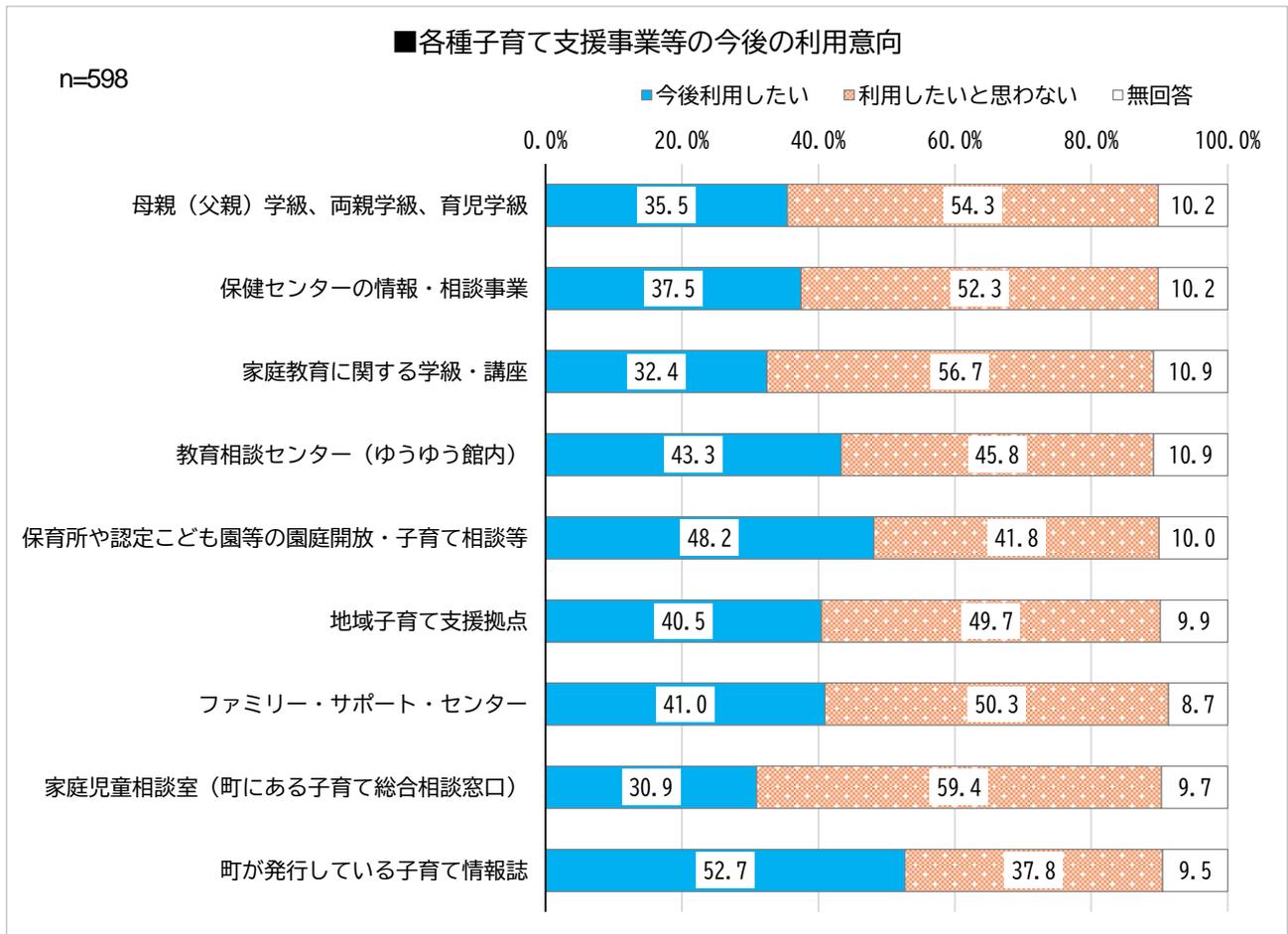
問 次の事業で知っているものや、これまでに利用したことがあるもの、今後、利用したいと思うものをお答えください。



「保育所や認定こども園等の園庭開放・子育て相談等」が83.3%で最も回答割合が高く、次いで、「母親（父親）学級、両親学級、育児学級」が71.1%、「保健センターの情報・相談事業」が67.4%となっています。



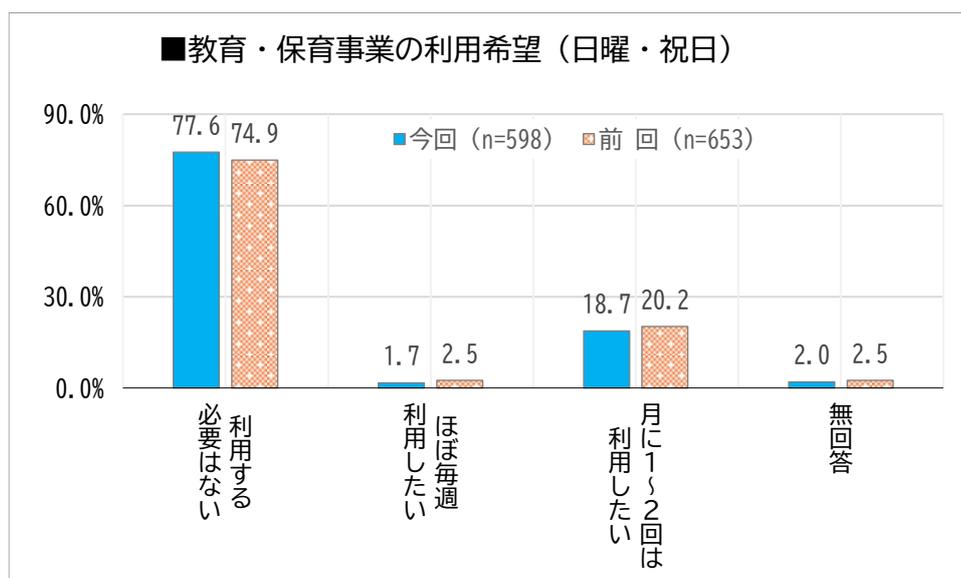
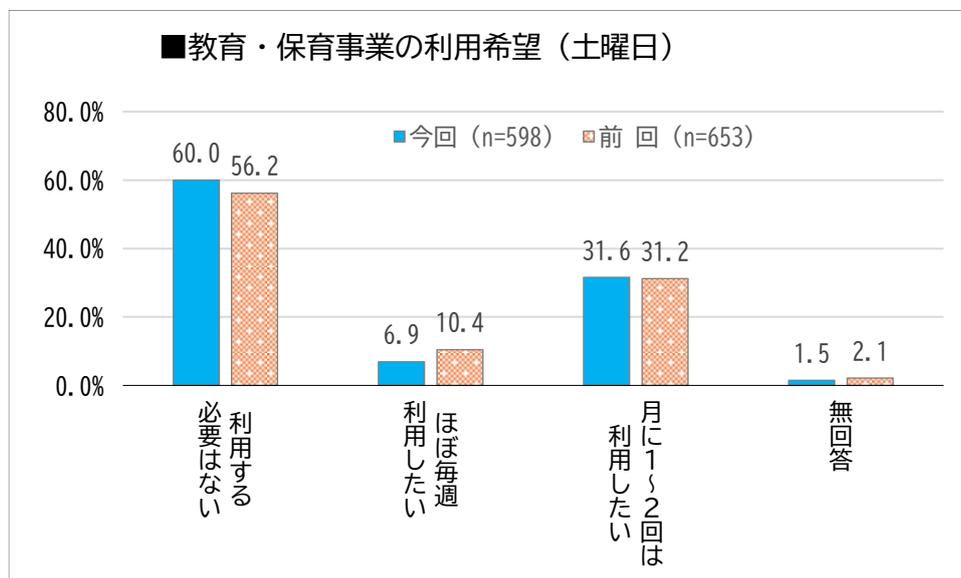
利用状況（これまでに利用したことがある）は、「保育所や認定こども園等の園庭開放・子育て相談等」が42.3%で最も高く、次いで、「母親（父親）学級、両親学級、育児学級」が38.5%、「地域子育て支援拠点」が28.8%となっています。



「町が発行している子育て情報誌」が52.7%で最も高く、次いで、「保育所や認定こども園等の園庭開放・子育て相談等」が48.2%、「教育相談センター（ゆうゆう館内）」が43.3%となっています。

(7) 土・日や長期休暇中の「定期的な」教育・保育事業の利用希望について

問 宛名のお子さんについて、土曜日と日曜日・祝日に、定期的な教育・保育の事業の利用希望はありますか（一時的な利用は除きます）。

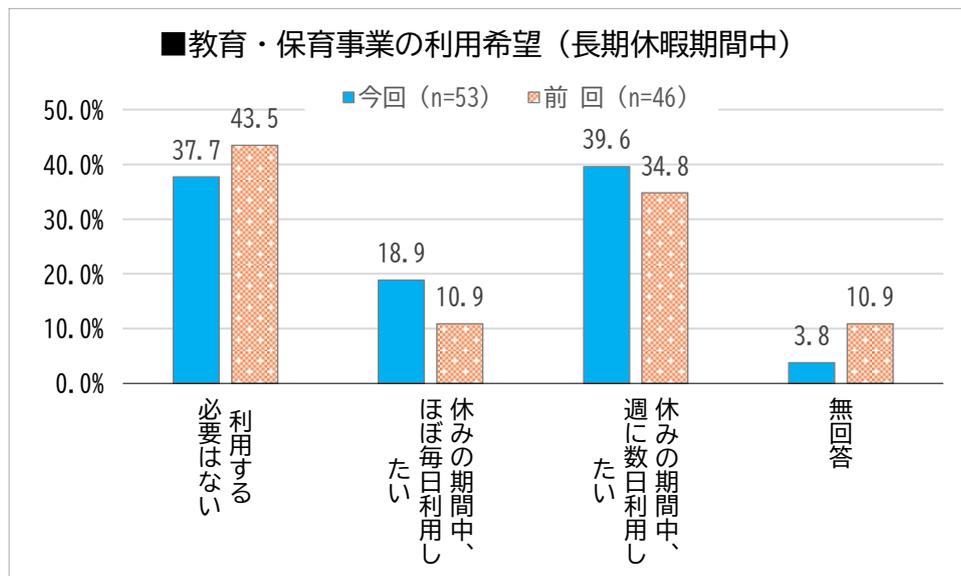


土曜日の利用希望は、「ほぼ毎週利用したい」が6.9%、「月に1～2回は利用したい」が31.6%となっています。

日曜・祝日の利用希望は、「ほぼ毎週利用したい」が1.7%、「月に1～2回は利用したい」が18.7%となっています。

全般的には、前回調査とほぼ同様の傾向となっています。

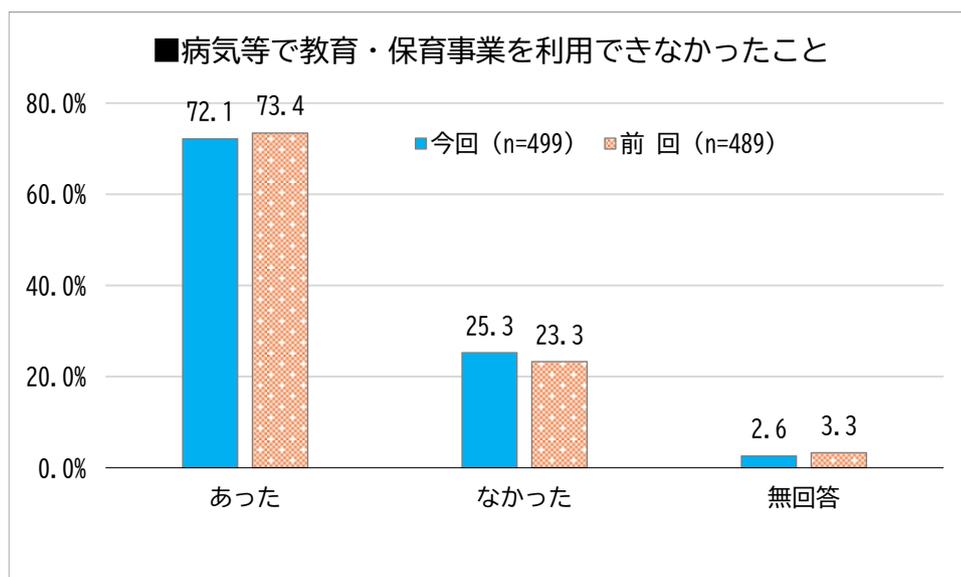
問 「幼稚園」を利用されている方にうかがいます。宛名のお子さんについて、夏休み・冬休みなど長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用を希望しますか。



「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」が18.9%、「休みの期間中、週に数日利用したい」が39.6%となっています。

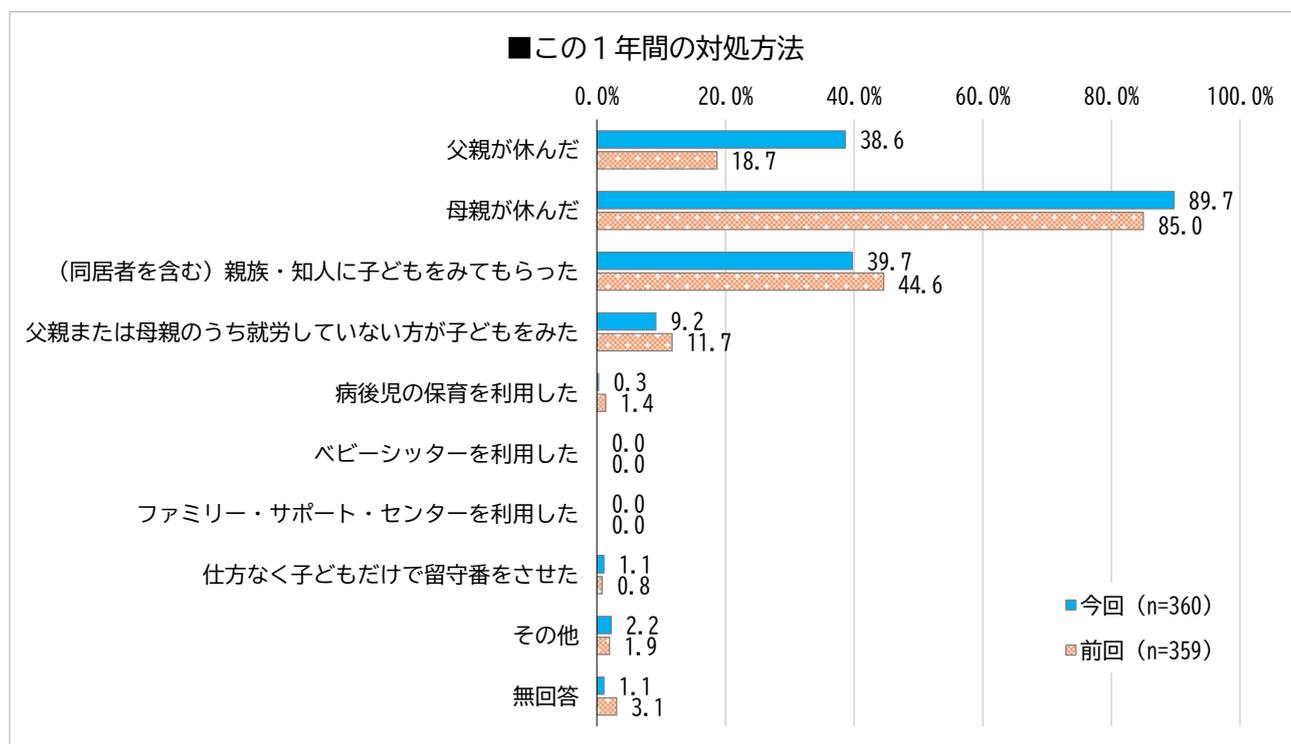
前回調査に比べ、今回調査では、毎日利用したいが8.0ポイント、週に数日利用したいが4.8ポイント高くなっています。

問 平日の定期的な教育・保育の事業を利用していると答えた保護者の方にうかがいます。この1年間に、宛名のお子さんが病気やケガで通常の事業が利用できなかったことはありますか。



「あった」が72.1%、「なかった」が25.3%となっています。前回調査と同じような結果となっています。

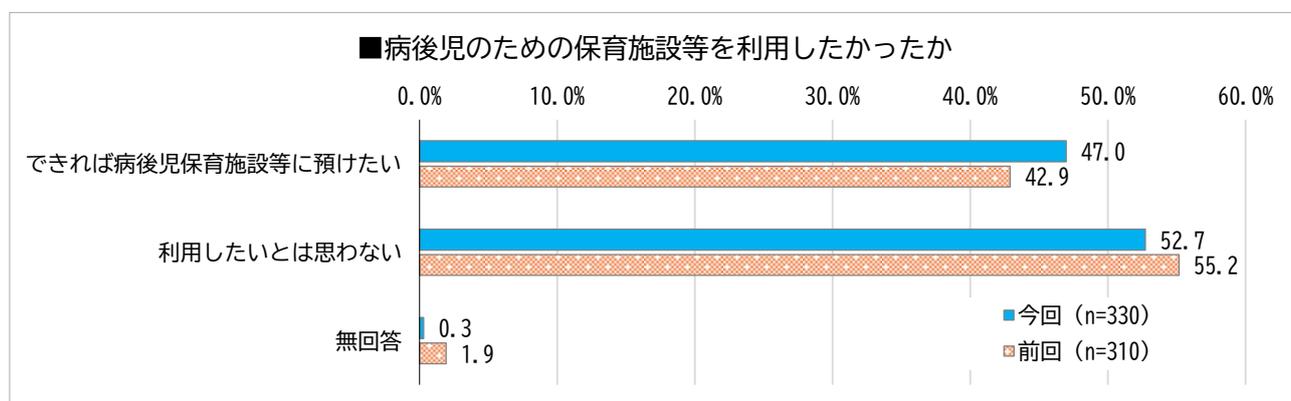
問 宛名のお子さんが病気やけがで普段利用している教育・保育の事業が利用できなかった場合に、この1年間に行った対処方法としてあてはまる記号すべてに○をつけてください。



「母親が休んだ」が89.7%で最も高くなっており、次いで、「(同居者を含む) 親族・知人に子どもをみてもらった」が39.7%、「父親が休んだ」が38.6%となっています。

前回調査に比べ、今回調査では「父親が休んだ」が19.9ポイント高くなっており、父親の協力が若干進んでいることがうかがえます。

問 前問で「父親が休んだ」「母親が休んだ」のいずれかに回答した方にうかがいます。その際、「できれば病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。

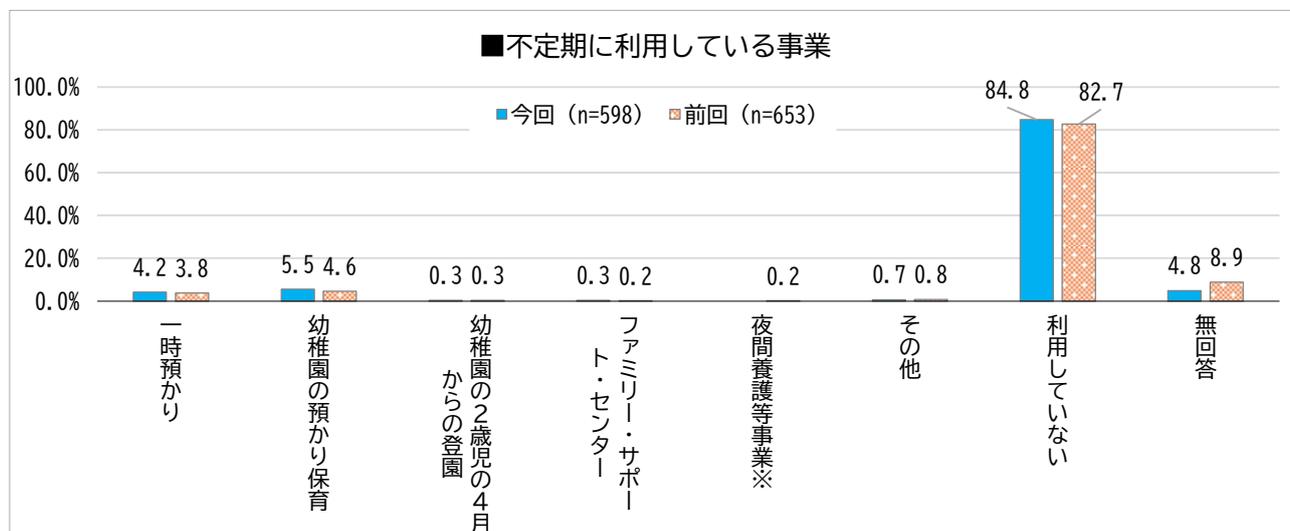


「できれば病後児保育施設等に預けたい」が47.0%、「利用したいとは思わない」が52.7%となっています。

前回調査に比べ、今回調査では、「できれば病後児保育施設等に預けたい」の割合が高くなっています。

(8) 不特定の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用について

問 宛名のお子さんについて、日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不特定の就労等の目的で不定期に利用している事業はありますか。

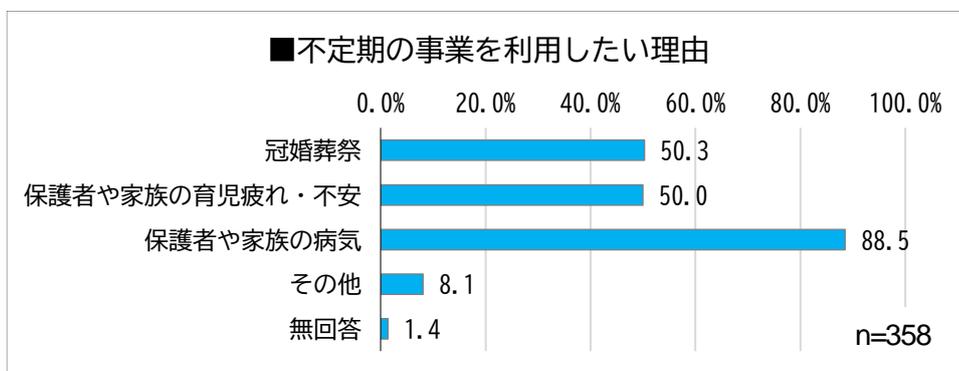
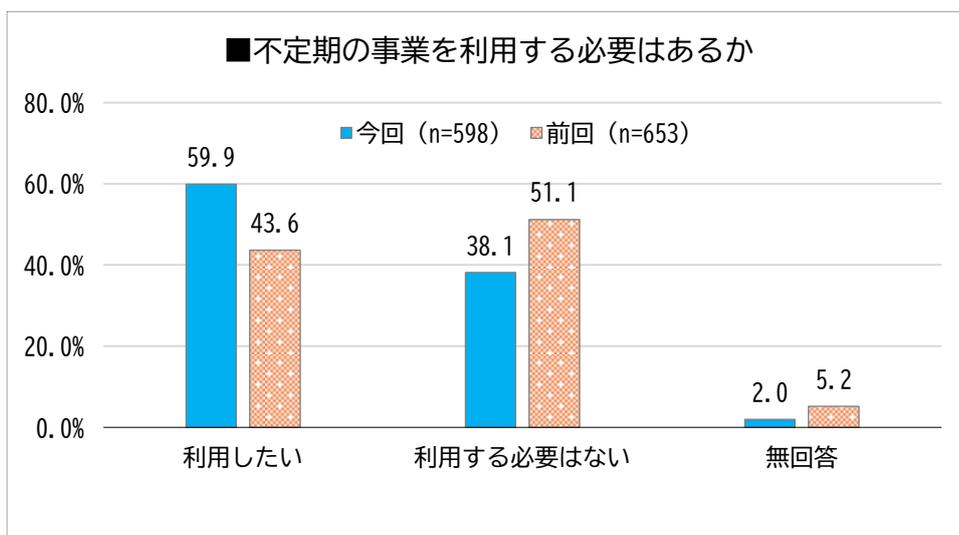


「利用していない」が84.8%で最も高くなっています。

一方、利用している事業では、「一時預かり」と「幼稚園の預かり保育」が5%前後となっています。

結果については、前回調査とほぼ同様となっています。

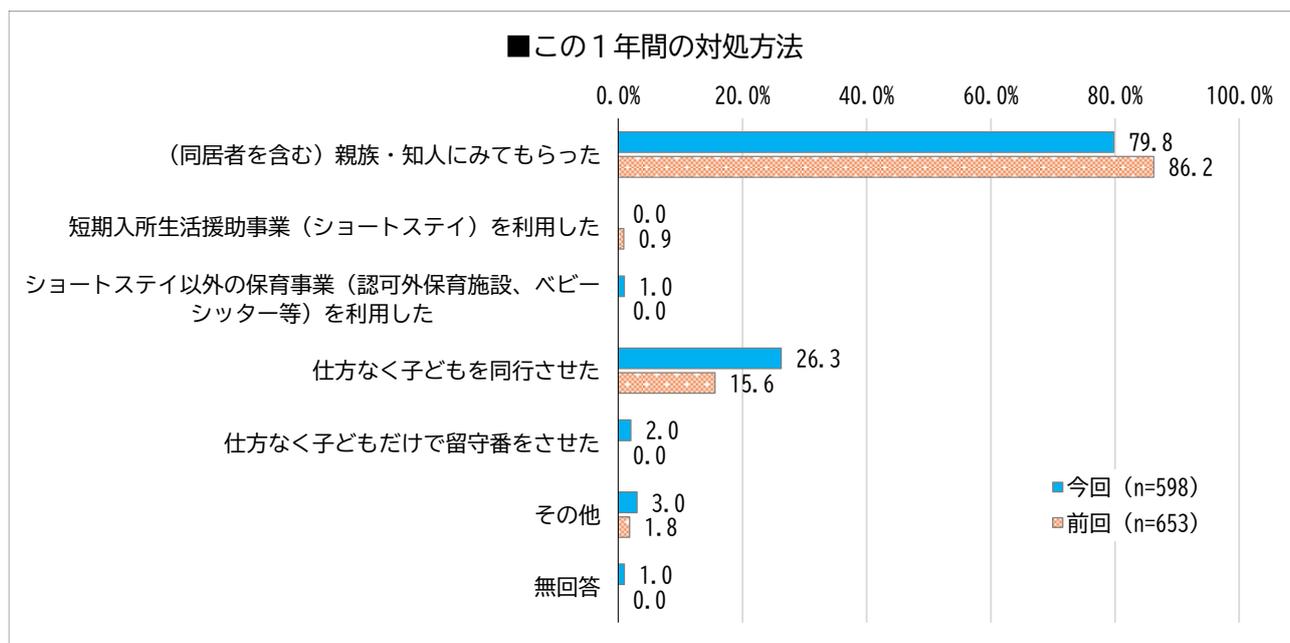
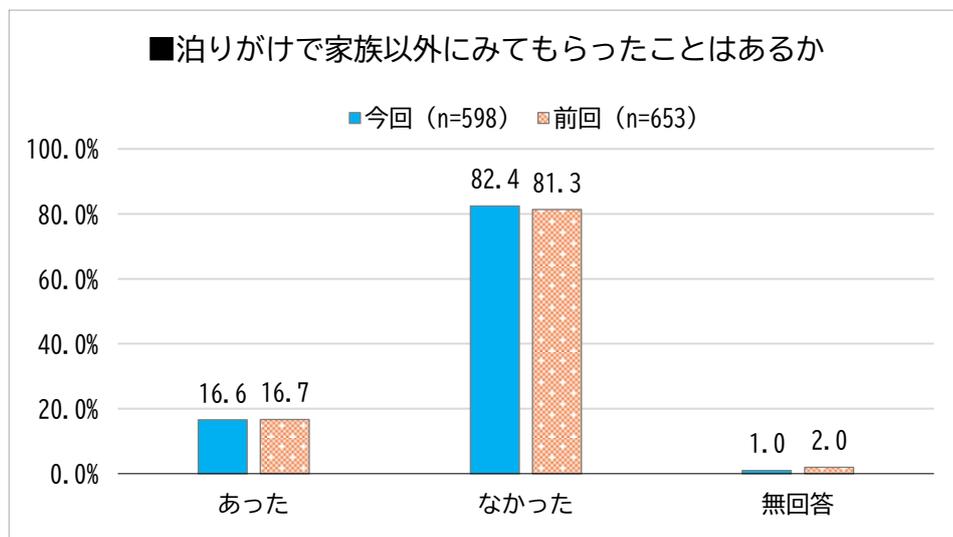
問 宛名のお子さんについて、保護者の用事や体調等の理由で事業を利用する必要があると思いますか。利用希望の有無とその理由についてお答えください。



不定期に事業を「利用したい」割合は59.9%となっており、前回調査よりも16.3ポイント高くなっています。

利用したい理由としては、「保護者や家族の病気」が88.5%で最も高い割合となっています。

問 この1年間に、保護者の用事（冠婚葬祭、保護者・家族の病気など）により、宛名のお子さんを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことはありましたか（預け先が見つからなかった場合も含みます）。あった場合は、この1年間の対処方法もお答えください。



泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことについては、「あった」が16.6%、「なかった」が82.4%となっています。

結果については、前回調査とほぼ同様となっています。

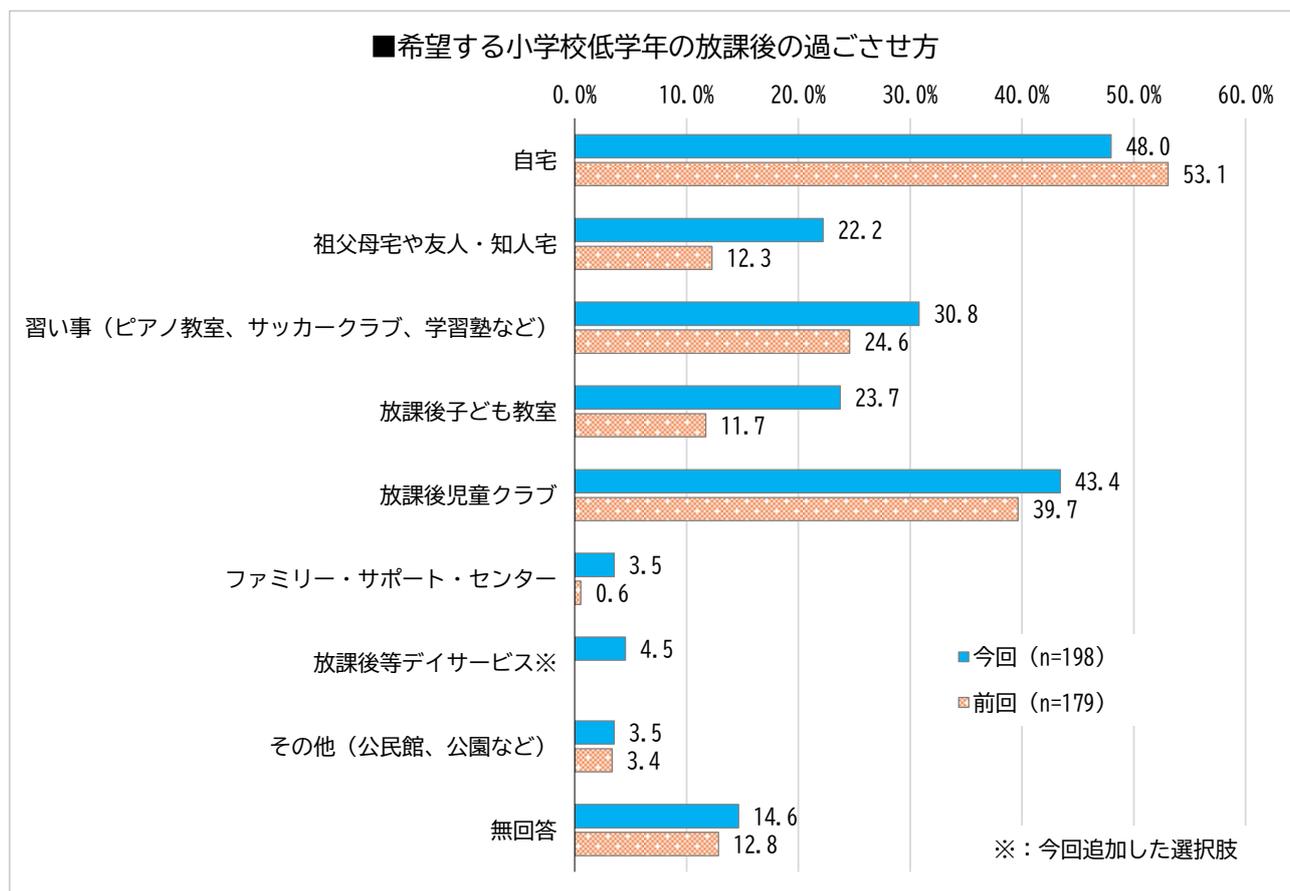
「あった」場合の対処方法としては、「(同居者を含む) 親族・知人にみてもらった」が79.8%で最も回答割合が高くなっており、次いで、「仕方なく子どもを同行させた」が26.3%となっています。

前回調査では、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」との回答はありませんでしたが、今回調査では、2.0%となっています。

(9) 小学校就学後の放課後の過ごし方について

※5歳以上である方みの設問

問 宛名のお子さんについて、小学校低学年（1～3年生）のうちは、放課後（平日の小学校終了後）の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。



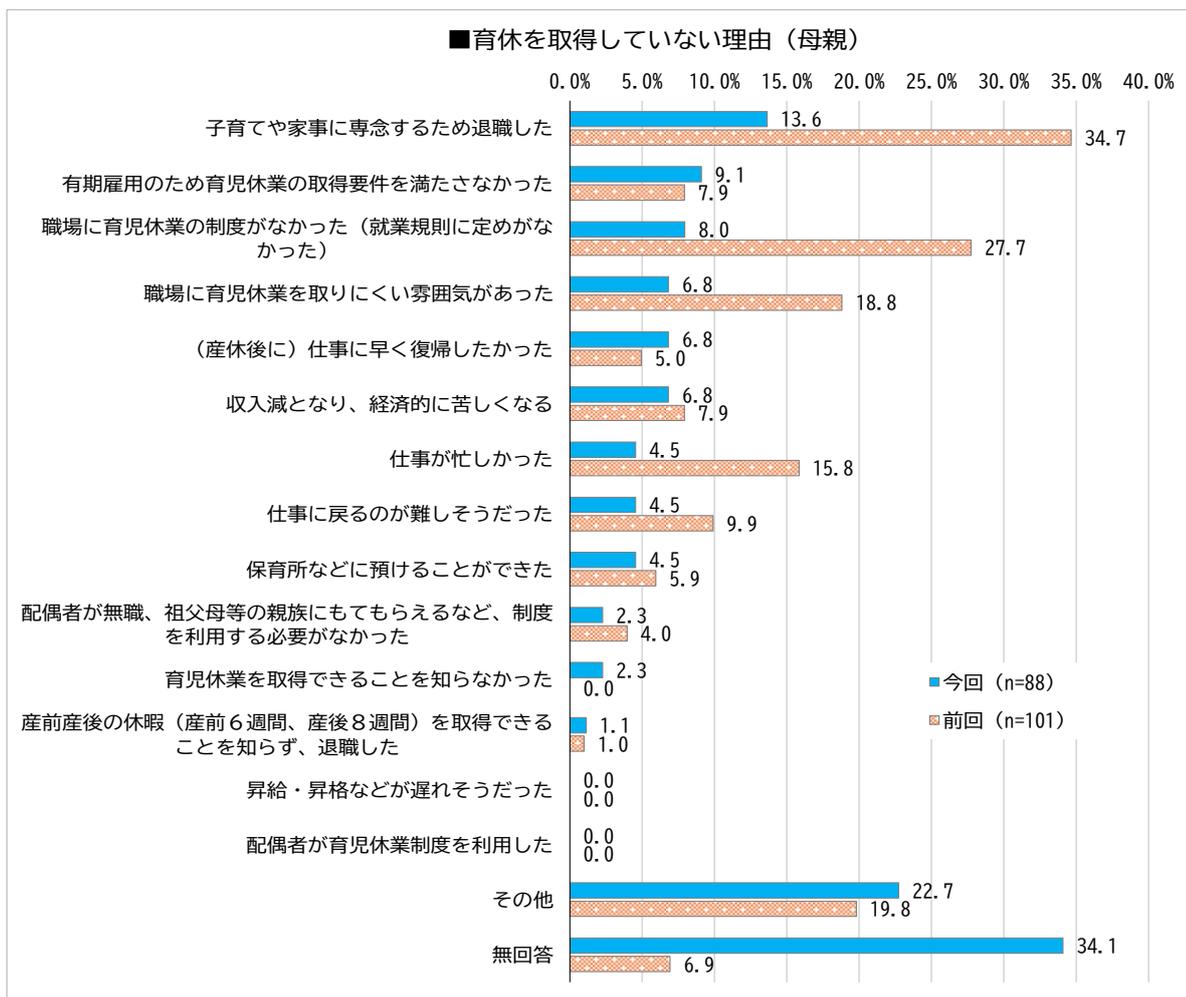
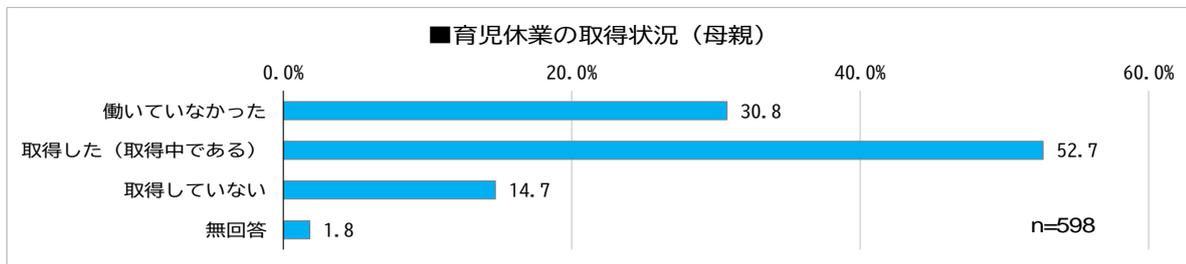
「自宅」が48.0%で最も高く、次いで、「放課後児童クラブ」が43.4%、「習い事（ピアノ教室、サッカークラブ、学習塾など）」が30.8%となっています。

前回調査に比べ、今回調査では、「放課後子ども教室」が12.0ポイントほど高くなっています。

※：放課後子ども教室：地域の方々の協力を得て、放課後や週末に小学校や公民館で学習・スポーツ・文化芸術活動などを体験する取組です。保護者の就労の有無に関わらず、すべての小学生が利用できます。

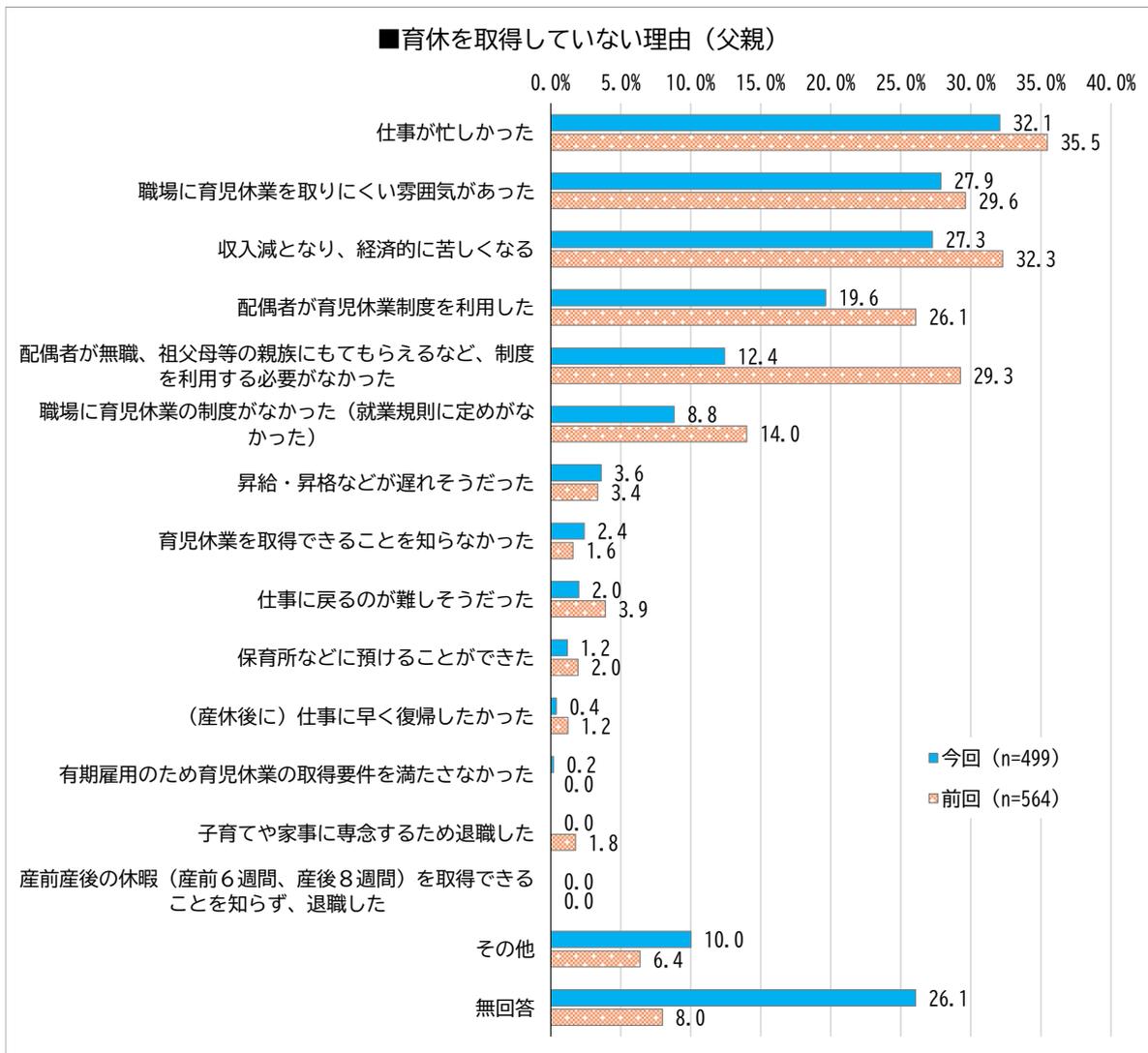
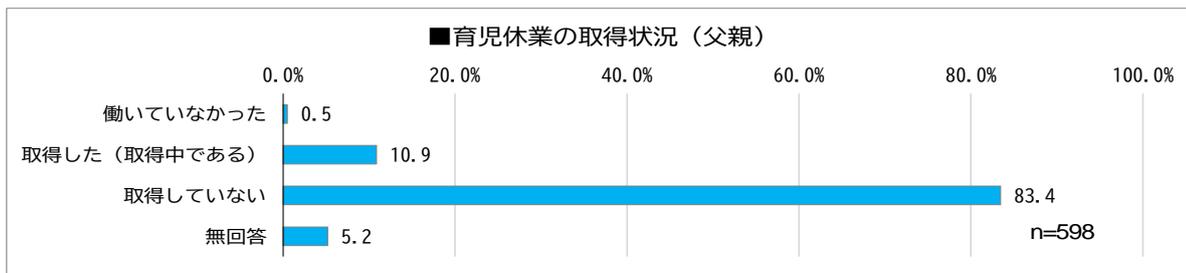
(10) 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について

問 宛名のお子さんが生まれたとき、父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得しましたか。母親、父親それぞれについて、お答えください。また、取得していない方はその理由をお答えください。



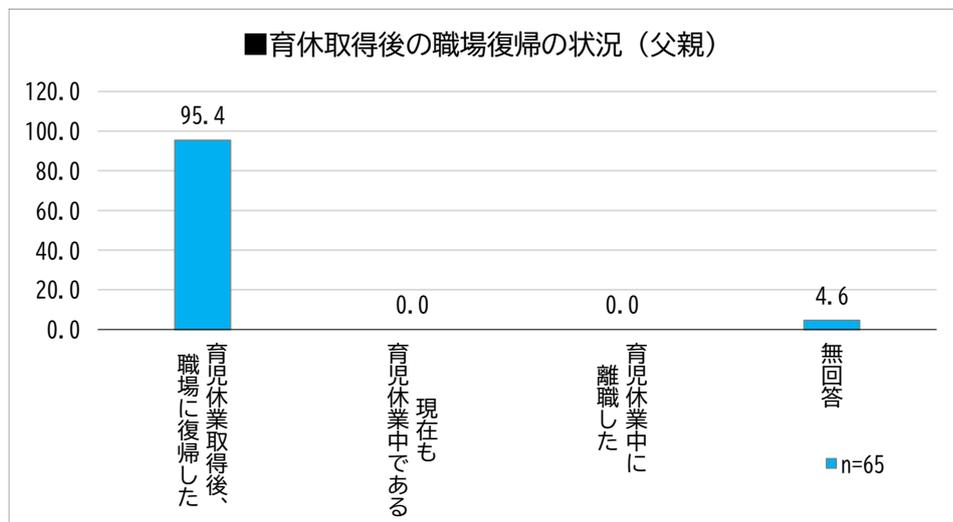
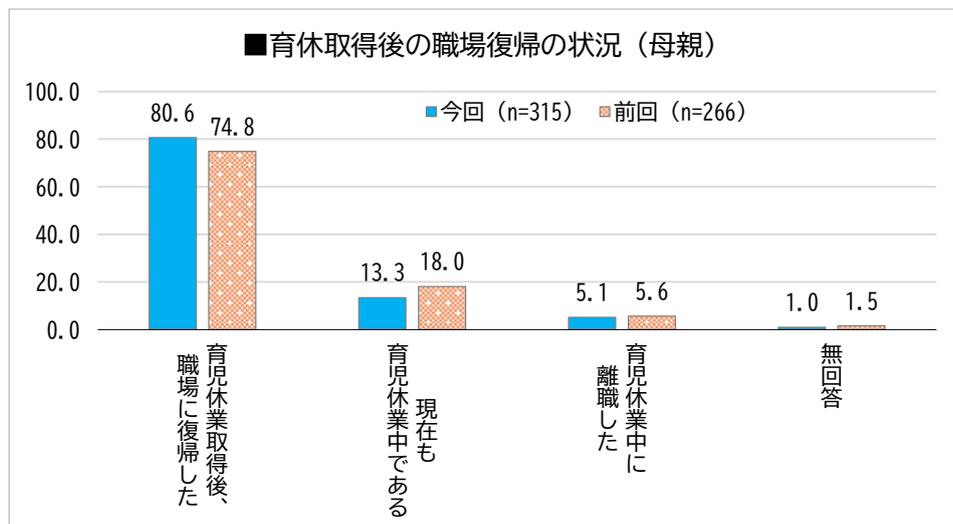
「子育てや家事に専念するため退職した」が13.6%で最も高くなっています。次いで、「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった」が9.1%、「職場に育児休業の制度がなかった（就業規則に定めがなかった）」が8.0%となっています。

前回調査に比べると、無回答が3割強と多く、全体的に回答割合が低くなっているため、割合の差の比較は難しくなっていますが、前回3番目であった「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」は今回4番目となり、代わりに、「有期雇用のため育児休業の取得要件を満たさなかった」が2番目となっています。



「仕事が忙しかった」が32.1%で最も高くなっています。次いで、「職場に育休取得が難しい雰囲気があった」が27.9%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」が27.3%となっています。前回調査と比べ、上位2番目と3番目の順序は入れ替わっていますが、上位3項目は同様となっています。いずれも、制度はあるものの、取得しづらい環境や認識があることがうかがえます。このため、取得促進に向けた事業所や就労者へのPRの促進とともに、育休取得しても、手当や社会保険料の免除などで大幅な収入減とならないことなど、制度そのもののPRの充実が必要です。

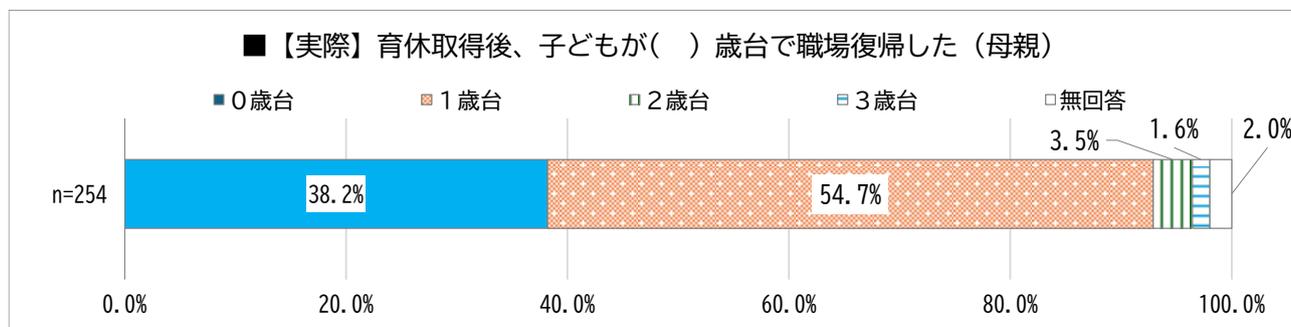
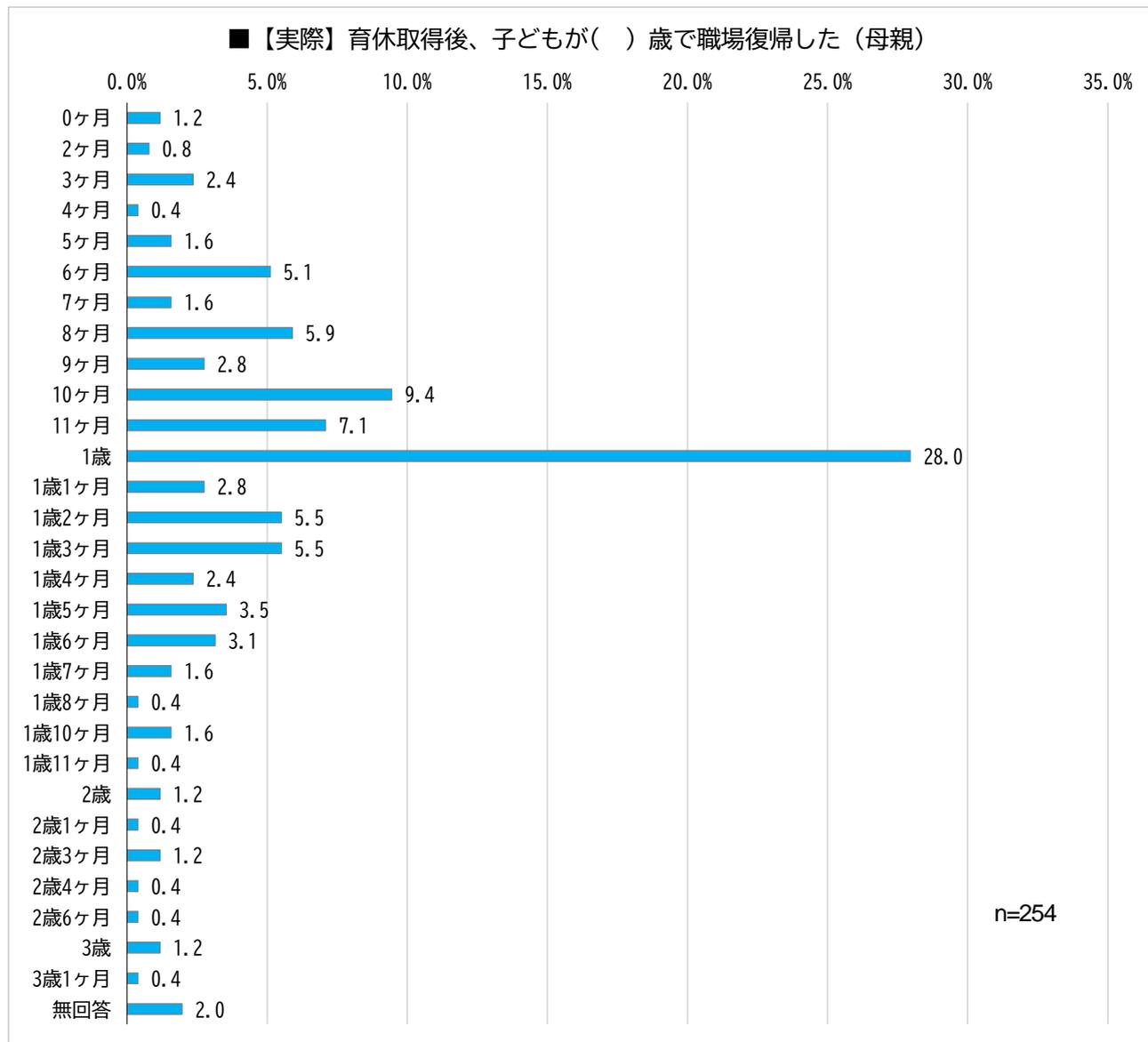
問 前問で「取得した（取得中である）」と回答した方にうかがいます。育児休業取得後、職場に復帰しましたか。



母親が80.6%、父親が95.4%となっています。一方、「育児休業中に離職した」は母親のみ回答があり、5.1%となっています。

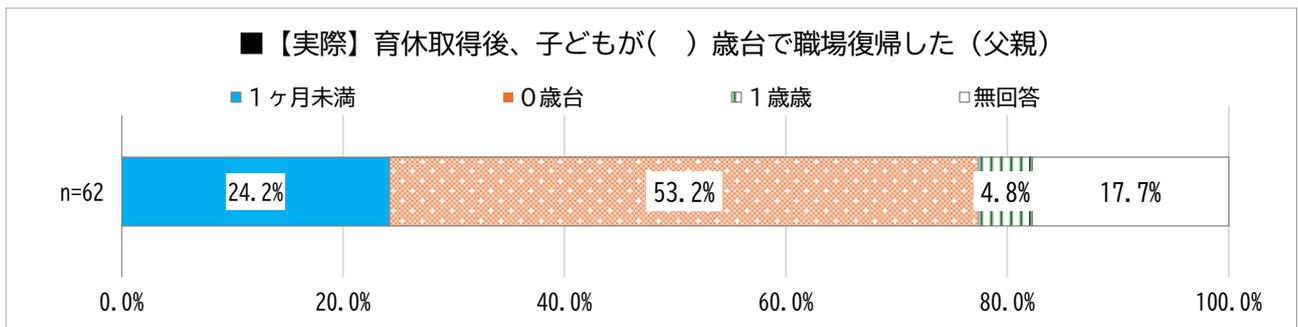
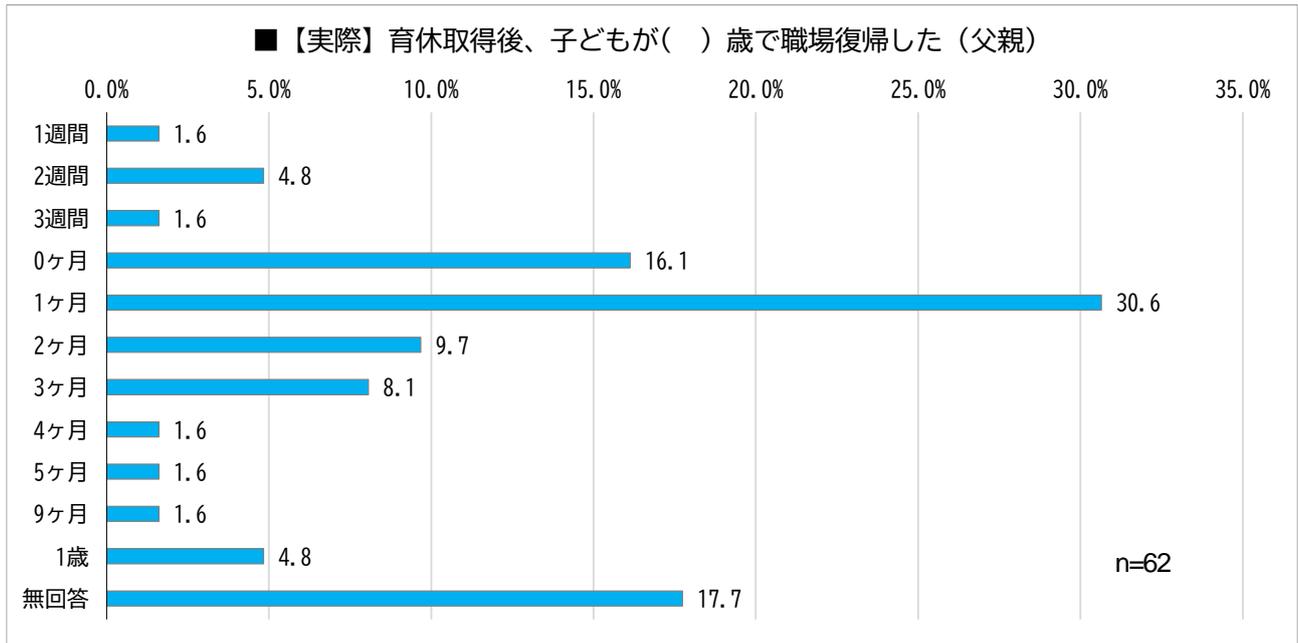
問 前問で「育児休業取得後、職場に復帰した」と回答した方にうかがいます。育児休業からは、「実際」にお子さんが何歳何ヶ月のときに職場復帰しましたか。また、お勤め先の育児休業の制度の期間内で、お子さんが何歳何ヶ月のときまで取りたかったですか。

● 実際の職場復帰時期（母親）



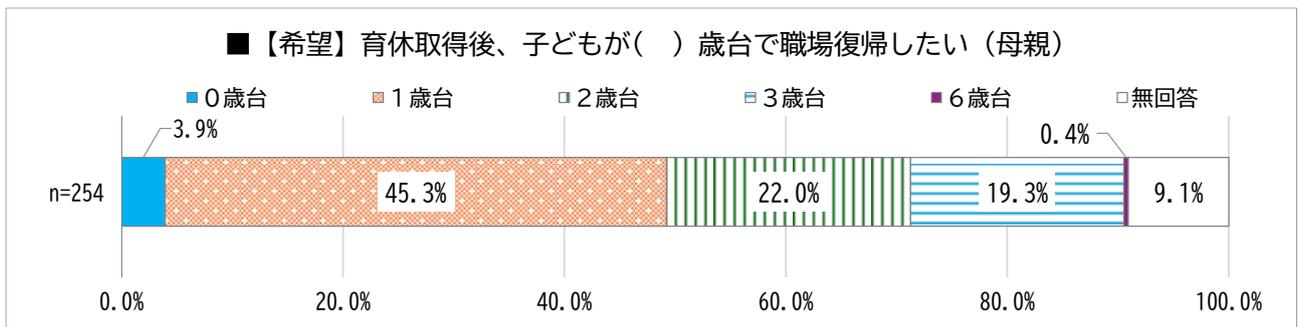
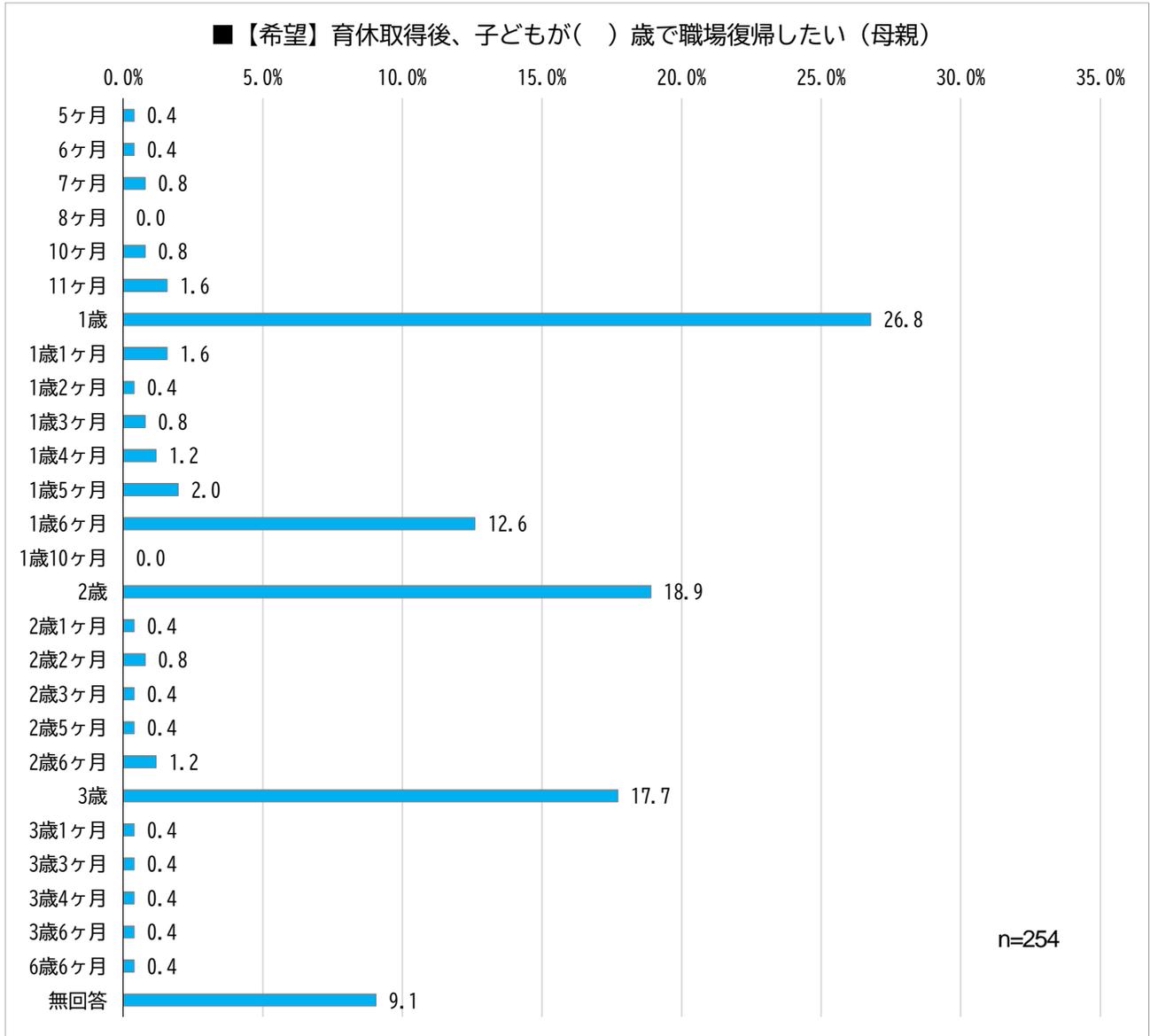
母親は、「1歳台」で職場復帰する人の割合が54.7%で最も高くなっています。

● 実際の職場復帰時期（父親）



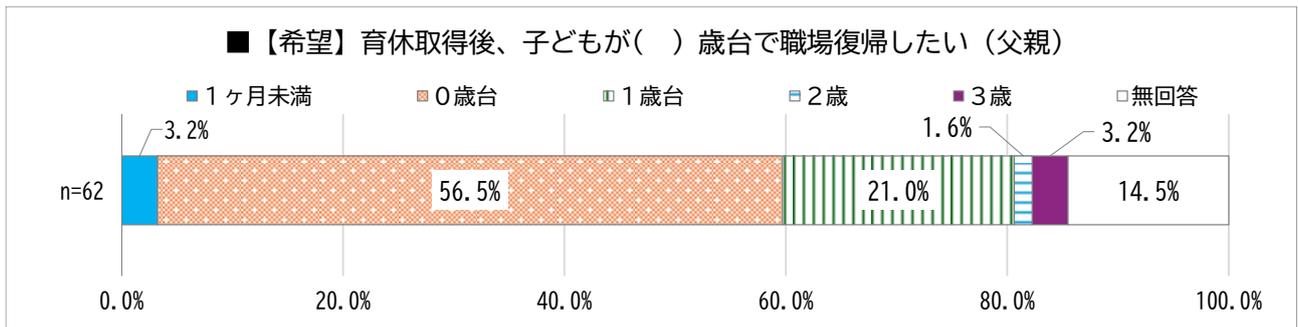
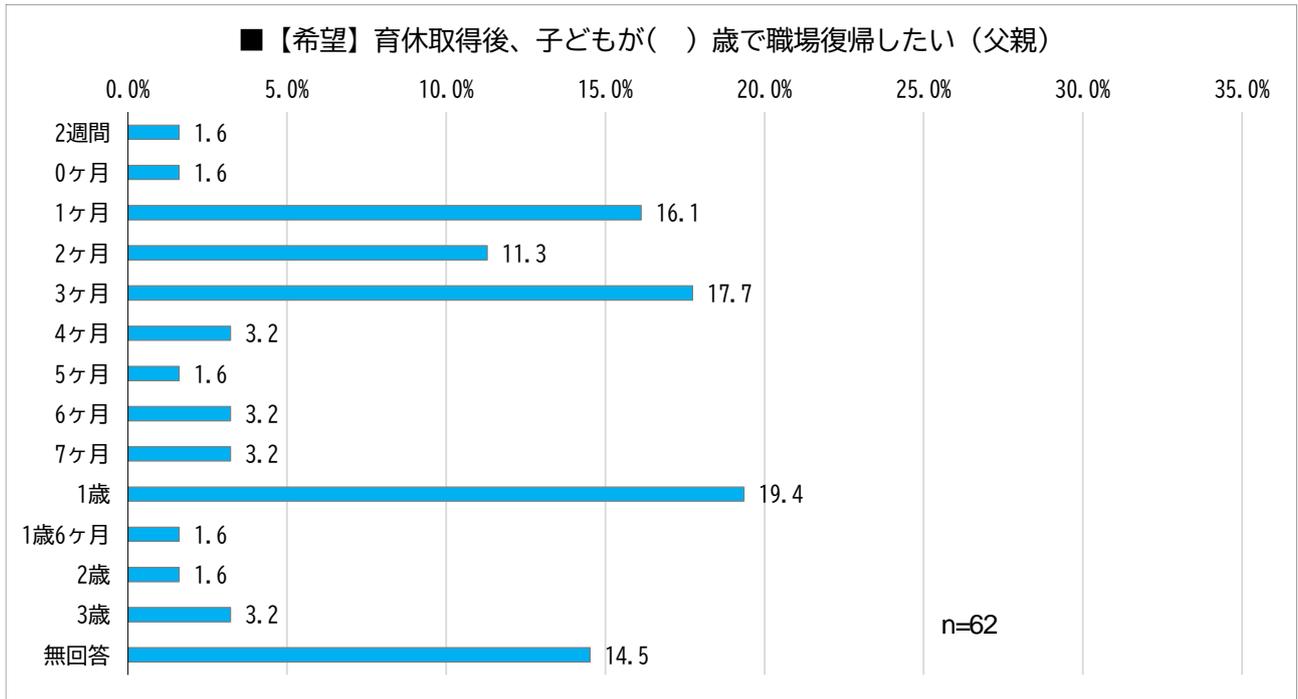
父親は、「0歳台」で職場復帰する人の割合が53.2%で最も高くなっています。

●希望する職場復帰時期（母親）



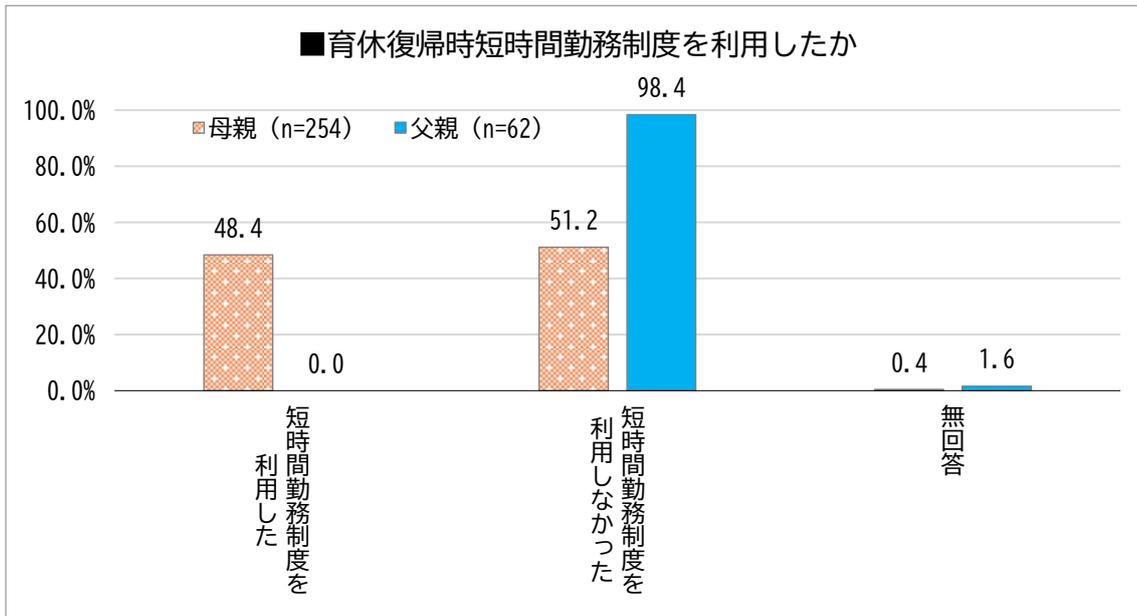
母親は実際の復帰時期とも「1歳台」が45.3%で最も高くなっていますが、「2歳台」は22.0%、「3歳台」は19.3%となっており、実際の「2歳台」3.5%、「3歳台」1.6%に比べ、高い割合となっています。

●希望する職場復帰時期（父親）



父親は、実際の復帰時期と同様の「0歳台」が56.5%で最も高い割合となっていますが、「1歳台」は21.0%となっており、実際の4.8%に比べ高くなっています。

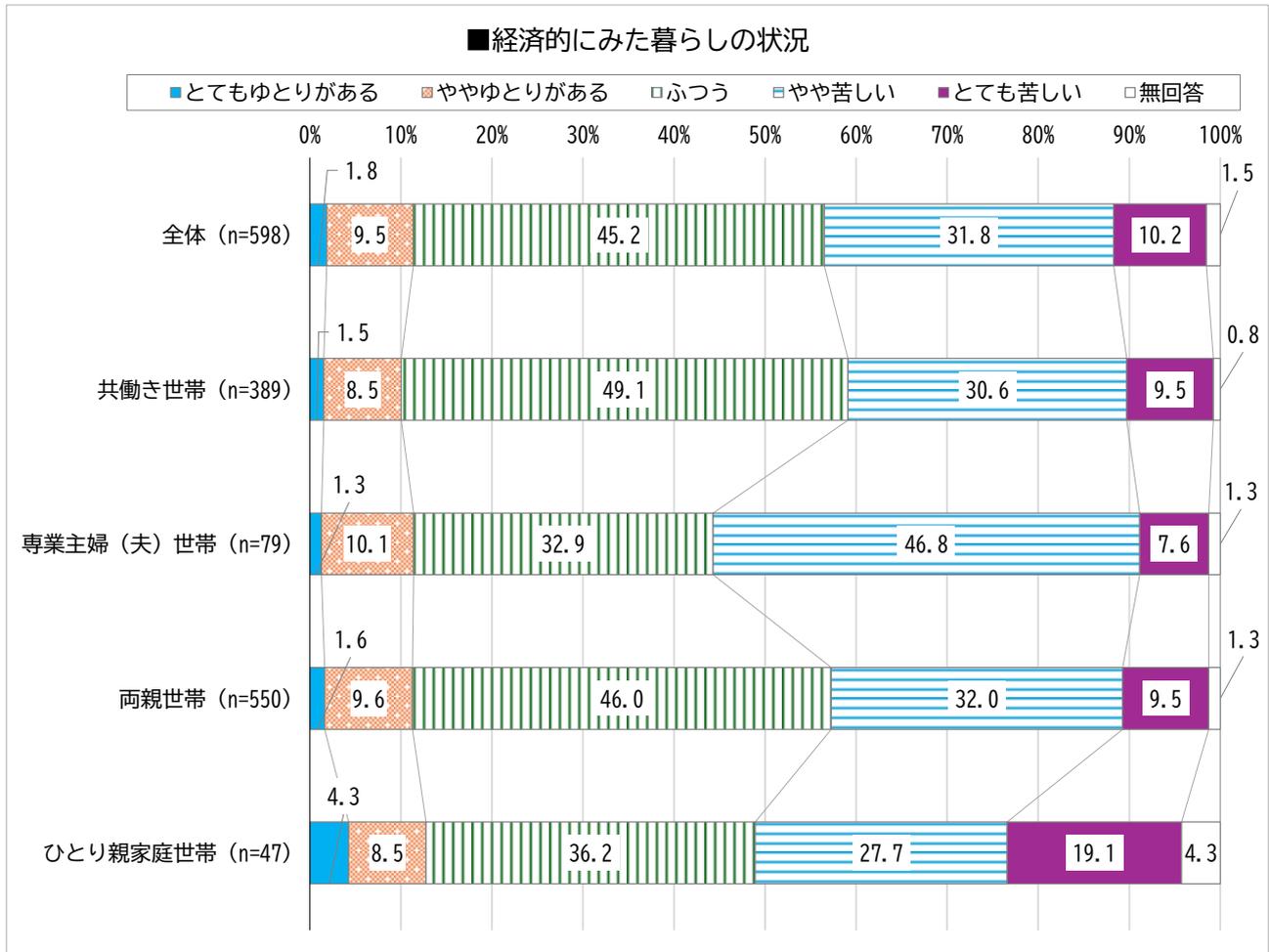
問 育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用しましたか。



短時間制度の利用の割合について、母親は「短時間勤務制度を利用した」が48.4%、父親は0.0%となっており、取得した父親は皆無となっています。

(11) 子育て全般について

問 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。



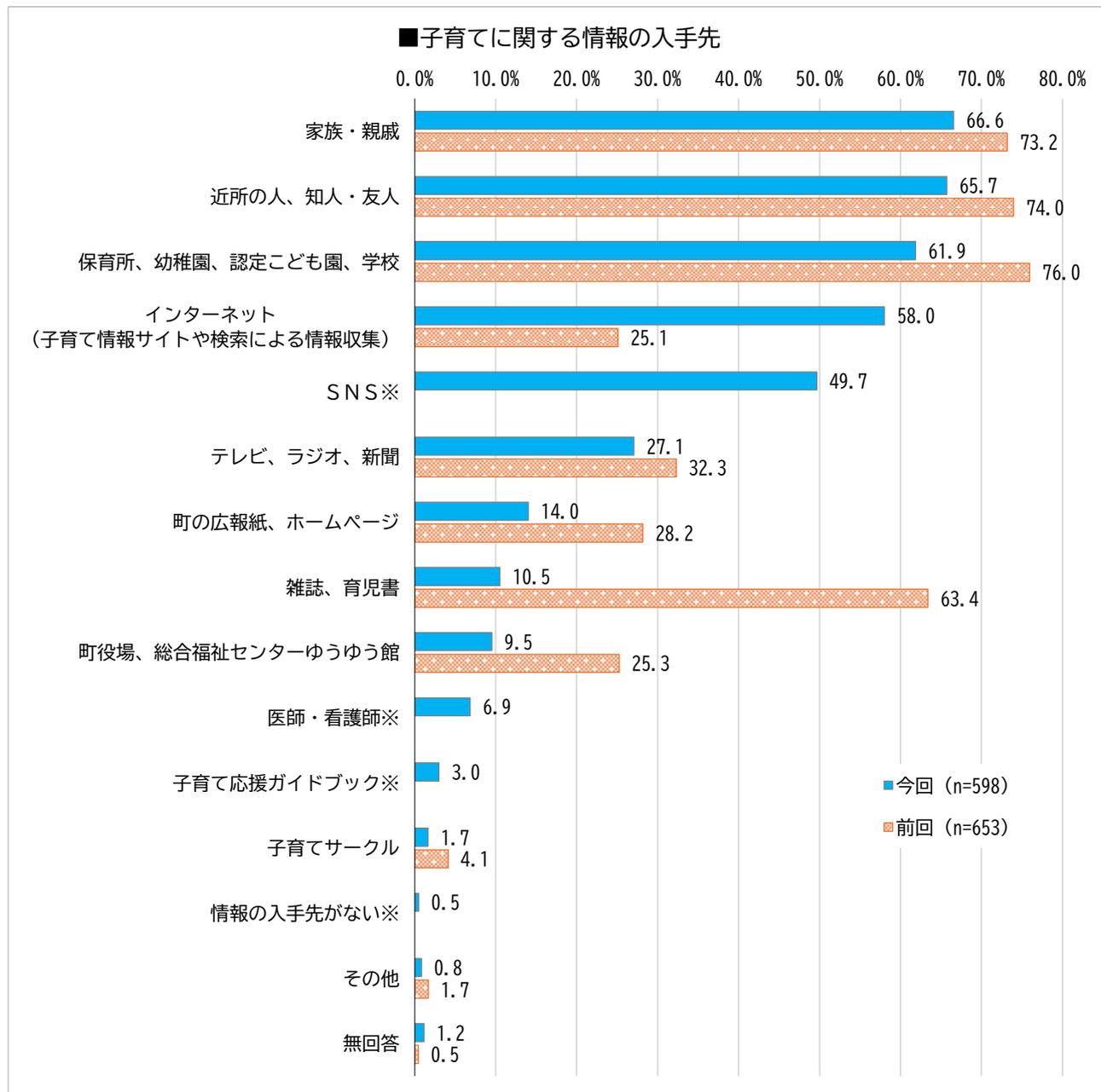
全体では、「ふつう」が45.2%で最も高く、次いで、「やや苦しい」が31.8%となっています。「とてもゆとりがある」と「ややゆとりがある」を合わせたゆとりがあると感じる世帯は11.3%で1割強、「やや苦しい」と「とても苦しい」を合わせた暮らし向きが苦しいと感じる世帯は42.0%で4割強となっています。

就労状況別にみると、「共働き世帯」では「ふつう」が49.1%で最も高く、「専業主婦(夫)世帯」では「やや苦しい」が46.8%で最も高くなっています。

世帯類型別にみると、「両親世帯」、「ひとり親家庭世帯」とともに、「ふつう」の割合が最も高くなっていますが、「ひとり親家庭世帯」では、「とても苦しい」が19.1%となっており、「両親世帯」の9.5%に比べ、9.6ポイント高くなっています。

「やや苦しい」と「とても苦しい」を合わせた暮らし向きが苦しいと感じる世帯は「専業主婦(夫)世帯」が54.4%で、5割強となっており、全体的に4割強なのに対し、1割以上高くなっています。

問 子育てに関する情報をどこから入手していますか。



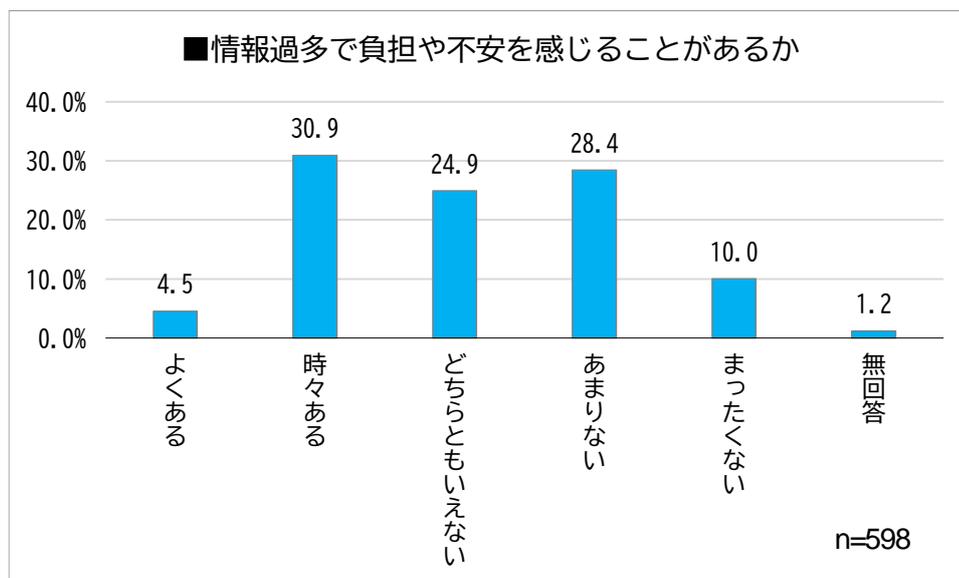
「家族・親戚」が66.6%で最も高くなっており、次いで、「近所の人、知人・友人」が65.7%、「保育所、幼稚園、認定こども園、学校」が61.9%となっています。

前回調査と比べると、順位は異なりますが上位3項目は同様となっています。

一方、「インターネット（子育て情報サイトや検索による情報収集）」は前回の25.1%に対し、今回調査では58.0%と、32.9ポイント上昇しました。また、今回調査で追加したSNSは49.7%となっており、半数近くの人が入手先として挙げています。

このことから、今後の情報発信においては、インターネットやSNSの活用を積極的に図っていくことが重要となってくると考えられます。

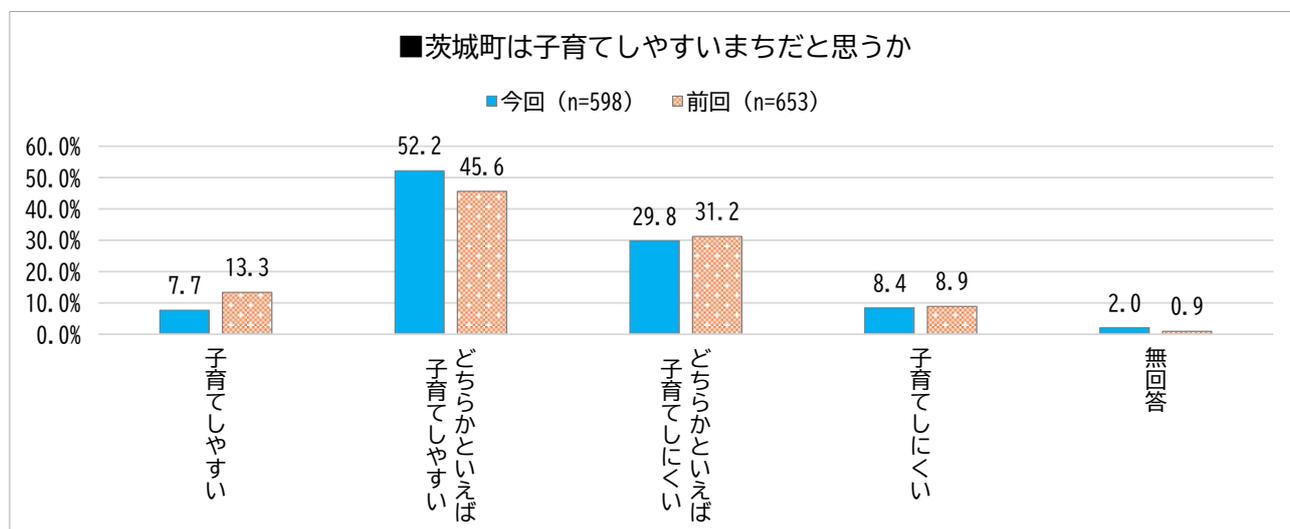
問 様々な子育てに関する情報を入手する中で、情報が多すぎて何をすればよいかわからなくなり、負担や不安を感じることはありますか。



「よくある」が4.5%、「時々ある」が30.9%で、合わせて35.4%となり、3割半の人が負担や不安を感じているという結果となりました。

今後、負担や不安を軽減するため、正しい情報の入手先の周知などが必要と考えられます。

問 茨城町は子育てしやすいまちだと思いますか。

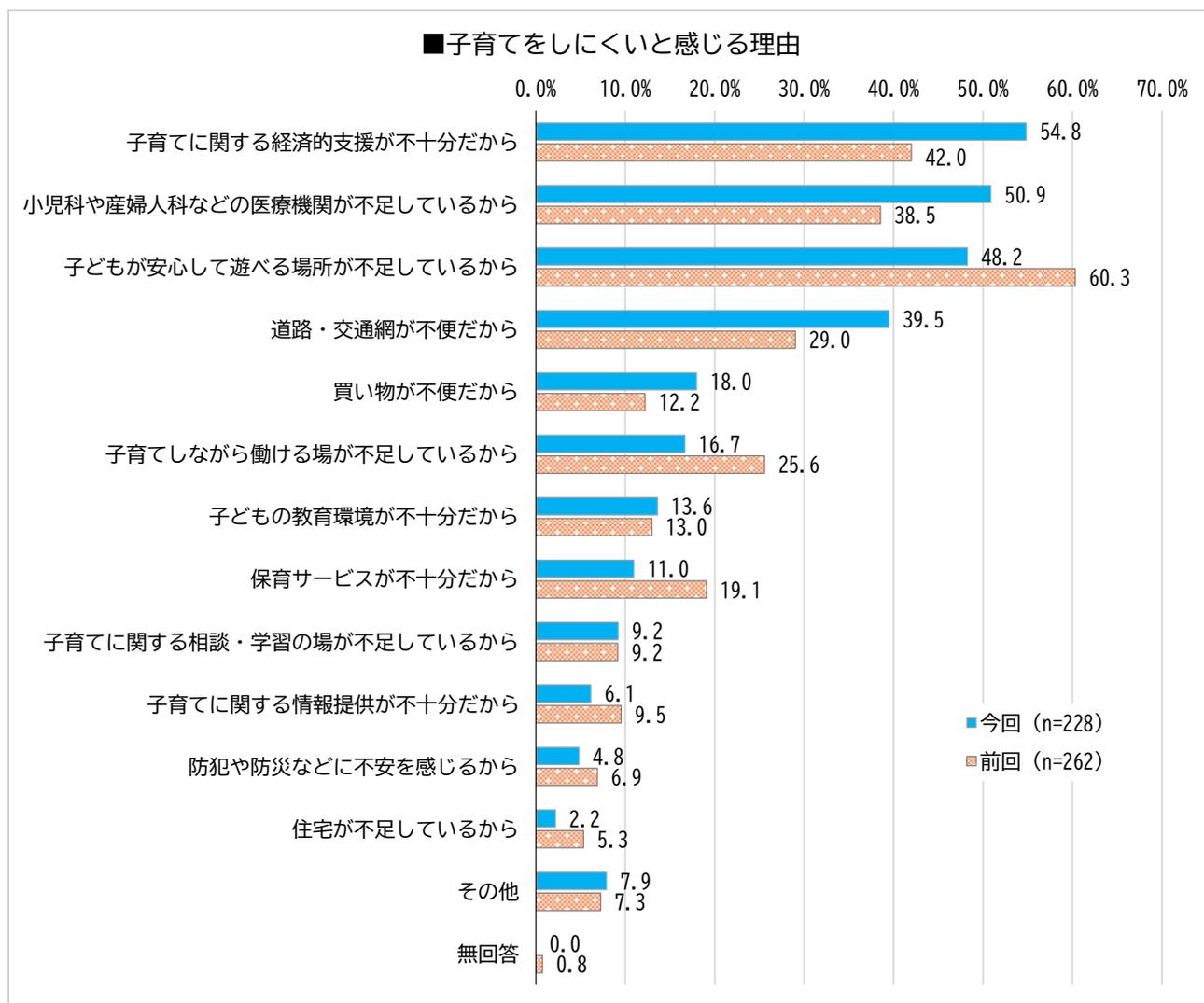


「子育てしやすい」が7.7%、「どちらかといえば子育てしやすい」が52.2%で、合わせて59.9%となり、6割弱の人が茨城町は子育てをしやすいまちだと感じている結果となりました。

前回調査に比べ、「子育てしやすい」が若干低下する一方、「どちらかといえば子育てしやすい」が若干上昇し、2つを合わせた子育てをしやすいまちだと感じる人の割合はほぼ前回同様となっています。

一方、「どちらかといえば子育てしにくい」と「子育てしにくい」とする回答割合もほぼ前回同様の結果となっています。

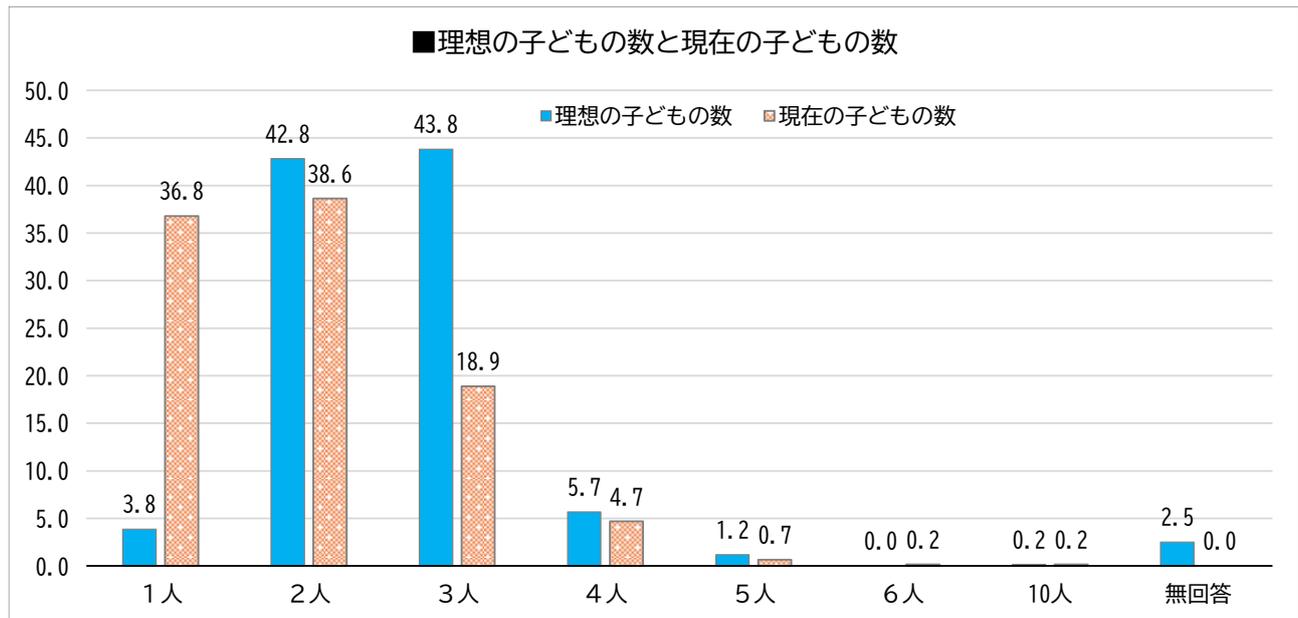
問 前問で「どちらかといえば子育てしにくい」または「子育てしにくい」に○をつけた方にうかがいます。子育てしにくいと感じる理由は何ですか。



「子育てに関する経済的支援が不十分だから」が54.8%で最も高くなっており、次いで、「小児科や産婦人科などの医療機関が不足しているから」が50.9%、「子どもが安心して遊べる場所が不足しているから」が48.2%となっています。

上位3項目については前回調査となっていますが、順位については、前回は「子どもが安心して遊べる場所が不足しているから」が1番目であったのに対し、今回調査では、「子育てに関する経済的支援が不十分だから」が1番目となっており、昨今の社会経済情勢を反映した結果ではないかとも考えられます。

問 あなたにとって、理想的な子どもの数は何人ですか。

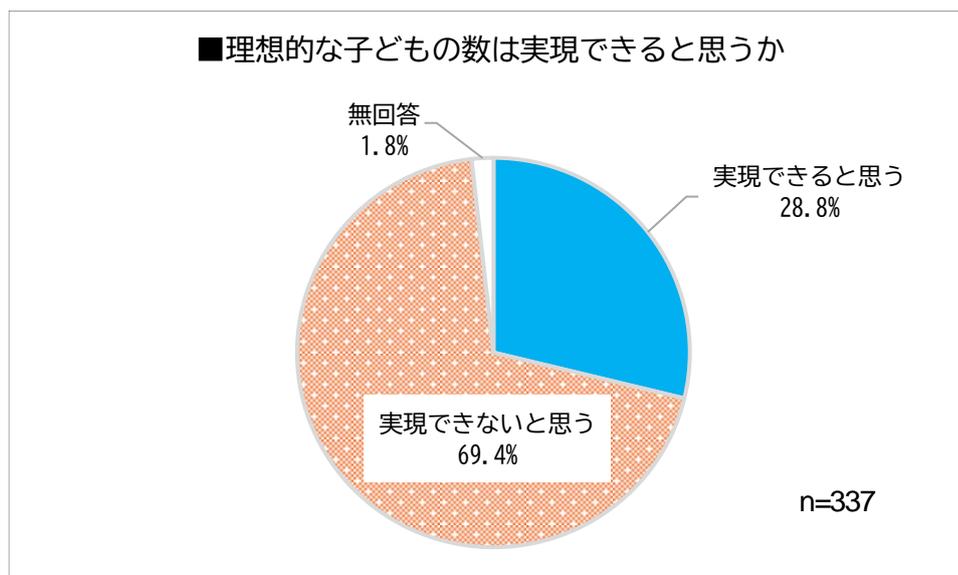


理想の子どもの数の割合は「3人」が43.8%で最も高く、次いで、「2人」が42.8%となっています。

一方、現在の子どもの数は、「2人」が38.6%で最も高く、次いで、「1人」が36.8%となっています。

現状では、現在の子どもの数が理想のこどもの数を下回る状況となっています。

問 前問で現在のお子さんの数よりも多い人数を答えた方にうかがいます。理想的な子どもの数は実現できると思いますか。

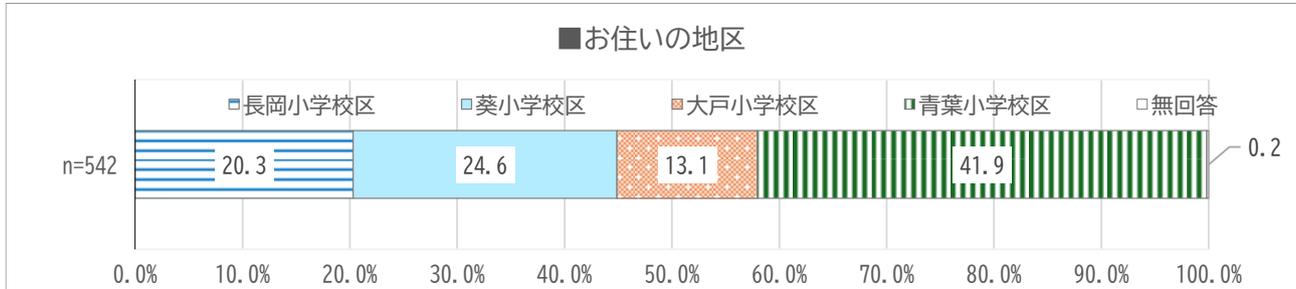


「実現できると思う」が28.8%、「実現できないと思う」が69.4%となっています。

3 調査結果 (2.小学生)

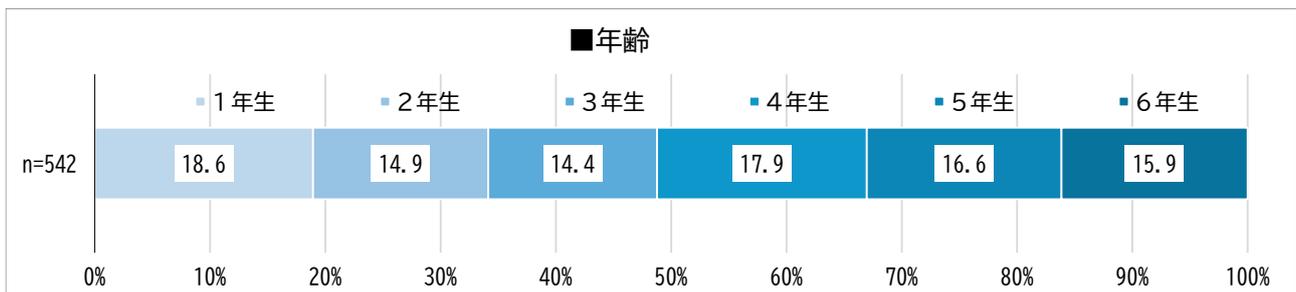
(1) 住んでいる地域について

問 お住まいの地区名について、あてはまるものをお答えください。

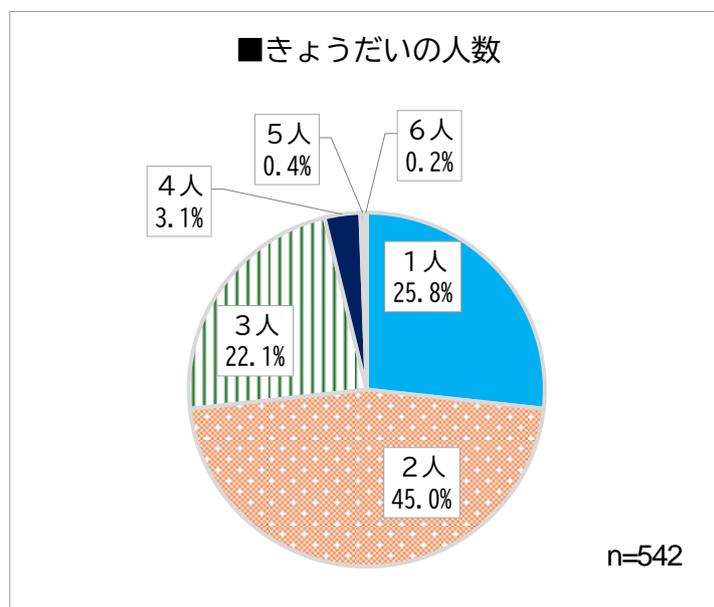


(2) 子どもと家族の状況について

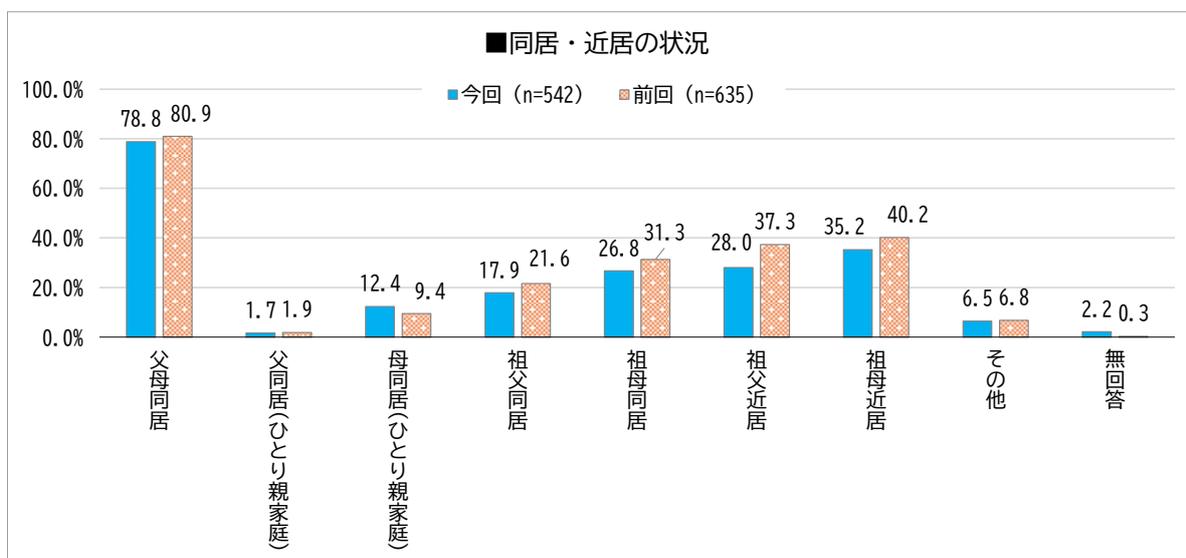
問 宛名のお子さんの学年をお答えください。



問 宛名のお子さんのきょうだいは何人いらっしゃいますか。宛名のお子さんを含めた人数をお答えください。



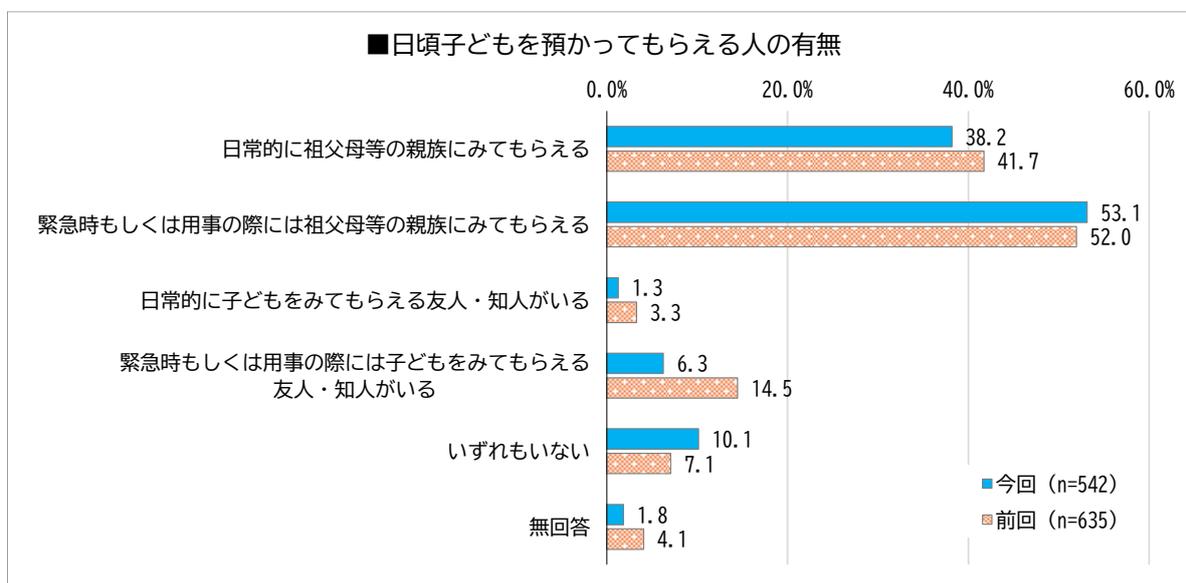
問 宛名のお子さんと同居・近居(概ね30分以内程度に行き来できる範囲)の状況についてうかがいます。続柄は宛名のお子さんからみた関係です。



「父母同居」が78.8%で最も高く、次いで、「祖母近居」が35.2%、「祖父近居」が28.0%となっています。

前回調査と今回調査の結果については、ほぼ同様の傾向となっています。

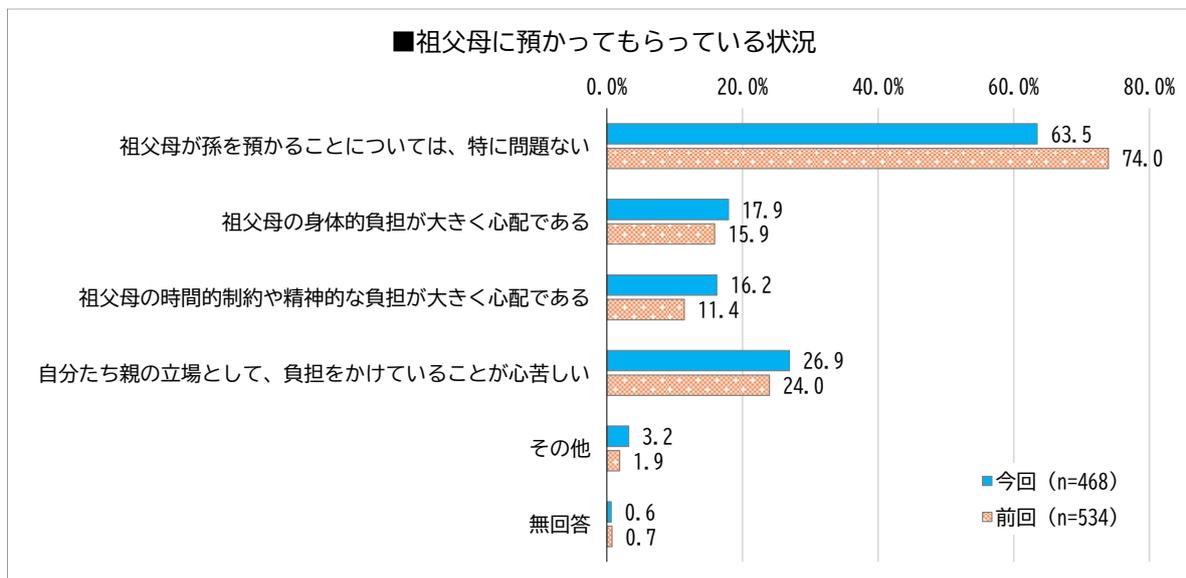
問 日頃、お子さんを預かってもらえる人はいますか。



「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が53.1%で最も高く、次いで、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が38.2%となっています。一方、「いずれもない」は10.1%となっており、約1割の家庭では、子どもを預けなければならない事態となった場合、困難な状況が生じることがうかがえます。

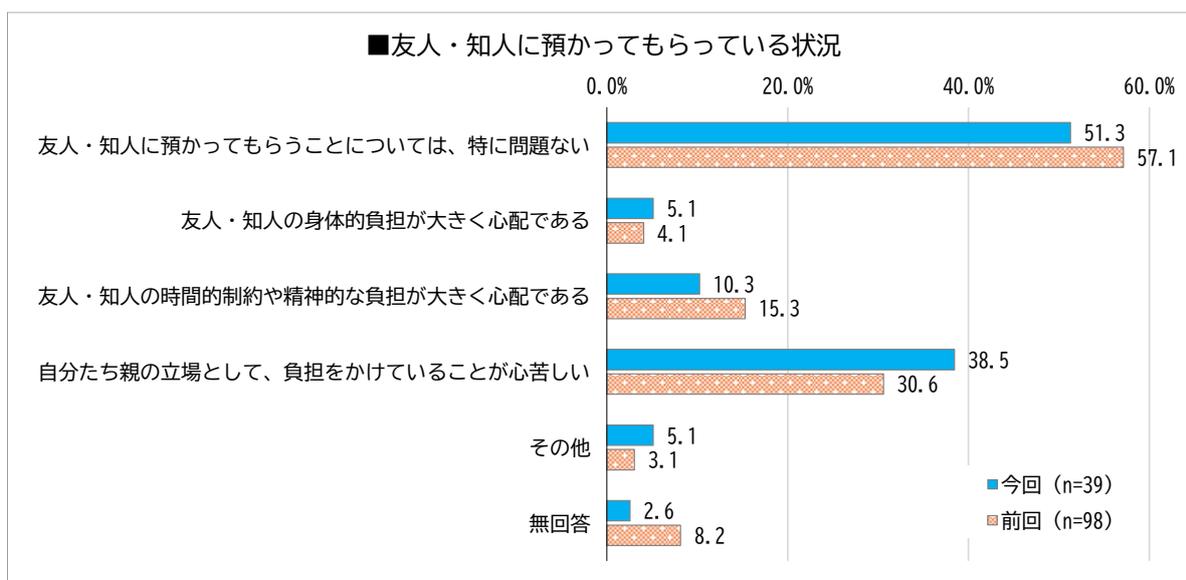
今回調査の上位2項目は前回調査と同様となっていますが、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」については、前回に比べ8.2ポイント低下しています。

問 前問で「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」または「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」を選んだ方に、祖父母に預かってもらっている状況についてうかがいます。



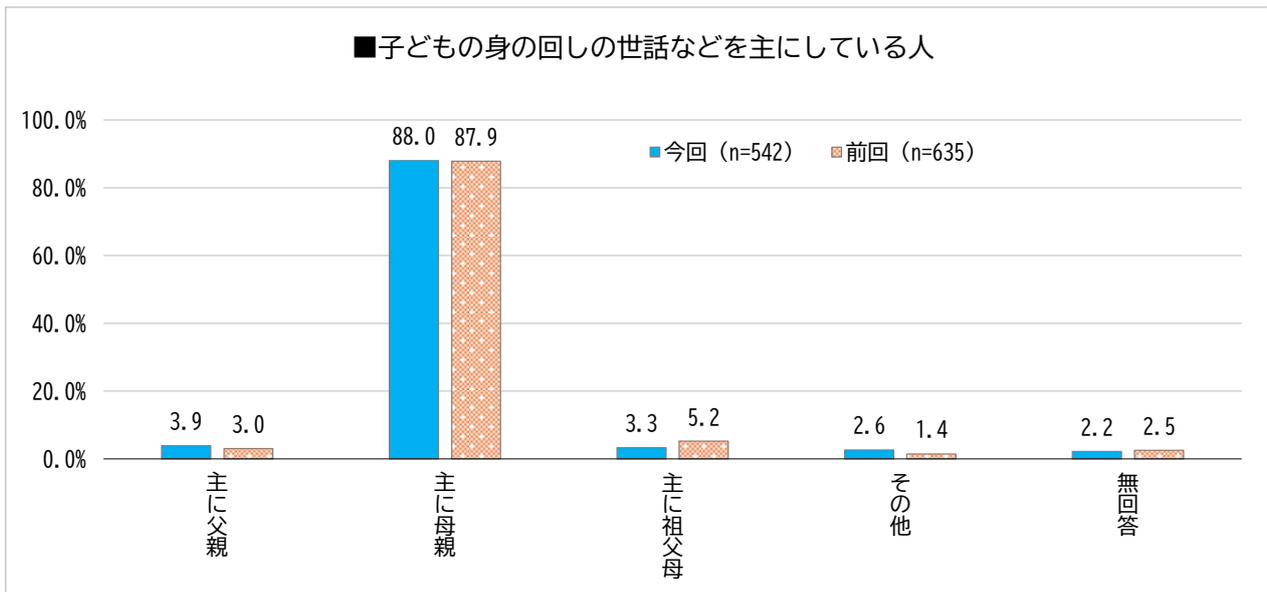
「祖父母が孫を預かることについては、特に問題ない」が63.5%で最も高く、次いで、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が26.9%となっており、上位2項目については、前回調査と同様となっています。

問 前々問で「日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」または「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」を選んだ方に、友人や知人に預かってもらっている状況についてうかがいます。



「友人・知人に預かってもらうことについては、特に問題ない」が51.3%で最も高く、次いで、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が38.5%となっており、上位2項目については、前回調査と同様となっています。

問 宛名のお子さんの身の回りの世話などを主にしている方をお答えください。続柄は宛名のお子さんからみた関係です。



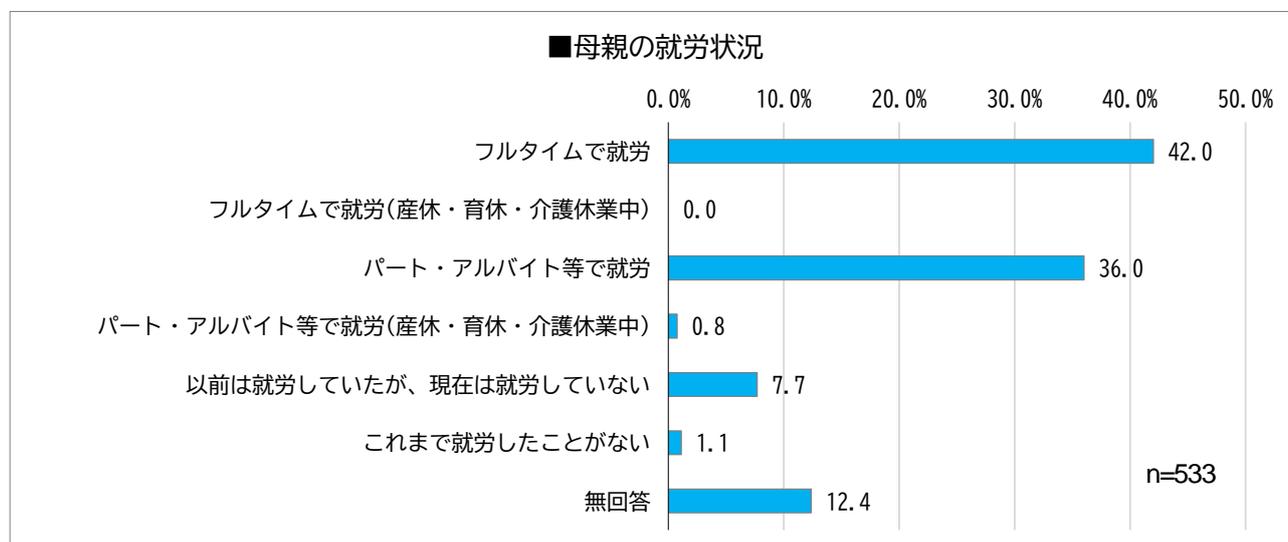
前回調査と同様に「主に母親」が88.0%で最も高くなっています。

また、前回調査と今回調査の結果については、ほぼ同様の傾向となっています。

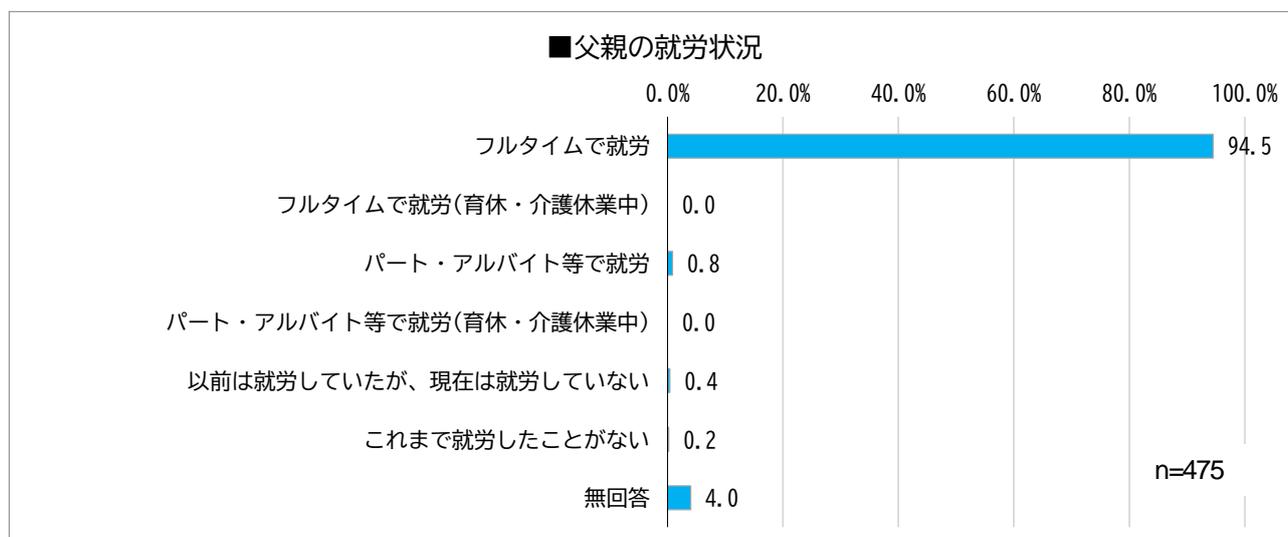
(3) 保護者の就労状況について

問 宛名のお子さんの保護者の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をうかがいます。

(1) 母親【父子家庭の場合は記入は不要です】



(2) 父親【簿子家庭の場合は記入は不要です】



※フルタイム：1週5日程度・1日8時間程度で就労していること

※パート・アルバイト等：「フルタイム」以外で就労していること

母親は、「フルタイムで就労」が42.0%となっています。「パート・アルバイト等で就労」が36.0%、「パート・アルバイト等で就労(産休・育休・介護休業中)」が0.8%で、合わせて36.8%がパート・アルバイト等での就労となっています。母親の就労は、フルタイムが4割強、パート・アルバイト等が4割弱となっており、合わせて8割弱が就労しています。

父親は、「フルタイムで就労」が94.5%となっています。

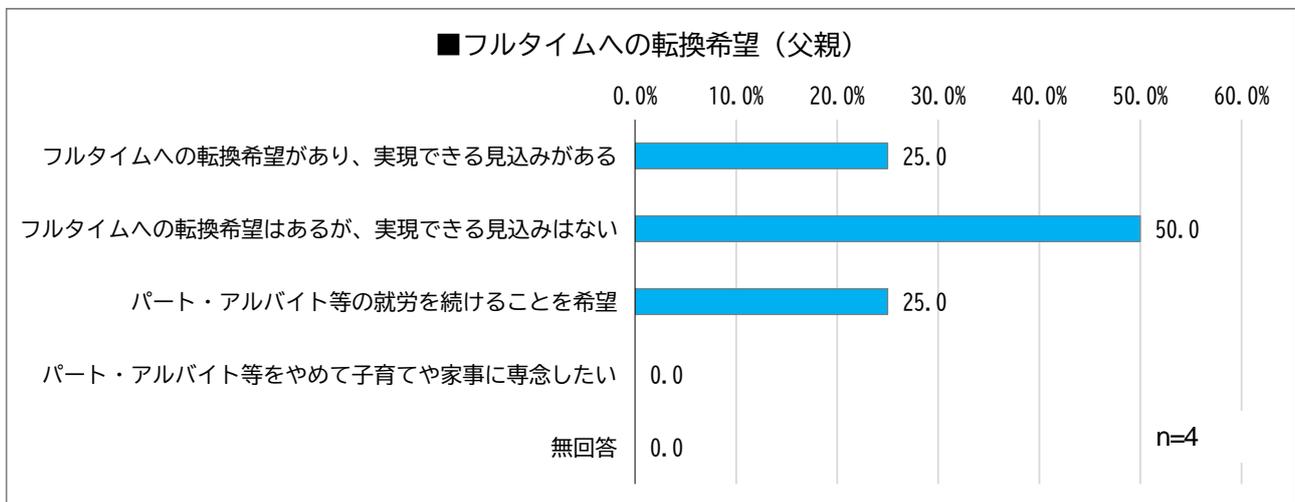
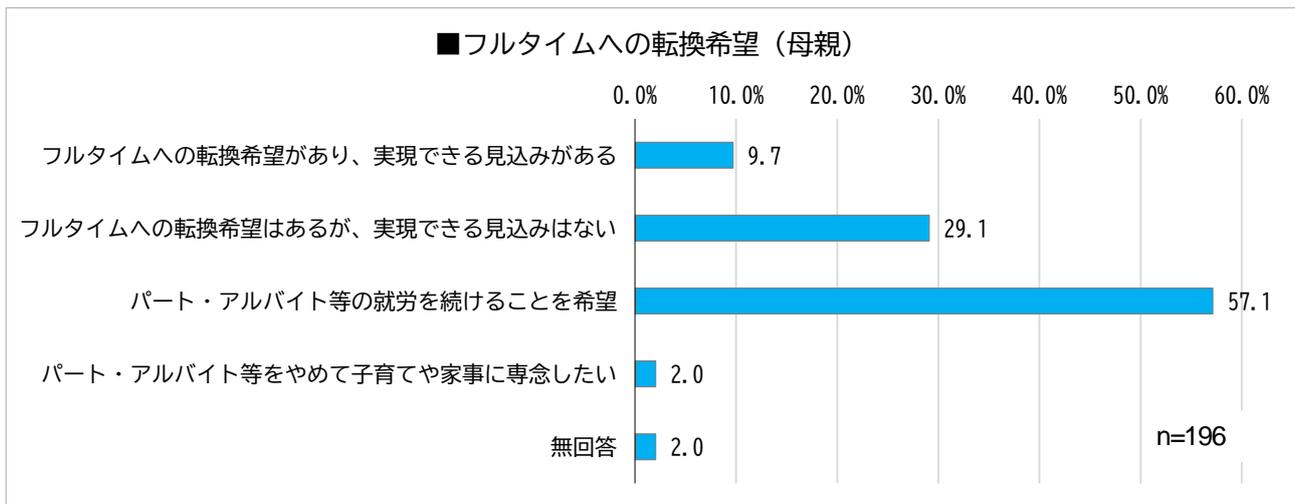
●共働き世帯の状況について

		合計	母親の就労状況						
			フルタイム	フルタイム(産休・育休・介護休業中)	パート・アルバイト等	パート・アルバイト等(産休・育休・介護休業中)	現在は就労していない	これまで就労したことがない	無回答
全体		466(人)	224	0	192	4	41	6	66
		100.0(%)	42.0	0.0	36.0	0.8	7.7	1.1	12.4
父親の就労状況	フルタイム	441	169	0	174	4	35	5	54
		100.0	38.3	0.0	39.5	0.9	7.9	1.1	12.2
	フルタイム(育休・介護休業中)	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	パート・アルバイト等	3	1	0	0	0	0	0	2
		100.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	66.7
	パート・アルバイト等(育休・介護休業中)	0	0	0	0	0	0	0	0
	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
現在は就労していない	2	1	0	0	0	0	0	1	
	100.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	
これまで就労したことがない	1	0	0	0	0	0	1	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	

ひとり親世帯 (n=76) を除き、両親世帯 (n=449) と世帯類型無回答 (n=17) を合わせた 466 世帯を母数として就労パターンをみると、父親がフルタイム (育休等含む)、母親もフルタイム (育休等含む) の世帯は 36.3%、父親がフルタイム (育休等含む)、母親がパート・アルバイト等 (育休等含む) の世帯は 38.2%、母親がフルタイム (育休等含む)、父親がパート・アルバイト等 (育休等含む) は 0.2% となっています。

なお、父親がフルタイムで母親が就労していない、母親がフルタイムで父親が就労していない、両親とも就労していない世帯を合わせた「専業主婦 (夫) 世帯」は 9.0% となります。

問 前問で「パート・アルバイト等で就労している（育休等含む）」に○をつけた方にうかがいます。フルタイムへの転換希望はありますか。

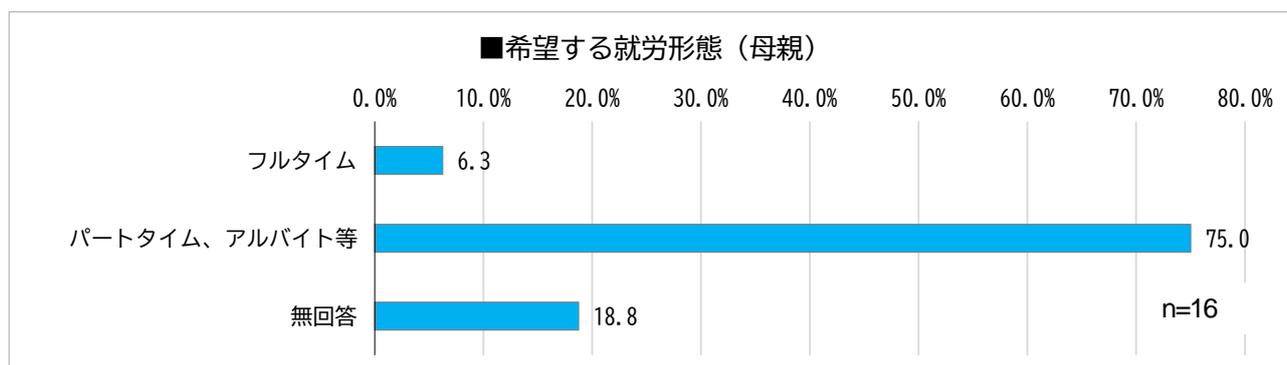
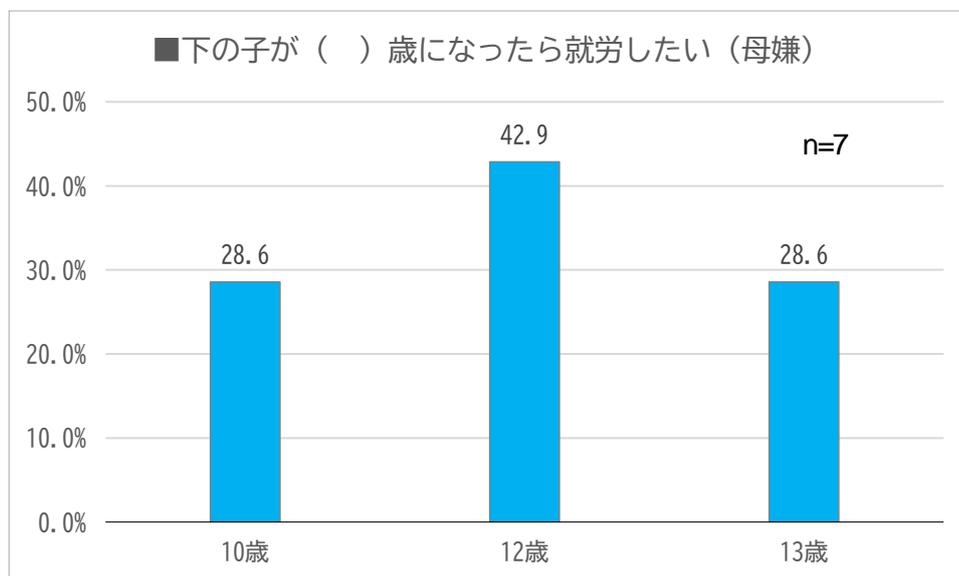
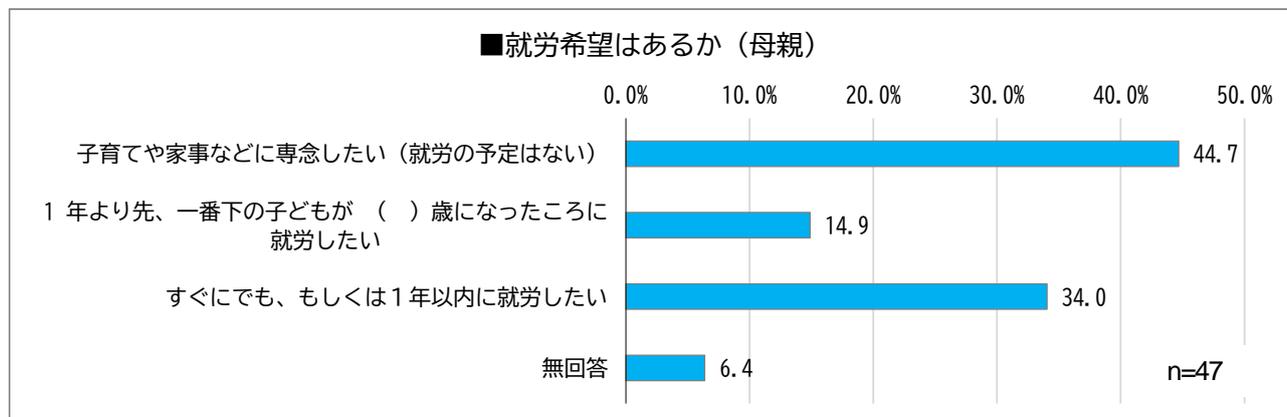


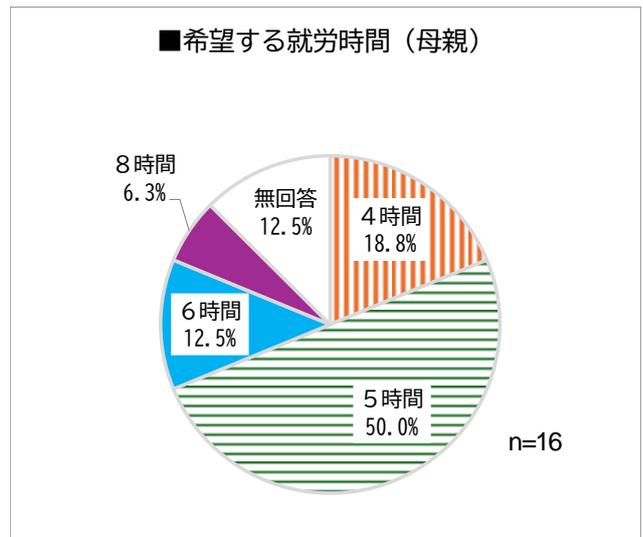
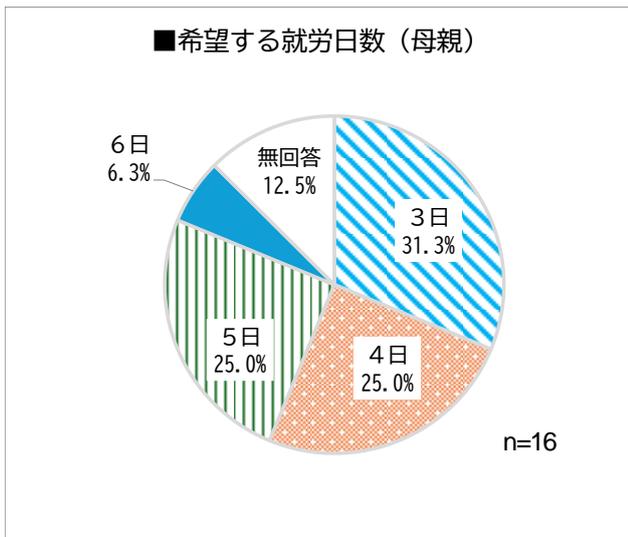
「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」と回答したのは、母親が9.7%、父親が25.0%となっています。

一方、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」と回答したのは、母親が57.1%、父親が25.0%となっています。

問 前問で「以前は就労していたが、現在は就労していない」または「これまで就労したことがない」に○をつけた方にうかがいます。就労したいという希望はありますか。

●母親



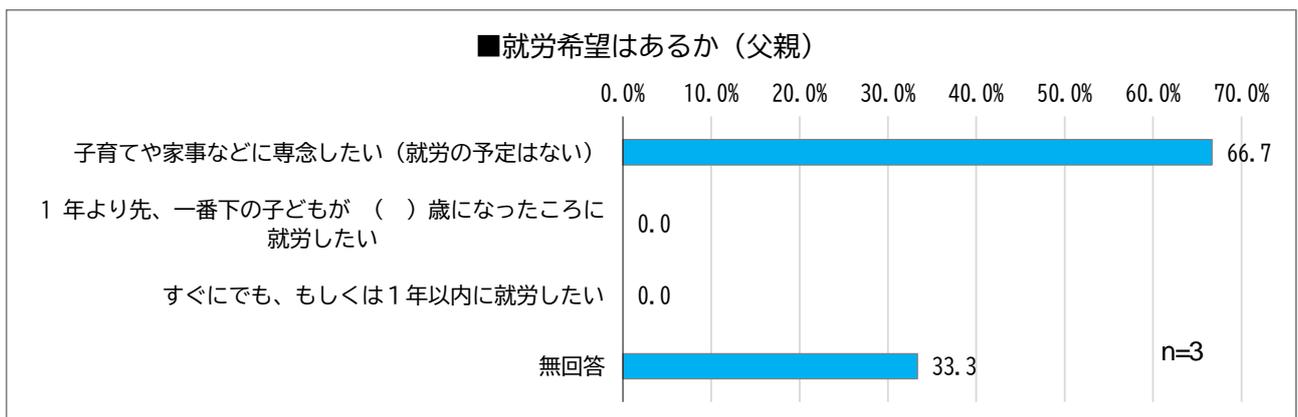


現在、就労していない母親に就労希望を聞いたところ、「1年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったところに就労したい」が14.9%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が34.0%で、合わせて48.9%となり、就労を考えている人の割合は5割弱となっています。一方、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」は44.7%で、就労を予定していない人の割合は4割半ばとなっています。

「1年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったところに就労したい」と答えた人に関して、子どもが何歳になったら就労したいかを具体的に記述してもらったところ、「12歳」が42.9%で最も高くなっています。

「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と答えた人に希望する就労形態と就労日数、就労時間を聞いたところ、就労形態は「パートタイム、アルバイト等」が75.0%、1週当たりの就労日数は「3日」が31.3%、次いで。「4日」と「5日」が25.0%、1日当たりの就労時間は「5時間」が50.0%で最も高くなっています。

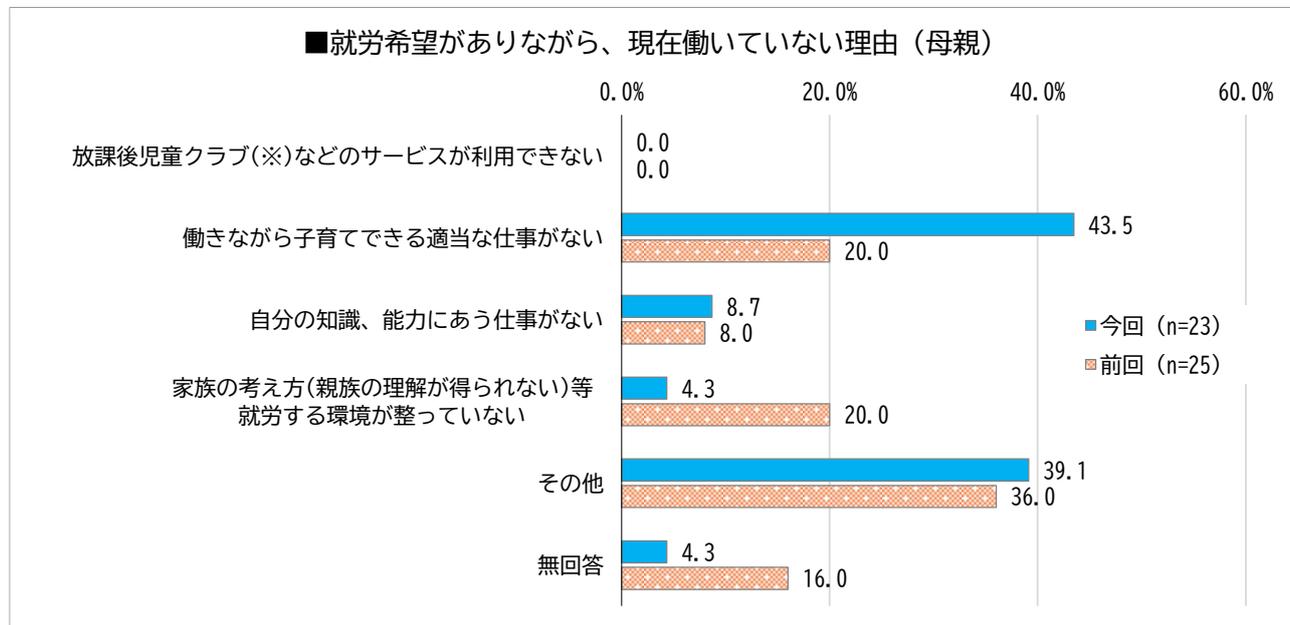
●父親



現在、就労していない父親に就労希望を聞いたところ、「子育てや家事などに専念したい（就労の予定はない）」66.7%、「無回答」が33.3%で、就労を希望する父親はいませんでした。

問 前問で「1年より先、一番下の子どもが（ ）歳になったころに就労したい」または「すぐにも、もしくは1年以内に就労したい」を選ばれた方にうかがいます。就労希望がありながら、現在働いていない理由は何ですか。

●母親のみ

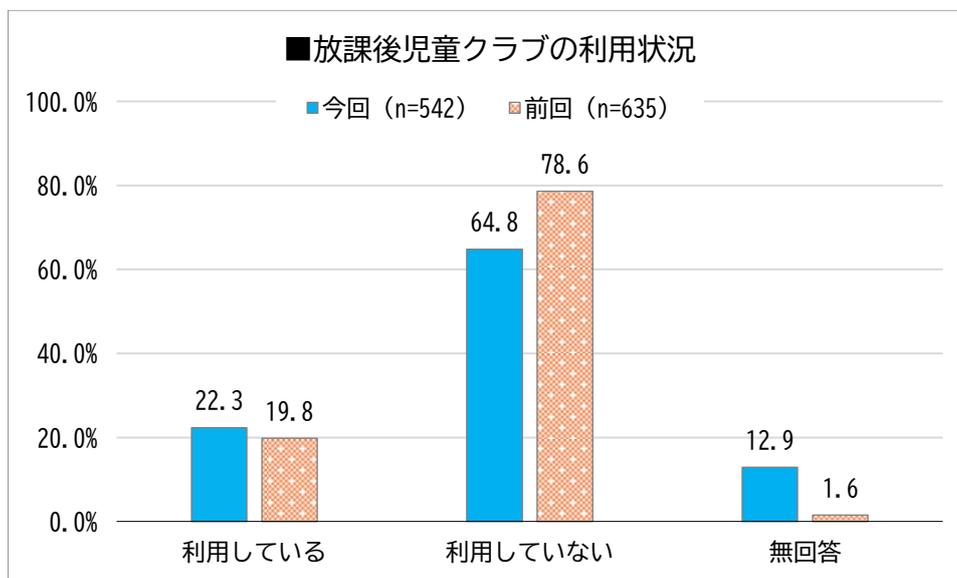


現在働いていない理由については、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」が43.5%で最も高い割合となり、次いで、「その他」が39.1%となっています。「その他」については、子どもの障がいや自身の病気のため、面接が受からないなどの回答がありました。

前回調査と比べ、今回調査では「家族の考え方(親族の理解が得られない)等就労する環境が整っていない」との回答割合が15.7ポイント低下する一方、「働きながら子育てできる適当な仕事がない」との回答割合が23.5ポイント高くなっています。働きたいとする母親の就労条件と地域における求人内容にミスマッチがあることがうかがえます。

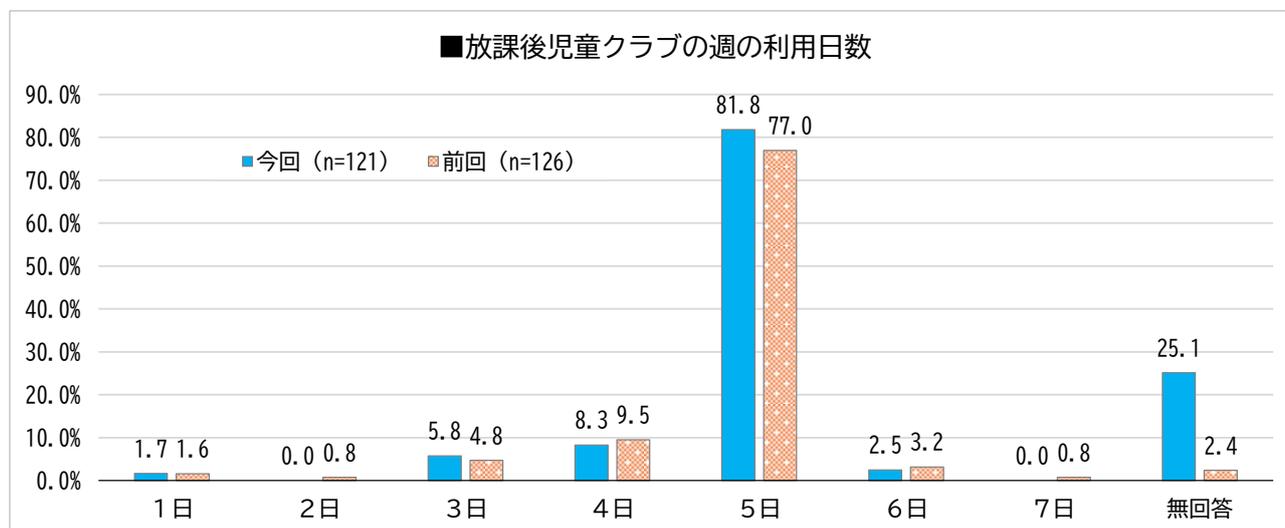
(4) 放課後児童クラブの利用について

問 お子さんについて、現在、放課後児童クラブを利用していますか。

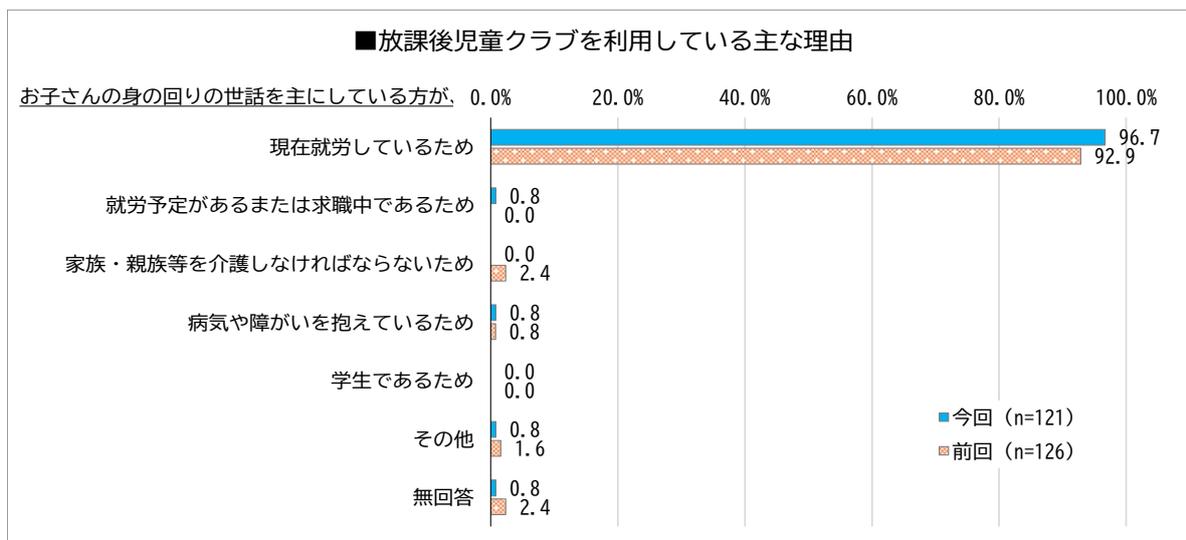


「利用している」が22.3%となっており、前回調査より若干高くなっています。

問 前問で「利用している」を選ばれた方にうかがいます。放課後児童クラブの利用日数はどれくらいですか。また、利用している主な理由についてお答えください。

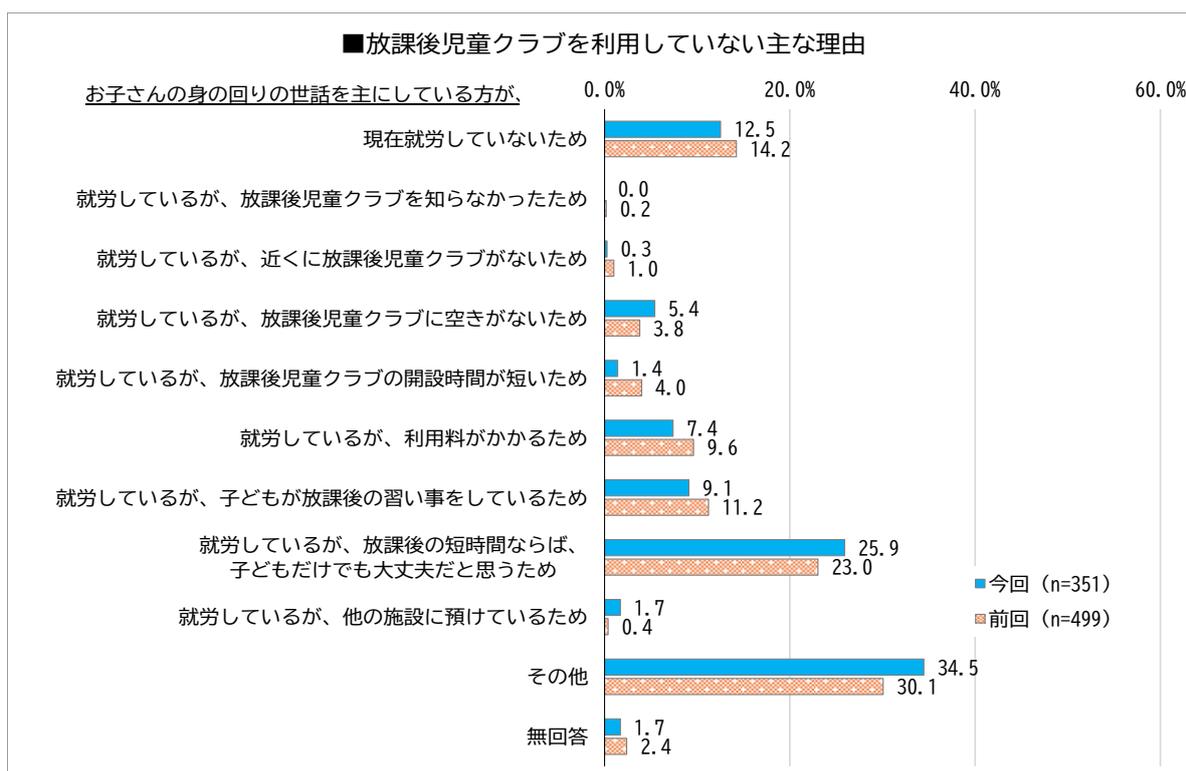


利用日数は、前回同様に「5日」が多くなっています。



前回同様、「現在就労しているため」が最も多くなっています。

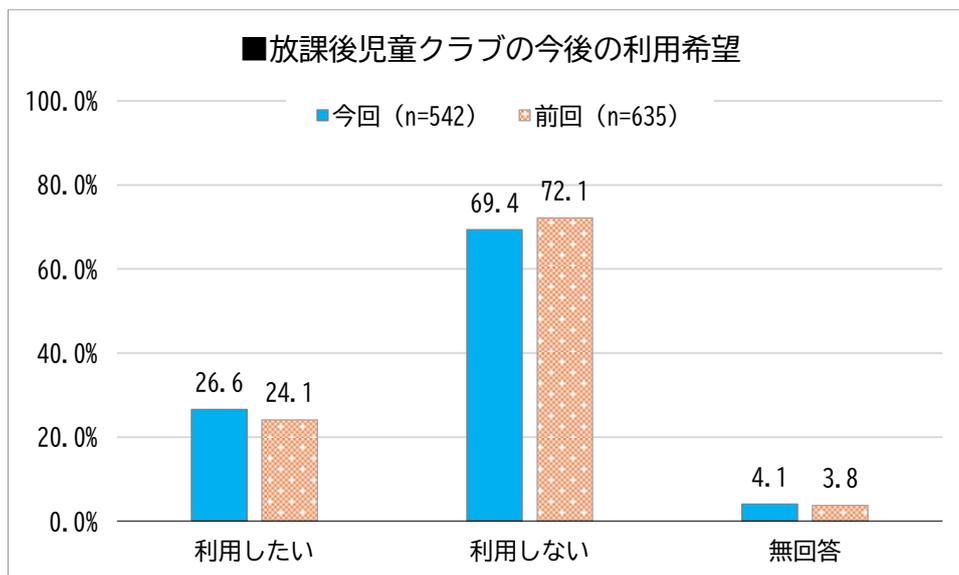
問 前々問で放課後児童クラブについて「利用していない」を選ばれた方にうかがいます。利用していない主な理由についてお答えください。



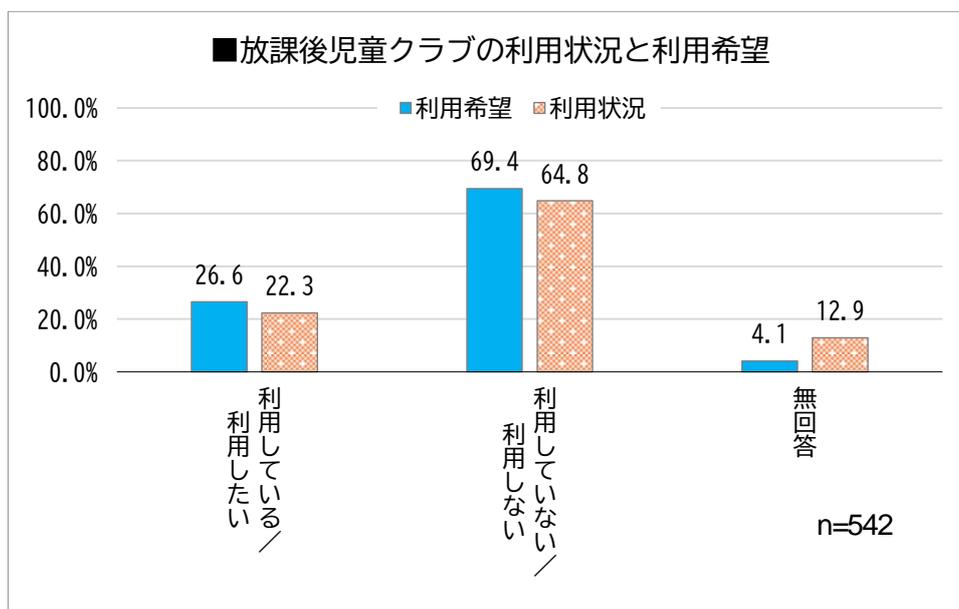
「その他」が34.5%で最も高くなっており、次いで、「就労しているが、放課後の短時間ならば、子どもだけでも大丈夫だと思うため」が25.9%となっています。「その他」については、祖父母がみている、子どもが学校へ行っている間のみ就労している、子どもが児童クラブ利用を嫌がるため、放課後デイサービスを利用している、自営のため親の近くに子どもが入れからなどの回答がありました。

なお、前回調査と今回調査の結果について、全体的には、ほぼ同様の傾向となっています。

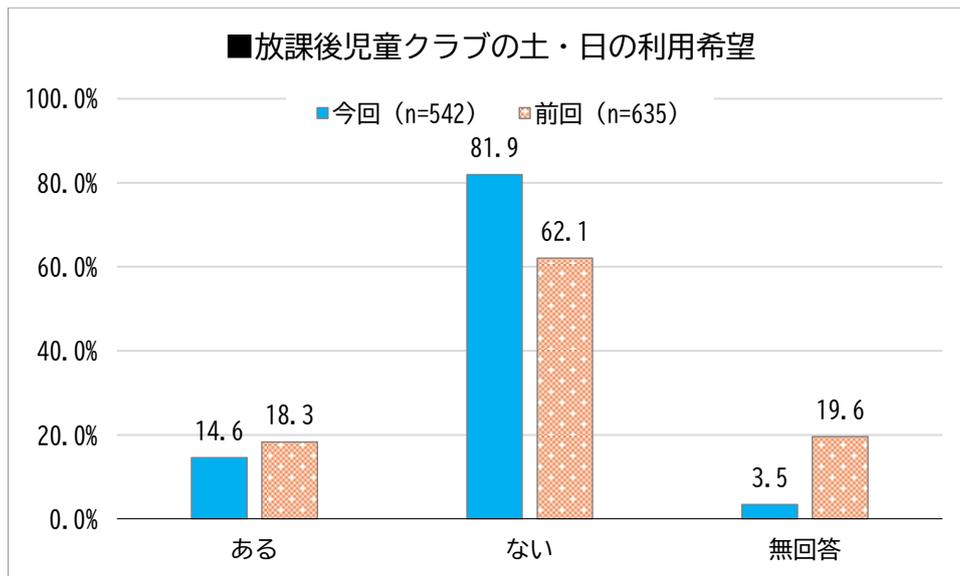
問 すべての方にうかがいます。今後、放課後児童クラブを利用したいと思いますか。また、利用したいを選んだ場合、土・日の利用希望はありますか。



「利用したい」が26.6%、「利用しない」が69.4%となっています。結果については、前回とほぼ同様の傾向となっています。

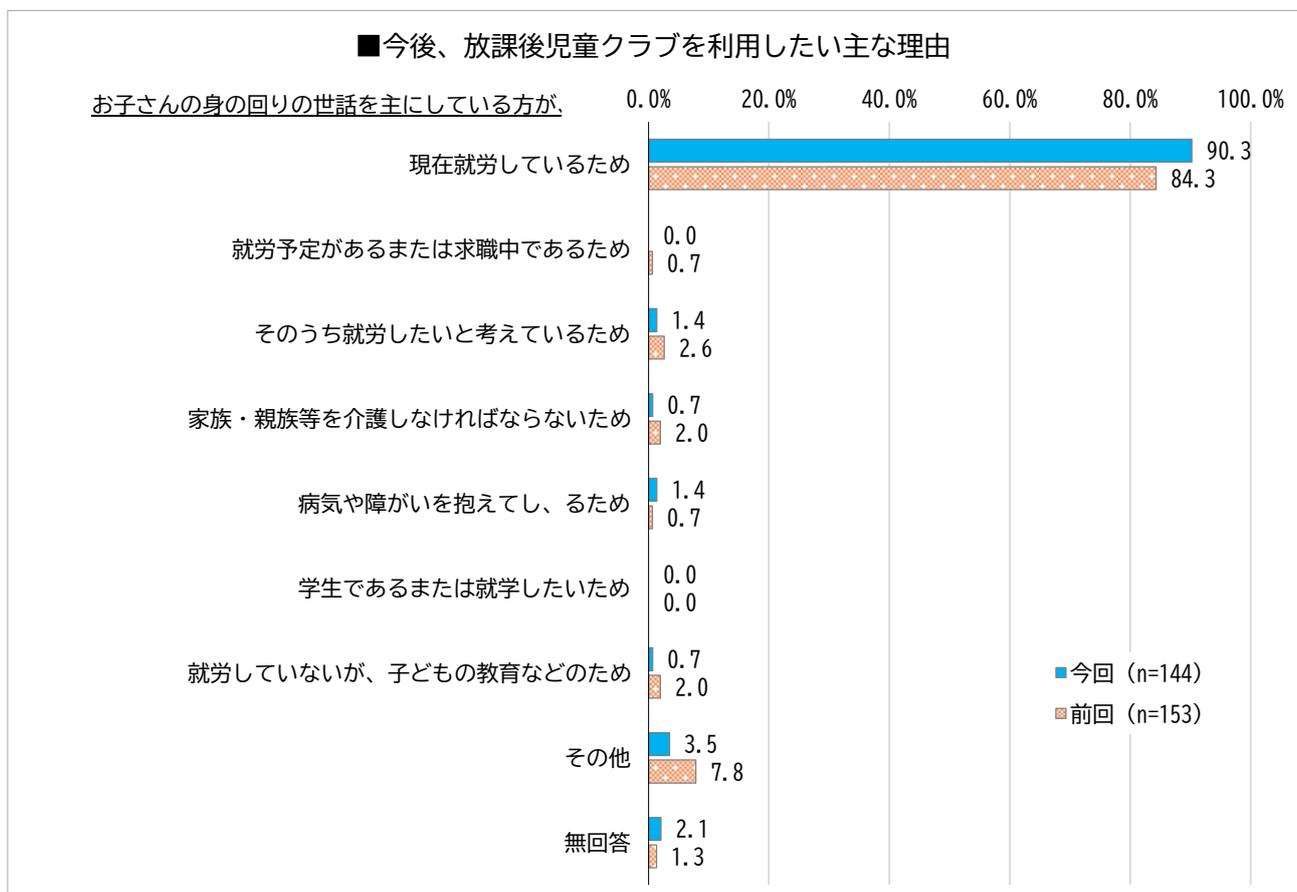


現在の利用状況と今後の利用希望を比べると、「利用している」と「利用したい」、「利用していない」と「利用しない」では、利用希望の方の割合が若干高くなっていますが、大きな差とはなっていないことから、利用人数に関して大きな変動はみられないものと想定されます。



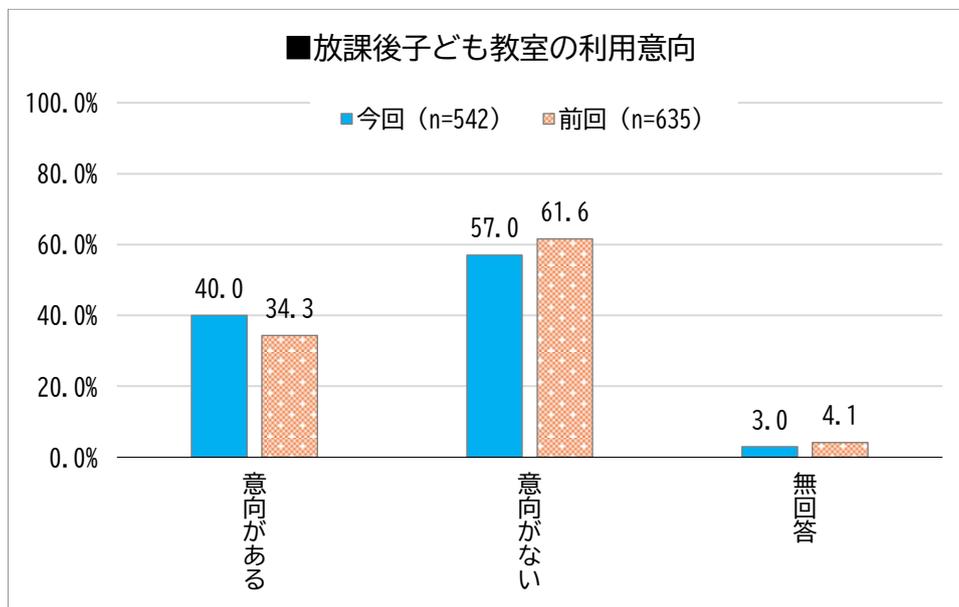
土・日の利用希望については、「ある」が14.6%、「ない」が81.9%となっています。前回調査に比べ、今回調査では、利用を希望する人の割合が若干低下し、希望しない人の割合は19.8ポイント上昇しています。

問 前問で、「利用したい」を選ばれた方にうかがいます。今後、放課後児童クラブを利用したい主な理由についてお答えください。



利用したい主な理由は、前回調査と同様に、「現在就労しているため」が最も多くなっています。

問 放課後児童クラブと連携して行うサービスに放課後子ども教室(すべての子どもたちを対象として、安心・安全な子どもの居場所を提供し、地域の方々の参画を得て、子どもたちとともに勉強やスポーツ・文化芸術活動、地域住民との交流活動等の取組をするものです)がありますが、その利用意向はありますか。

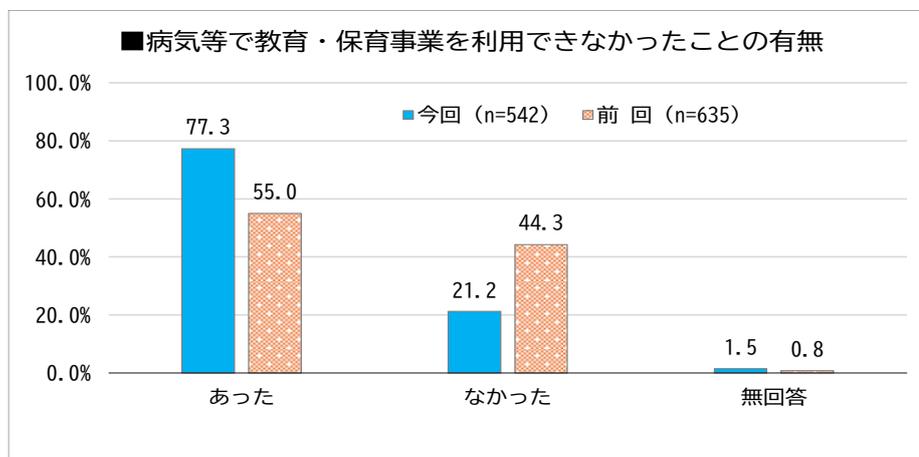


「意向がある」が40.0%、「意向がない」が57.0%となっており、利用意向を持つ人が4割、利用意向のない人が6割弱となりました。

前回と比べ、今回調査では、利用意向がある人の割合が5.7ポイント高くなっています。

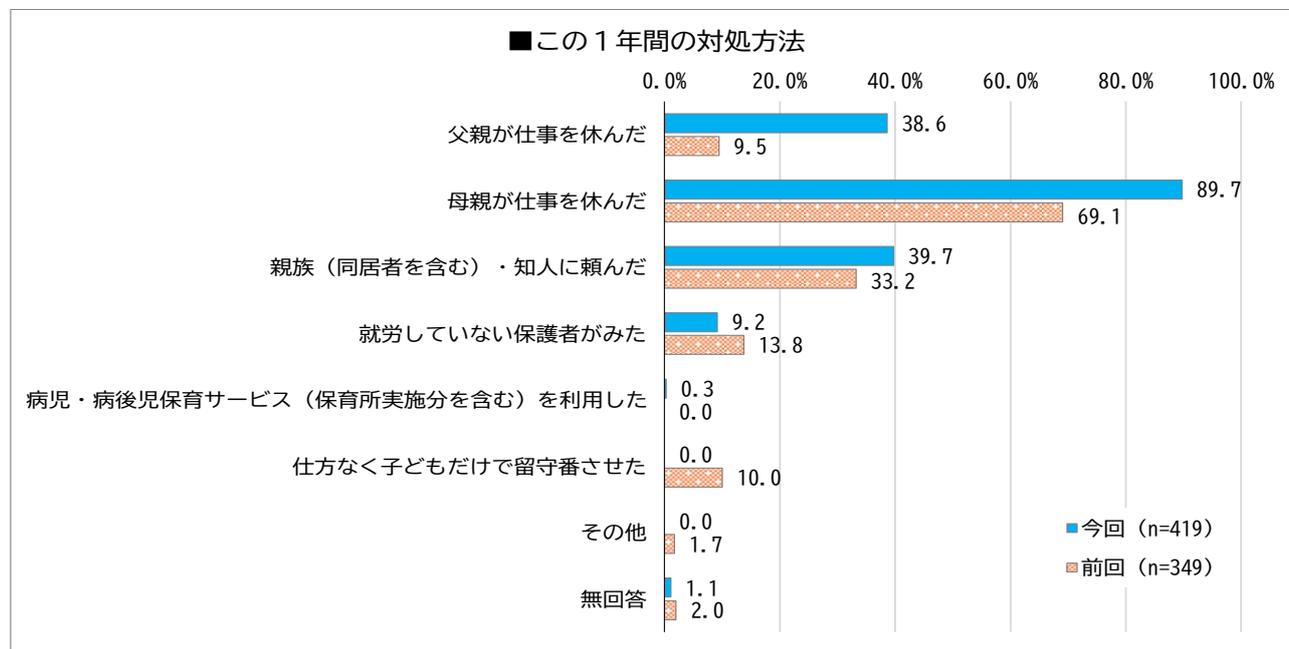
(5) お子さんの病児・病後児保育について

問 この1年間に宛名のお子さんが病気やケガで学校を休まなければならなかったことはありますか。



「あった」が77.3%となっており、前回調査よりも22.3ポイント高くなっています。

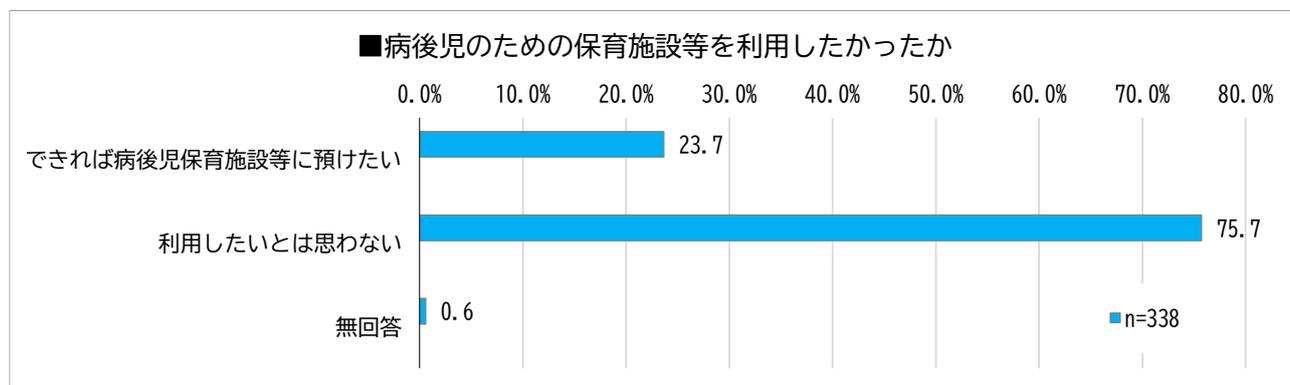
問 前問で「あった」を選んだ方にうかがいます。この1年間にお子さんが病気やケガで学校を休んだり、放課後児童クラブなどの預かりサービスを利用できなかったときの対処方法についてお答えください。



「母親が仕事を休んだ」が89.7%で最も高くなっており、次いで、「親族（同居者を含む）・知人に頼んだ」が39.7%、「父親が仕事を休んだ」が38.6%となっており、上位3項目となっています。

上位3項目については、いずれも前回調査より割合が高くなっていますが、特に、「父親が仕事を休んだ」については、29.1ポイント上昇しています。

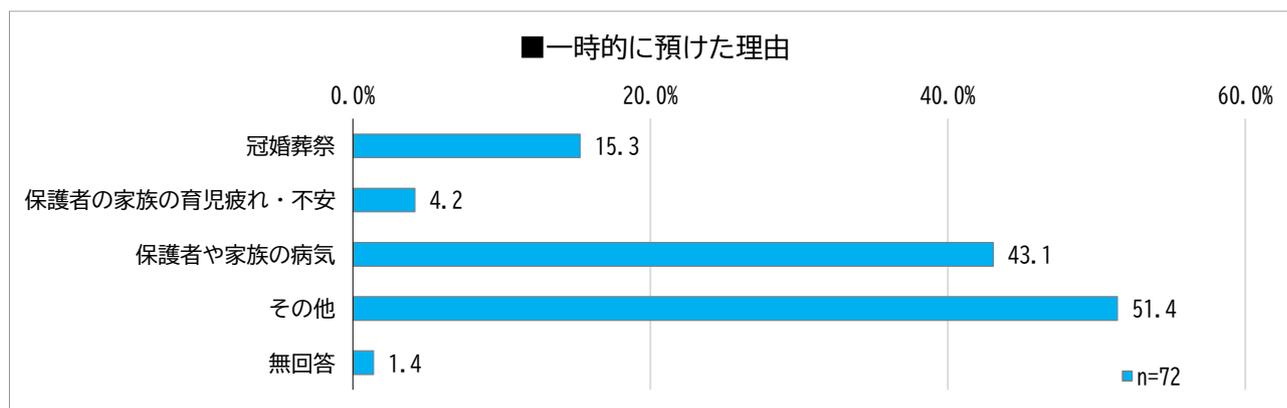
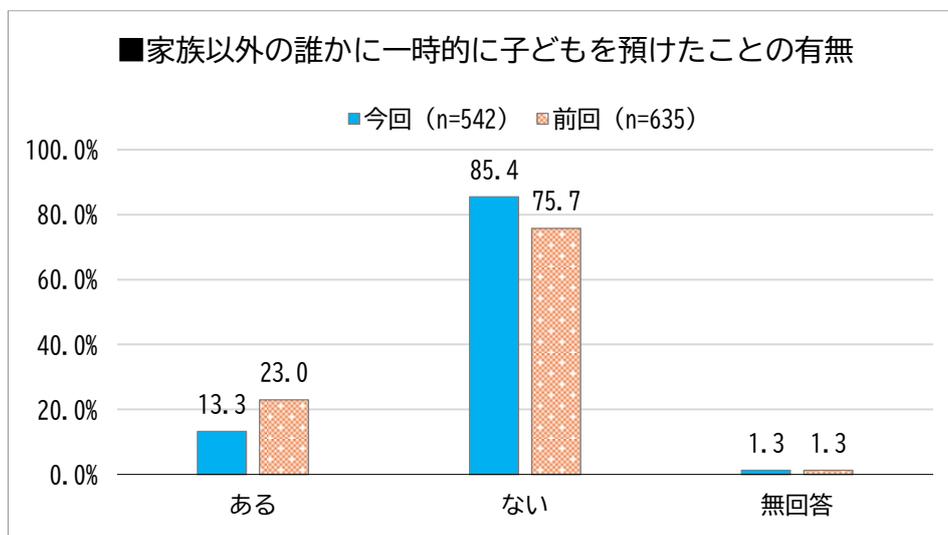
問 前問で「父親が仕事を休んだ」、「母親が仕事を休んだ」のいずれか、または両方を選んだ方にうかがいます。その際、「できれば病後児のための保育施設等を利用したい」と思われましたか。



「できれば病後児保育施設等に預けたい」が23.7%、「利用したいとは思わない」が75.7%となっています。

(6) 子どもの一時預かりについて

問 この1年間で、保護者の用事や体調等の理由でお子さんを家族以外の誰かに一時的に預けたことはありましたか。「ある」場合は、その理由についてもお答えください。

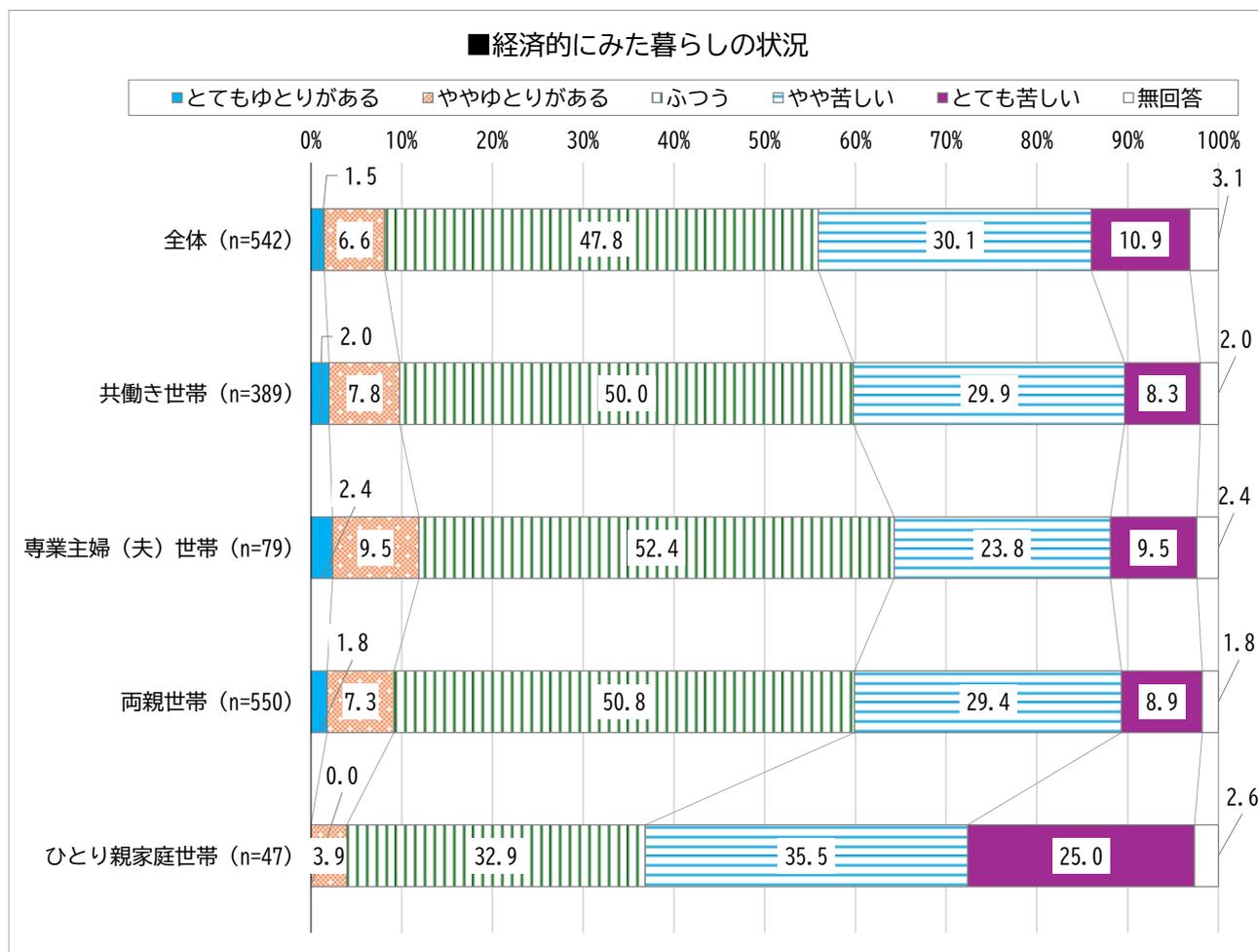


「ある」は13.3%となっていますが、前回調査よりも9.7ポイント低下しています。

預けた理由については、「その他」が51.4%で最も高くなっており、次いで「保護者や家族の病気」が43.1%となっています。「その他」については、保護者の仕事や用事、娯楽、学校の長期休暇期間中に両親が仕事のためなどの回答がありました。

(7) 子育て全般について

問 現在の暮らしの状況を経済的にみてどう感じていますか。



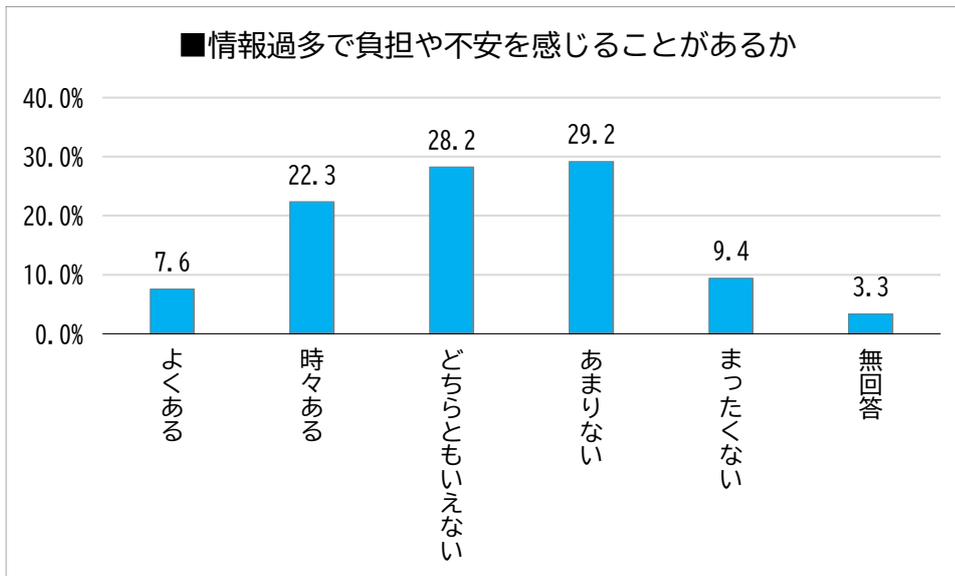
全体では、「ふつう」が47.8%で最も高くなっており、次いで、「やや苦しい」が30.1%となっています。「とてもゆとりがある」と「ややゆとりがある」を合わせたゆとりがあると感じる世帯は8.1%で1割弱、「やや苦しい」と「とても苦しい」を合わせた暮らし向きが苦しいと感じる世帯は41.0%で4割強となっています。

就労状況別にみると、「共働き世帯」、「専業主婦(夫)世帯」とともに「ふつう」が最も高くなっています。一方「やや苦しい」は「共働き世帯」が29.9%、「専業主婦(夫)世帯」が23.8%となっており、「共働き世帯」が6.1ポイント高くなっています。

世帯類型別にみると、「両親世帯」「ふつう」の割合が50.8%で最も高くなっていますが、「ひとり親家庭世帯」では、「やや苦しい」が35.5%で最も高くなっています。また、「ひとり親世帯」では「とても苦しい」が25.0%となっており、他の世帯類型等と比べ高くなっています。

また、「やや苦しい」と「とても苦しい」を合わせた暮らし向きが苦しいと感じる世帯は「ひとり親世帯」が60.5%で、約6割となっており、全体の4割強に比べ2割近く高くなっています。

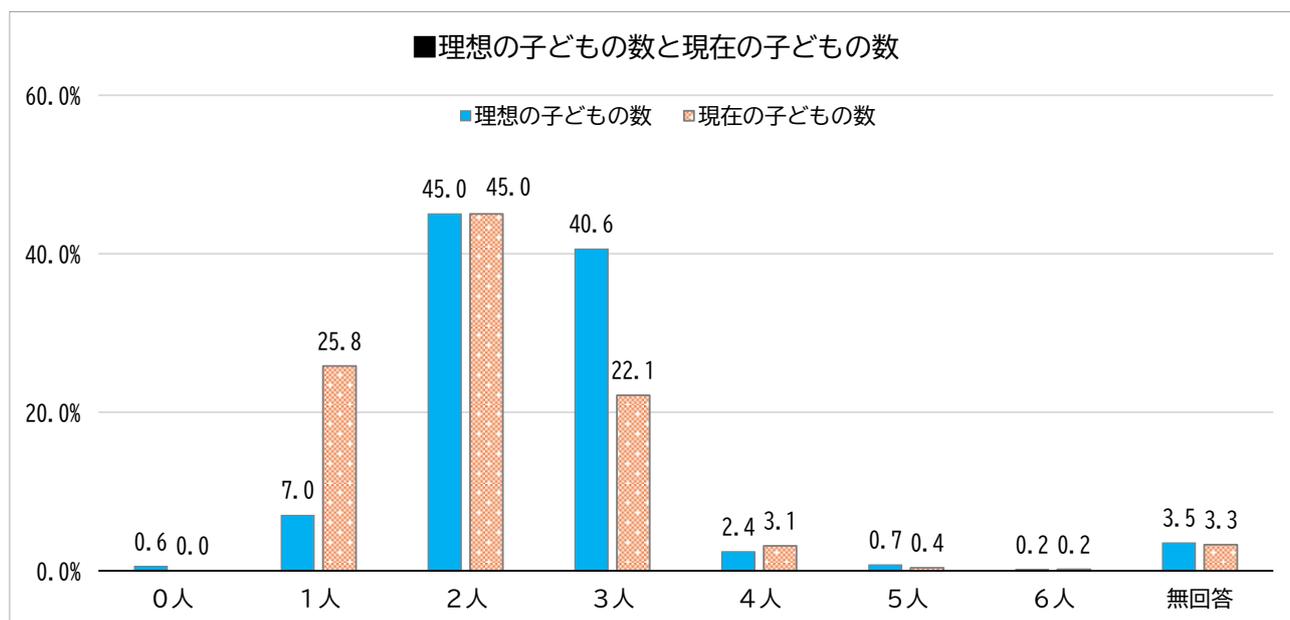
問 様々な子育てに関する情報を入手する中で、情報が多すぎて何をすればよいかわからなくなり、負担や不安を感じることがありますか。



「よくある」が7.6%、「時々ある」が22.3%で、合わせて29.9%となり、3割弱の人が負担や不安を感じているという結果となりました。

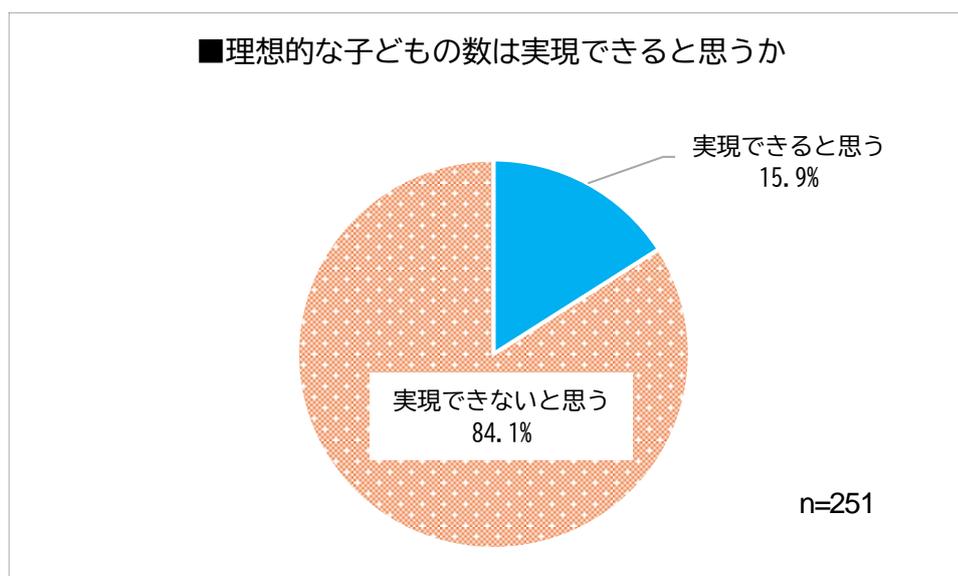
今後、負担や不安を軽減するため、正しい情報の入手先の周知などが必要と考えられます、

問 あなたにとって、理想的な子どもの数は何人ですか。



理想の子どもの数は「2人」が45.0%で最も高く、次いで、「3人」が40.6%となっています。現在の子どもの数は、「2人」が45.0%で最も高く、次いで、「1人」が25.8%となっています。現状では、「1人」が理想より高く、「3人」が理想より低い状況となっています。

問 前問で現在のお子さんの数よりも多い人数を答えた方にうかがいます。理想的な子どもの数は実現できると思いますか。



「実現できると思う」が15.9%、「実現できないと思う」が84.1%となっています。